

○「県政モニター制度」とは

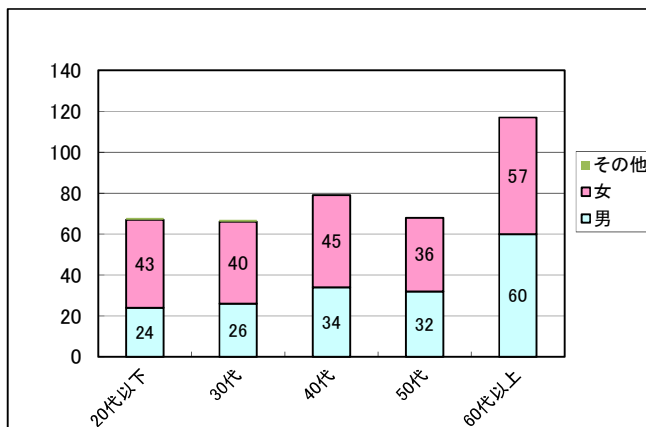
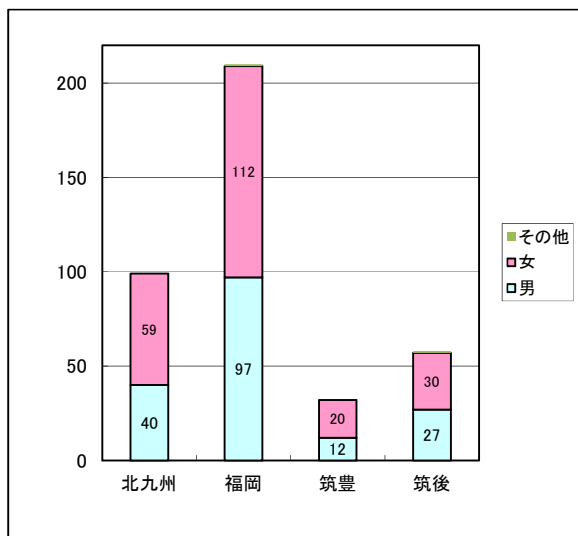
県政に対する県民の意見・要望等を組織的かつ継続的に把握し、県政に活かすことを目的として、県内にお住まいの18歳以上の方から、県政に関心をお持ちの方400名を公募により選定し、約1年間県政モニターとして活動していただくものです。

県政モニターとして選定された方には、年に数回実施される「モニターアンケート」への回答や、県の施策や事業に関して自由に意見等を提出する「モニター提案」を通じて、活動を行っていただきます。

【令和5年度県政モニターの内訳（第1回）】

県内各地区から幅広く御意見等をいただくため、国勢調査結果による県内の人口構成を基礎に、特定の性別、年代、地域に偏らないよう、モニターを選定しています。

地区		北九州				福岡				筑豊				筑後				合計			
性別	年齢別	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
				40	59	0	99	97	112	1	210	12	20	0	32	27	30	1	58	176	221
	18～29歳	5	11	0	16	15	19	1	35	0	6	0	6	4	7	0	11	24	43	1	68
	30～39歳	4	11	0	15	16	20	0	36	1	4	0	5	5	5	1	11	26	40	1	67
	40～49歳	7	12	0	19	20	22	0	42	3	3	0	6	4	8	0	12	34	45	0	79
	50～59歳	8	10	0	18	17	18	0	35	2	2	0	4	5	6	0	11	32	36	0	68
	60歳～	16	15	0	31	29	33	0	62	6	5	0	11	9	4	0	13	60	57	0	117



○「県政モニター制度」とは

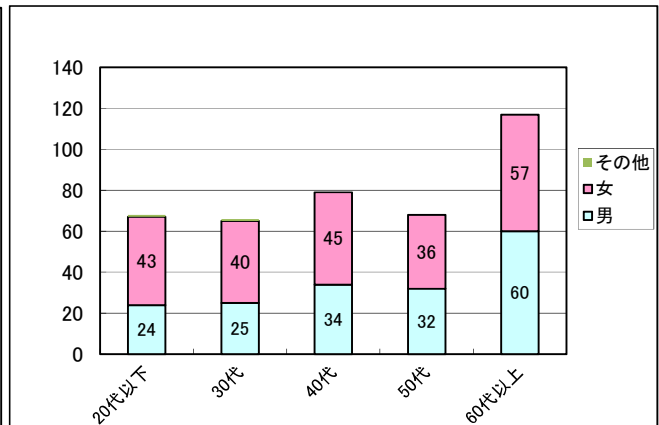
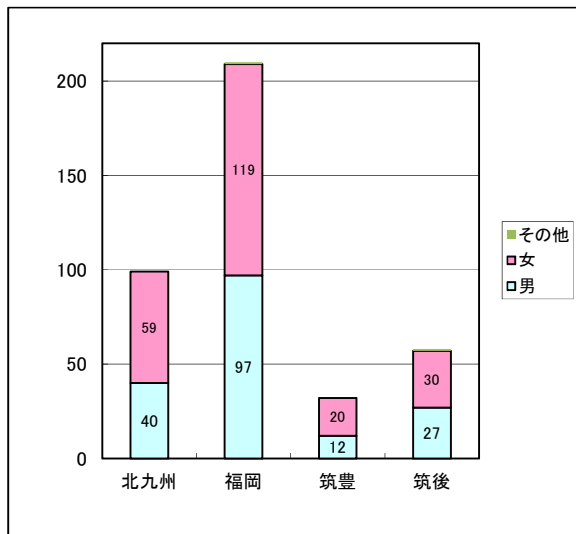
県政に対する県民の意見・要望等を組織的かつ継続的に把握し、県政に活かすことを目的として、県内にお住まいの18歳以上の方から、県政に関心をお持ちの方400名を公募により選定し、約1年間県政モニターとして活動していただくものです。

県政モニターとして選定された方には、年に数回実施される「モニターアンケート」への回答や、県の施策や事業に関して自由に意見等を提出する「モニター提案」を通じて、活動を行っていただきます。

【令和5年度県政モニターの内訳（第2回～第6回）】

県内各地区から幅広く御意見等をいただくため、国勢調査結果による県内の人口構成を基礎に、特定の性別、年代、地域に偏らないよう、モニターを選定しています。

地区		北九州				福岡				筑豊				筑後				合計			
性別	年齢別	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計	男性	女性	その他	計
				40	59	0	99	96	112	1	209	12	20	0	32	27	30	1	58	175	221
	18～29歳	5	11	0	16	15	19	1	35	0	6	0	6	4	7	0	11	24	43	1	68
	30～39歳	4	11	0	15	15	20	0	35	1	4	0	5	5	5	1	11	25	40	1	66
	40～49歳	7	12	0	19	20	22	0	42	3	3	0	6	4	8	0	12	34	45	0	79
	50～59歳	8	10	0	18	17	18	0	35	2	2	0	4	5	6	0	11	32	36	0	68
	60歳～	16	15	0	31	29	33	0	62	6	5	0	11	9	4	0	13	60	57	0	117



令和5年度第1回県政モニターアンケート

(回答者構成)

項目		計		北九州	福岡	筑後	筑豊
		人数(人)	構成比				
総数	人数	374		91	198	56	29
	構成比		100.0%	24.3%	52.9%	15.0%	7.8%
性別	女性	206	55.1%	55	105	28	18
	男性	166	44.4%	36	92	27	11
	その他	2	0.5%	0	1	0	1
年代別	20代以下	61	16.3%	15	32	10	4
	30代	64	17.1%	14	34	11	5
	40代	72	19.3%	16	39	12	5
	50代	66	17.6%	17	35	10	4
	60代	82	21.9%	23	39	12	8
	70代以上	29	7.8%	6	19	1	3

モニター数 399人

回答数 374人

回収率 93.73%

実施期間 R5.7.13~R5.7.31

【回答結果の注意点】

- ・ 集計は小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は、必ずしも100%にならない場合がある。
- ・ 2以上の回答（複数回答）を要する設問の場合、その回答比率の合計は、100%を超える場合がある。

男女共同参画社会の推進について

【調査の目的】

経済のグローバル化や少子高齢化、人口減少など、私たちを取り巻く環境が急速に変化していく中、誰もが、社会のあらゆる分野で自分に合った生き方を選択し、個人として持つ能力を発揮することができるジェンダー平等・男女共同参画社会の実現は、大変重要です。

福岡県では、「第5次福岡県男女共同参画計画」（計画期間：令和3年度～令和7年度）を策定し、「男女がともに個性と能力を発揮できる豊かで活力ある社会」等を目指し、様々な施策・事業を推進しているところです。また、DV（ドメスティック・バイオレンス）をはじめとする女性に対する暴力は依然として深刻であり、社会的・経済的に厳しい状況にある女性への支援も、ジェンダー平等・男女共同参画社会を実現していく上で重視すべき課題です。

また、令和3年6月には「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が改正され、男女を問わず立候補や議員活動をしやすい環境整備等を行うため、啓発活動や性的な言動等に起因する問題への対応等さらなる取組が求められています。

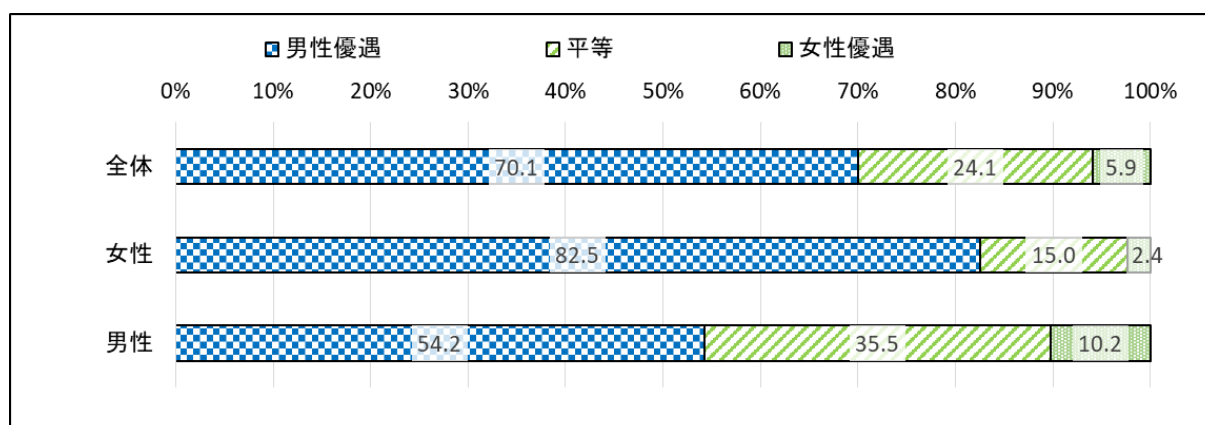
こうしたことから、今後のジェンダー平等・男女共同参画を推進する施策を検討・企画する上での基礎資料とするため、県民の皆さんのジェンダー平等・男女共同参画に関する意識や実態を把握し、また、DVの被害者支援は、被害にあわれた方が早期に相談されることが肝要であることから、その相談窓口の周知度等を把握するため、調査を実施するものです。

(人づくり・県民生活部男女共同参画推進課)

問1 あなたは、普段の生活で男女の地位が平等だと感じますか。

【回答内容】

全体では、「男性優遇」と感じる人が70.1%、「平等」と感じる人が24.1%、「女性優遇」と感じる人が5.9%となっている。一方で、男性において「男性優遇」と感じる人は約5割程だが、女性においては約8割を占めるなど、女性のほうがより強く「男性優遇」と感じていることがわかる。

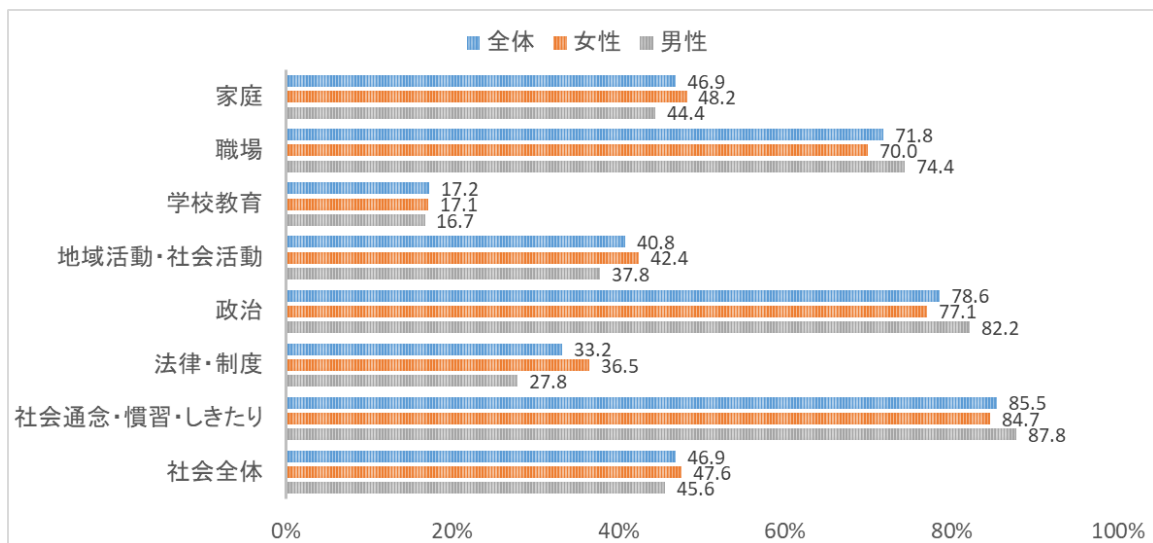


問1-2 (問1で「1. 男性優遇」または「3. 女性優遇」と答えた人にお尋ねします。)
あなたは普段どの場面で男性優遇または女性優遇と感じますか。

【回答】

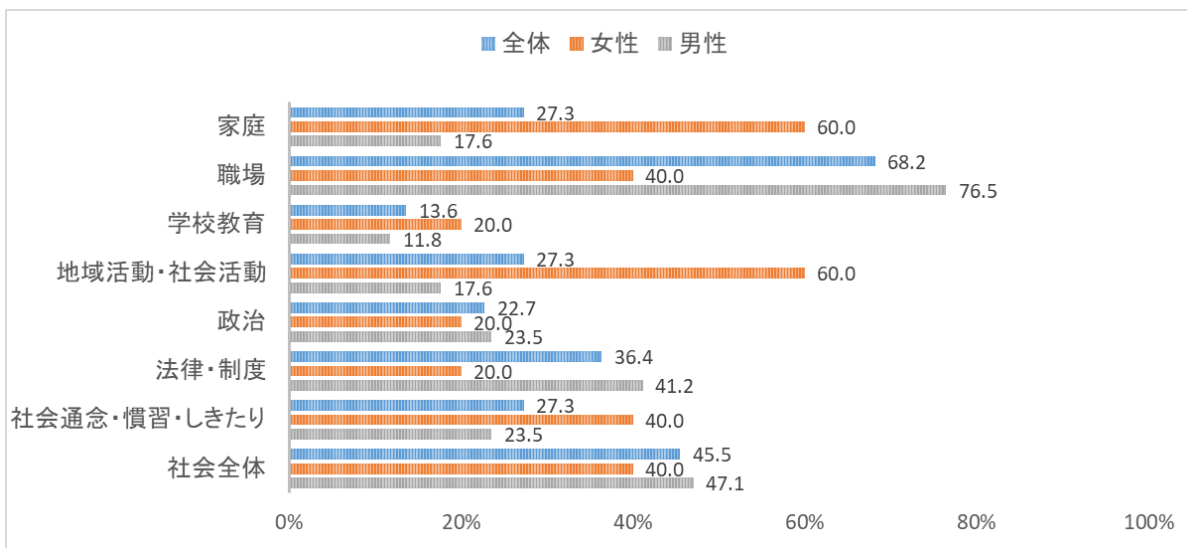
問1で「1. 男性優遇」と答えた人では順に、「社会通念・慣習・しきたり」、「政治」、「職場」を挙げた人の割合が多く、「3. 女性優遇」と答えた人では、「職場」を挙げた人の割合が68.2%と突出していた。また、「1. 男性優遇」と答えた人では回答における男女差が少なかったのに対し、「3. 女性優遇」と答えた人では、「家庭」、「職場」、「地域活動・社会活動」において男女の回答に大きな差がみられた。

「1. 男性優遇」と答えた人



(回答者数：全体 262 人、女性 170 人、男性 90 人、その他 2 人)

「3. 女性優遇」と答えた人

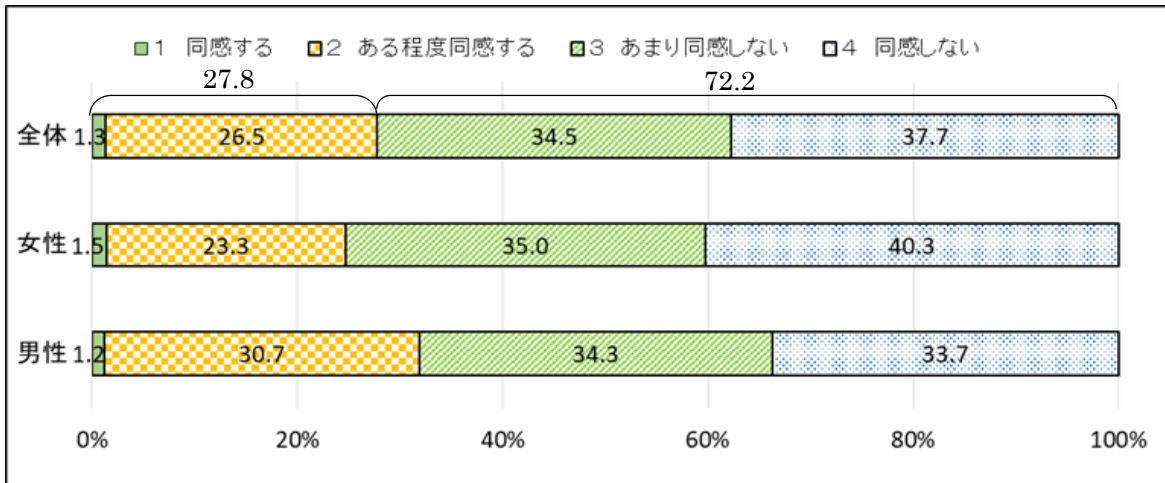


(回答者数：全体 22 人、女性 5 人、男性 17 人)

問2 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。

【回答内容】

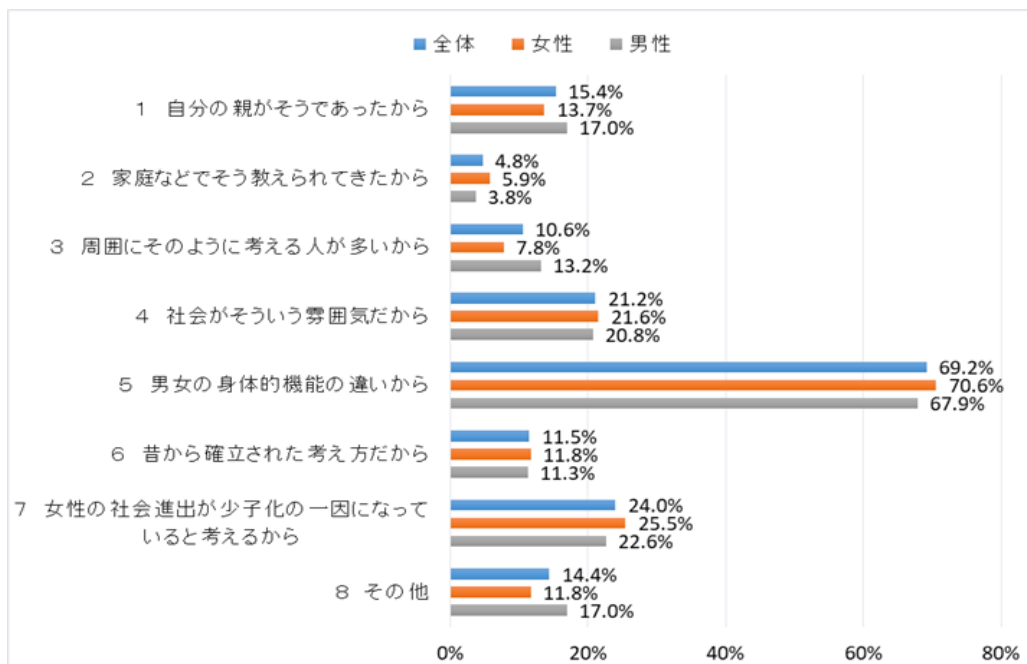
全体では、「同感する」「ある程度同感する」を合わせた「賛成派」が27.8%で、「同感しない」「あまり同感しない」を合わせた「反対派」が72.2%となっており、性別役割分担意識を容認しない人の割合が多くなっている。



問2-2 (問2で「1. 同感する」、「2. ある程度同感する」と答えた人にお尋ねします。) あなたが、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、そのように考える理由は何ですか。(〇は2つまで)

【回答】

全体では、「男女の身体的機能の違い」を挙げる人(69.2%)の割合が最も多く、次いで、「女性の社会進出が少子化の一因になっていると考えるから」(24.0%)となっている。



(回答者数：全体 104 人、女性 51 人、男性 53 人)

問3 あなたは、DV（ドメスティック・バイオレンス）について相談できる窓口があることを知っていますか。

※DV（ドメスティック・バイオレンス）とは

配偶者（事実婚を含む）や交際相手からの暴力をいいます。

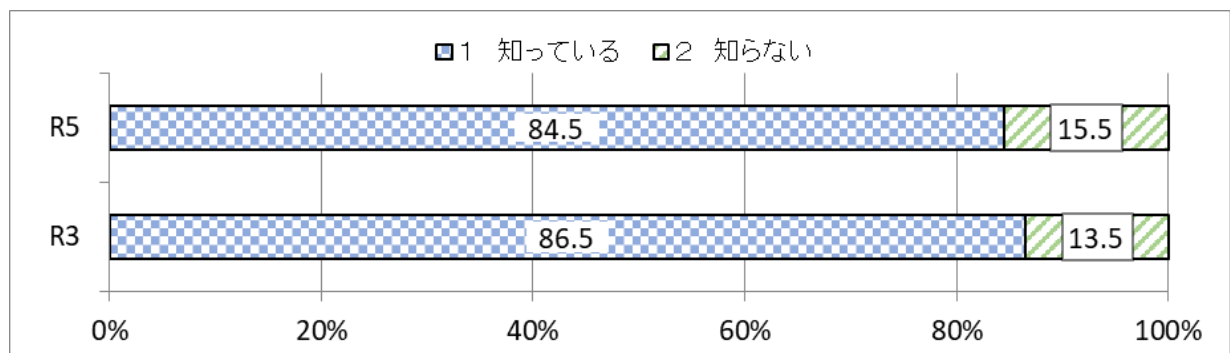
【DVの事例】

身体的暴力	殴る、蹴る、物を投げつける など
精神的暴力	大声でどなる、無視する、外出・電話を制限する など
性的暴力	性行為の強要、避妊に協力しない など
経済的暴力	借金をさせる、生活費を渡さない など
子どもを利用した暴力	子どもに悪口を吹き込む など

※県内12ヶ所の配偶者暴力相談支援センター、男性DV被害者のための相談ホットライン、LGBTの方のDV被害者相談ホットラインで、相談を受け付けています。

【回答内容】

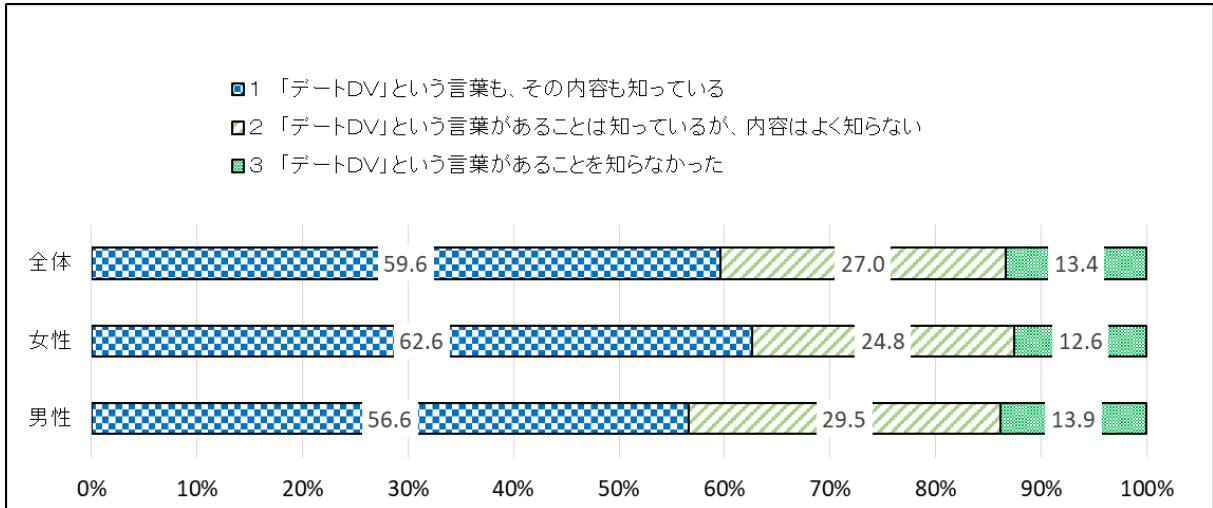
DV（ドメスティック・バイオレンス）について相談できる窓口があることを知っているという回答した人の割合は、84.5%と、前回調査時からやや減少したものの、8割を超える認知度を保っている。



問4 あなたは、「交際相手からの暴力」（いわゆる「デートDV」）について、知っていますか。

【回答内容】

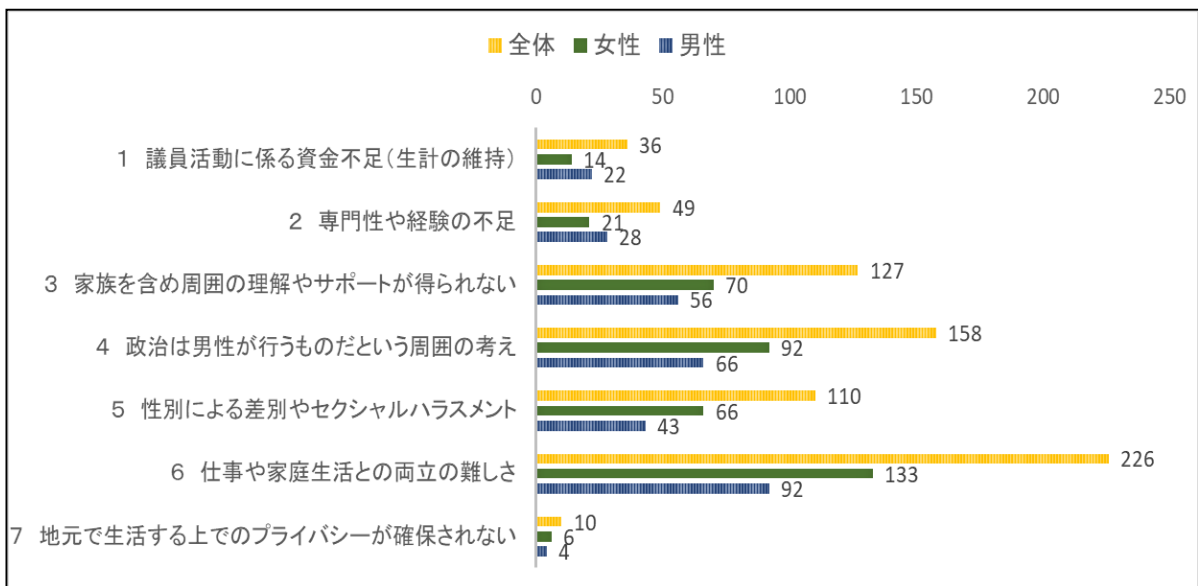
全体では、「言葉も、その内容も知っている」が59.6%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が27.0%、「言葉があることを知らなかった」が13.4%となっている。



問5 政治分野における男女共同参画の推進に向けて、女性が政治に参画する上で、何が課題となっていると思いますか。（〇は2つまで）

【回答内容】

男性、女性ともに「仕事や家庭生活との両立の難しさ」の回答が最も多く、次いで「政治は男性が行うものだという周囲の考え」が多くなっている。

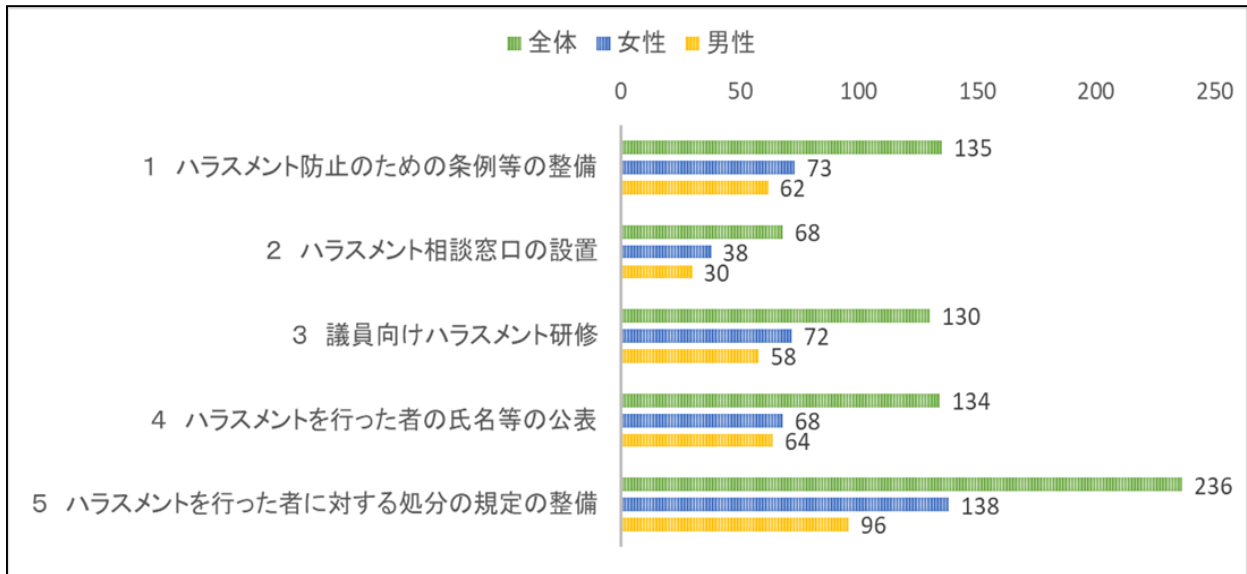


(回答者数：全体 374 人、女性 206 人、男性 166 人、その他 2 人)

問6 政治分野におけるハラスメントを根絶し、女性をはじめ誰もが政治に参画しやすい環境を整えるためには、どのような取り組みが有効だと思いますか。(〇は2つまで)

【回答内容】

男性、女性ともに「ハラスメントを行った者に対する処分の規定の整備」が最も多く、男性と比較してより多くの女性が「ハラスメントを行った者に対する処分の規定の整備」を望んでいる。その他の項目について回答内容に大きな男女差は見られない。



(回答者数：全体 374 人、女性 206 人、男性 166 人、その他 2 人)

問7 男女共同参画の推進について、これまでの設問以外に意見はありますか。

【回答内容】（意見抜粋）

- ・「ジェンダー平等・男女共同参画」という言葉自体がわかりにくさや、堅苦しさを感じます。学問的、専門的な表現で浸透しない原因もそこにあるのでは無いかと思います。
- ・近年、かなりジェンダー平等ということについて、進んできたように思えるが、まだまだ、根強い慣習やしきたり、社会通念のような感じは払拭できない部分があると感じています。
- ・大人への取り組みと同時に、子供・若い世代への周知も非常に大事だと考えます。小中学の授業に取り入れたり、授業参観や学校行事などを通して、親や地域住民へも理解を深めていけば良いのではと考えます。
- ・地域社会において、意思決定の場面では、まだまだ男性の意見、特に高齢男性の発言が強い現実があります。地道に、各世代の女性たちが地域社会での役割をこなし経験を積み上げる時間が必要だと思います。また、学び直しの機会も欲しいです。
- ・行政から企業へ産休育休から復帰しやすい制度をしくように働きかけるなど、産後も安心して働ける世の中を作っていただきたいです。そうすれば、男性も女性問わず様々な年代の方が生き生きと輝く福岡県になっていくと考えます。
- ・女性の管理職や政治家の数が少なく、子育てや家庭と両立できるイメージが湧かないのは大きいのではないかと感じます。制度が変わってきていることは、良いと思うのですが、もっと女性の管理職や政治家などが増えると、働き方の多様性も出てイメージしやすくなると思います。
- ・女性議員の比率が世界でワーストというのが現状を表している。まずは女性割合目標を本気で達成させてほしい。その為にどんな政策が必要なのか若い世代の意見を広く聞いてあげてほしいです。

<自転車の安全利用について>

【調査の目的】

自転車は、通学、通勤、買い物などの身近な交通手段として、子供から高齢者まで幅広い年齢層に利用されています。

しかしながら、不幸にして、自転車乗車中に事故に遭い、亡くなられた方の約6割は頭部に致命傷を負っていたというデータがあります。

このような中、令和5年4月1日より改正道路交通法が施行されたことにより、全ての自転車利用者について、乗車用ヘルメットの着用が努力義務となりました。

また、そのことに伴い、本県においても、「福岡県自転車の安全で適正な利用の促進及び活用の推進に関する条例」を一部改正したところです(※)。

つきましては、道路交通法や自転車条例の改正の認知度、自転車乗車用ヘルメットの着用などについて、ご意見をお聞かせください。今後の施策の参考とさせていただきます。

【活用状況】

・自転車乗車用ヘルメットの着用を促進するための参考資料として活用。

・効果的な広報啓発を行うための参考資料として活用。

(人づくり・県民生活部生活安全課)

※ 福岡県自転車の安全で適正な利用の促進及び活用の推進に関する条例とは

県民が安心して暮らし、活力ある地域社会の実現に寄与するため、以下の事項等を規定している条例

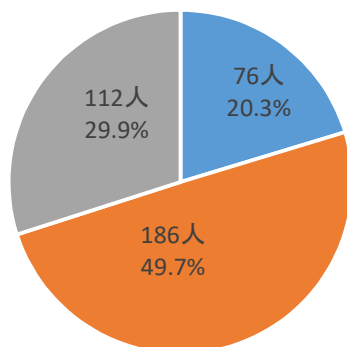
- (1) 自転車の安全利用の促進
- (2) 交通安全教育の充実
- (3) 自転車損害賠償保険への加入義務化
- (4) 事故の際の負傷者の救護・警察への報告義務
- (5) 自転車の活用推進

問1 あなたは、「福岡県自転車の安全で適正な利用の促進及び活用の推進に関する条例(福岡県自転車条例)」を知っていますか。

次の中から【1つだけ】選んでください。

(n=374 選択は1つのみ)

1 条例があることも、その内容も知っている	20.3%	(76人)
2 条例があることは知っているが、内容はよく知らない	49.7%	(186人)
3 条例があることも、その内容も知らなかった	29.9%	(112人)



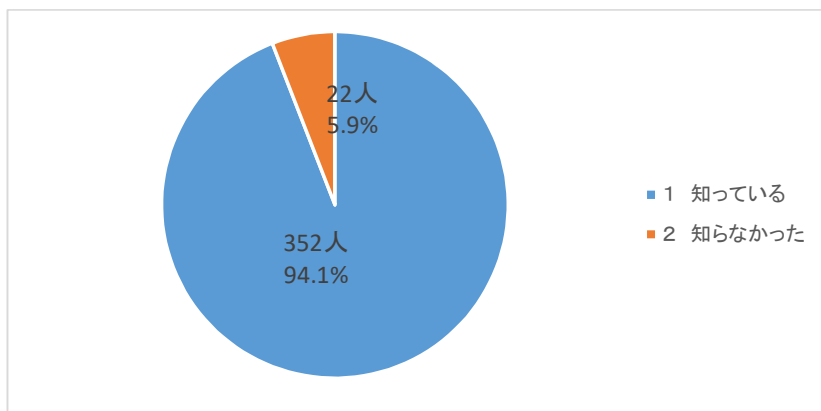
- 1 条例があることも、その内容も知っている
- 2 条例があることは知っているが、内容はよく知らない
- 3 条例があることも、その内容も知らなかった

問2 道路交通法の改正(令和5年4月1日施行)により、全ての自転車利用者に対し、乗車用ヘルメット着用の努力義務が課されました。あなたは、乗車用ヘルメット着用の努力義務化についてご存知ですか。

次の中から【1つだけ】選んでください。

(n=374 選択は1つのみ)

1 知っている	94.1%	(352人)
2 知らなかった	5.9%	(22人)



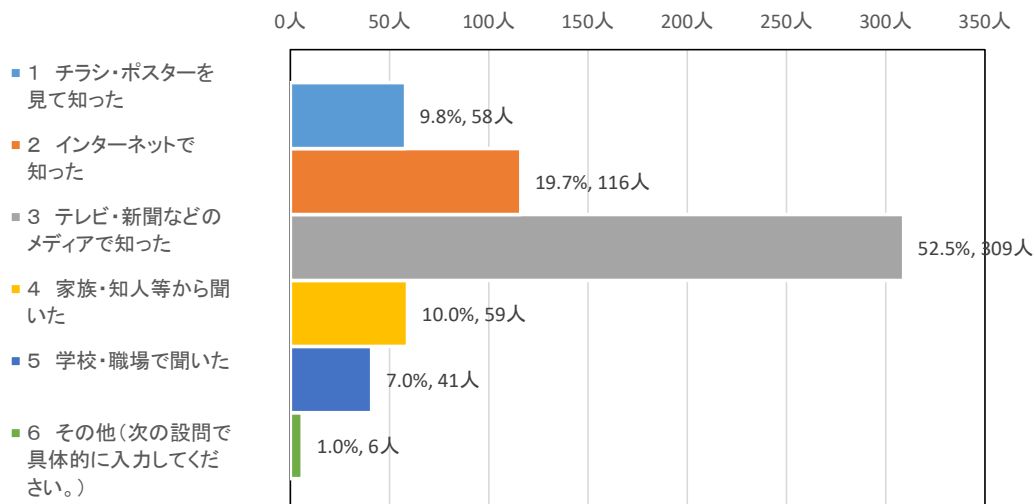
問2-2 (問2で「知っている」を選んだ方にお聞きします。)

あなたは自転車利用者に対し、乗車用ヘルメット着用の努力義務が課されたことをどのように知りましたか。

次の中から当てはまるもの【全て】を選んでください。

(回答件数589件、複数選択可)

1 チラシ・ポスターを見て知った	9.8%	(58人)
2 インターネットで知った	19.7%	(116人)
3 テレビ・新聞などのメディアで知った	52.5%	(309人)
4 家族・知人等から聞いた	10.0%	(59人)
5 学校・職場で聞いた	7.0%	(41人)
6 その他(次の設問で具体的に記入してください。)	1.0%	(6人)

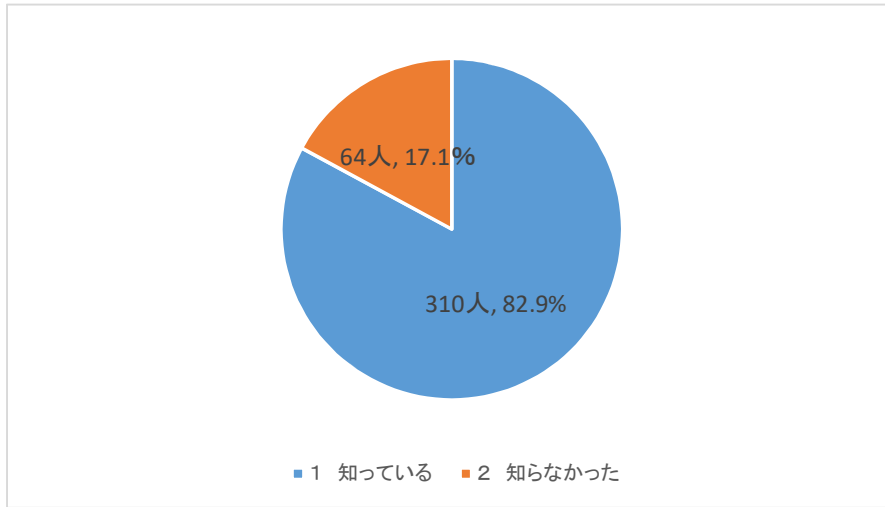


問3 自転車乗車中に事故に遭い、亡なられた方の約6割は頭部に致命傷を負っていた、また、ヘルメットの着用により致死率が約4分の1に下がるというデータがあります。あなたは、自転車乗車中の事故について、頭部を守ることの重要性をご存じですか。

次の中から【1つだけ】選んでください。

(n=374 選択は1つのみ)

1 知っている	82.9%	(310人)
2 知らなかった	17.1%	(64人)



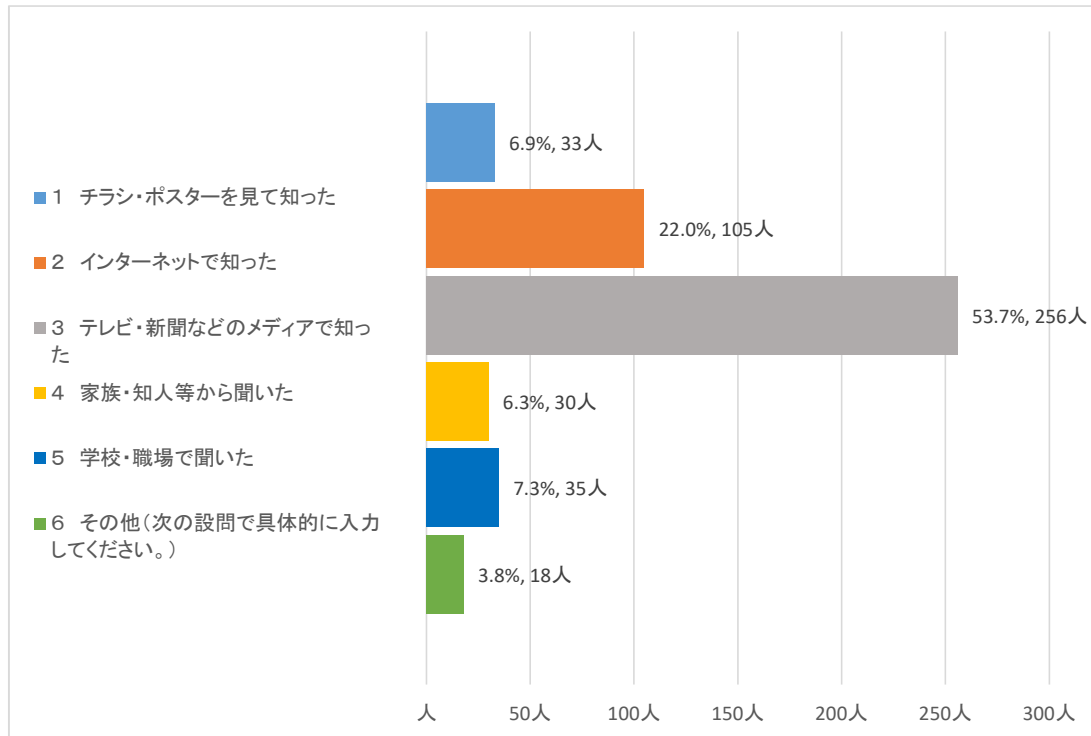
問3-2 (問3で「知っている」を選んだ方にお聞きします。)

あなたは自転車乗車中の事故について、頭部を守ることの重要性をどのように知りましたか。

次の中から当てはまるもの【全て】を選んでください。

(回答件数=477 複数選択可)

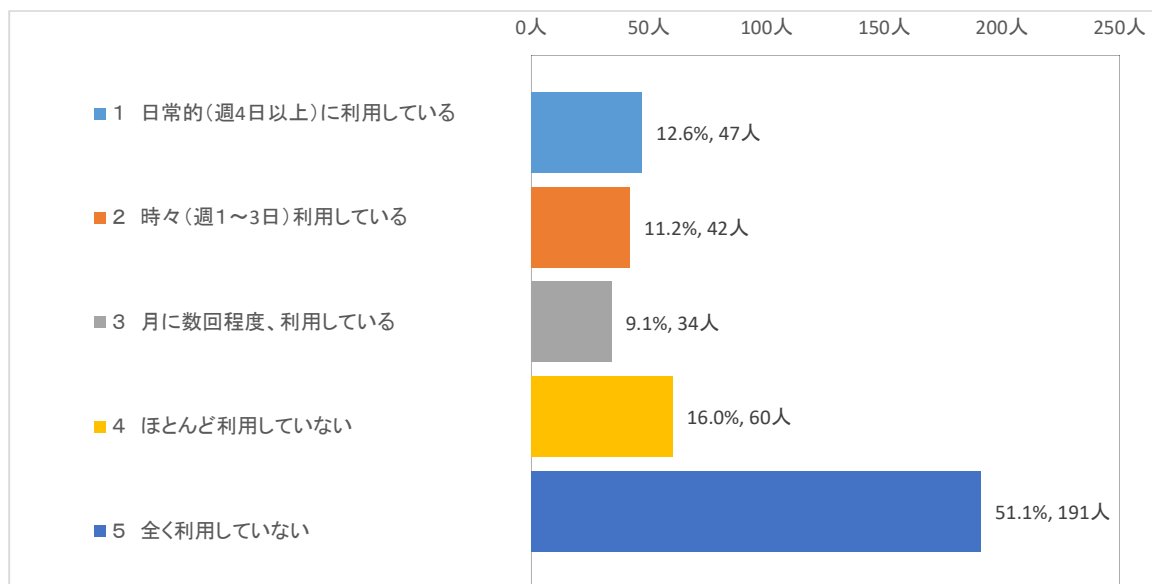
1 チラシ・ポスターを見て知った	6.9%	(33人)
2 インターネットで知った	22.0%	(105人)
3 テレビ・新聞などのメディアで知った	53.7%	(256人)
4 家族・知人等から聞いた	6.3%	(30人)
5 学校・職場で聞いた	7.3%	(35人)
6 その他(次の設問で具体的に入力してください。)	3.8%	(18人)



問4 あなたは、自転車を利用しますか。
次の中から最も当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

(n=374件 選択は1つのみ)

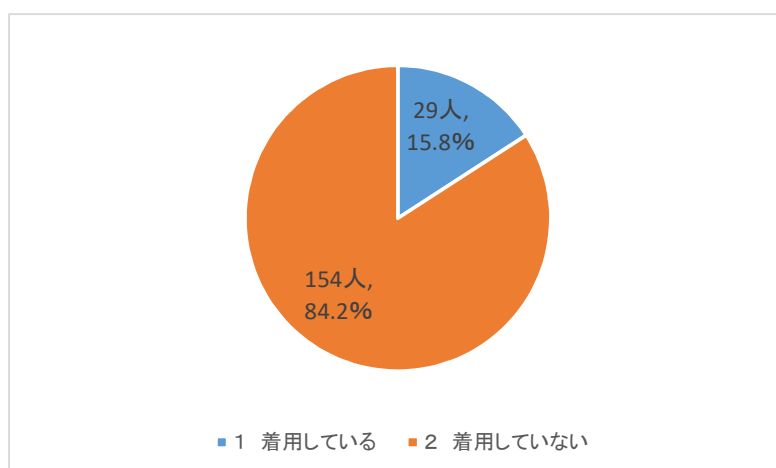
1 日常的(週4日以上)に利用している	12.6%	(47人)
2 時々(週1~3日)利用している	11.2%	(42人)
3 月に数回程度、利用している	9.1%	(34人)
4 ほとんど利用していない	16.0%	(60人)
5 全く利用していない	51.1%	(191人)



問5 (問4で「1」~「4」を選んだ方にお聞きます。)
あなたは、自転車乗車中に乗車用ヘルメットを着用していますか。
次の中から【1つだけ】選んでください。

(n=183 選択は1つのみ)

1 着用している	15.8%	(29人)
2 着用していない	84.2%	(154人)

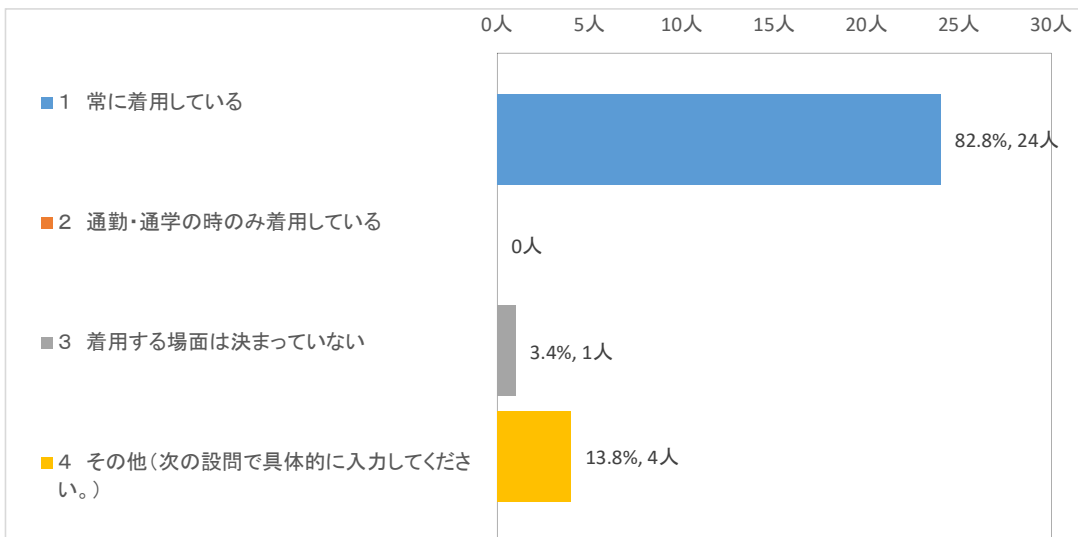


問5-2 (問5で「着用している」を選んだ方にお聞きます。)

あなたは、自転車に乗車する際、どのような場面で乗車用ヘルメットを着用していますか。
次の中から【1つだけ】選んでください。

(n=29 選択は1つのみ)

1 常に着用している	82.8%	(24人)
2 通勤・通学の時のみ着用している	0.0%	(0人)
3 着用する場面は決まっていない	3.4%	(1人)
4 その他(次の設問で具体的に入力してください。)	13.8%	(4人)

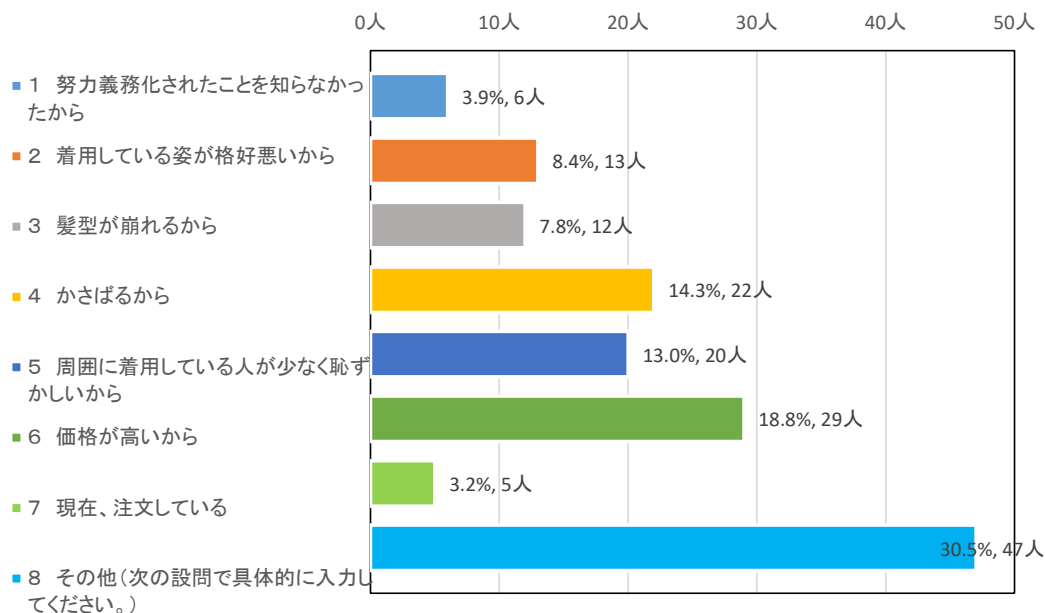


問5-3 (問5で「着用していない」を選んだ方にお聞きます。)

自転車乗車中に乗車用ヘルメットを着用していない理由についてお答えください。
次の中から【1つだけ】選んでください。

(n=154 選択は1つのみ)

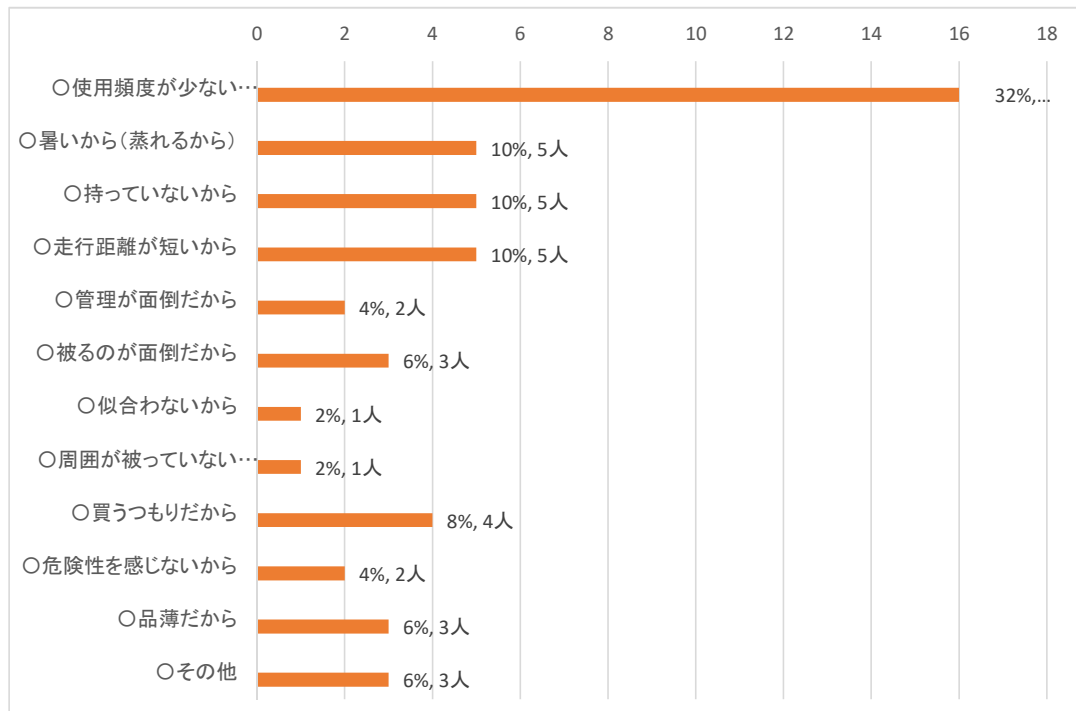
1 努力義務化されたことを知らなかったから	3.9%	(6人)
2 着用している姿が格好悪いから	8.4%	(13人)
3 髪型が崩れるから	7.8%	(12人)
4 かさばるから	14.3%	(22人)
5 周囲に着用している人が少なく恥ずかしいから	13.0%	(20人)
6 価格が高いから	18.8%	(29人)
7 現在、注文している	3.2%	(5人)
8 その他(次の設問で具体的に入力してください。)	30.5%	(47人)



問5-4 問5-3で「8 その他」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

(回答者:47人,複数項目についての回答有)

○使用頻度が少ないから	32%	(16人)
○暑いから(蒸れるから)	10%	(5人)
○持っていないから	10%	(5人)
○走行距離が短いから	10%	(5人)
○管理が面倒だから	4%	(2人)
○被るのが面倒だから	6%	(3人)
○似合わないから	2%	(1人)
○周囲が被っていないから	2%	(1人)
○買うつもりだから	8%	(4人)
○危険性を感じないから	4%	(2人)
○品薄だから	6%	(3人)
○その他	6%	(3人)



問6 自転車利用者に対して、自らの命を守るためには、ヘルメットの着用が必要との意識を持ってもらうための取組についてなど、意見がありますか。

ある場合は、その内容を具体的に入力してください。

主な意見(抜粋)

<p>・マンガで伝える ・YouTubeの広告に差し込む ・InstagramなどのSNSの広告に差し込む など、若者が意識しなくても情報として目に入ってくるかたちで発信するのがいいと思う。</p>
<p>各所の駐輪場で、自転車事故に遭うと頭部外傷により致死率が上がることの内容を含むチラシ等を配付。 学校で教育、また保護者向けの講座等の実施。 職場での定期的な安全教育の実施。</p>
<p>自転車通勤や通学者がヘルメットを購入しやすいような仕組み(補助金や自転車とセット購入等)をつくらせたり、警察が学校で講習を開くなどしてもらえると良いと思います。</p>
<p>園の送迎の時に、子供にヘルメットを被せず載せている光景を目にする。園を通してチラシを配布して保護者に注意喚起してもらいたい。 また、小学生に上がると自転車に乗る機会も増えるので交通安全教室等で園児たち自身にも周知させておくのは大切だと思う。</p>
<p>ヘルメットは大事だと思いますが、強制でない状態ですので、ヘルメット購入補助制度や、自転車屋でのポスター掲示等、学校での啓蒙活動地道に対応していただければと思います。</p>
<p>自転車を売ったり、修理するときに乗車用ヘルメット着用の努力義務化や安全運転に関する冊子の配布などしたらよいと思う</p>
<p>自転車と人、自転車と車等、事故になりやすい状況や、事故の可能性が出る場面等啓発ビデオ、CMなどがあれば良いとおもう。 また、自転車マナー、ルールが良く知られていないと思う。</p>
<p>ヘルメットを購入したいが、お金とデザインと、どうすればいいかわからないまま放置してるというのが事実です。 この際なので、手軽でデザイン性もあるお手頃なものがあれば、帽子の様に複数所有して使い分けたいです。 また、使っている人には駐輪場割引や、何かの特典(ecoポイントみたいな)があれば参加する人も増えると思います。</p>
<p>自転車を置いた後のヘルメットの置き場に困る。持っていくと邪魔になるし置いていくと盗まれたことがあります不安。 駐輪場にヘルメットを入れるロッカーなどが設置されてほしいなと思う。</p>

以前、中学校教諭だったので、自転車乗車時のヘルメット着用の重要性はよく理解している。警察が学校で行うDVD等を使用した生徒向けの講習会は有効だと思う。

また、子供がヘルメットを嫌がる最大の理由はダサいからだと思う。最近、オシャレなヘルメットが販売されているので、実物を生徒に提示したり、自転車通学生の学校指定のヘルメットを生徒の投票で選ばせた上で、指定にしたりする工夫も必要だと思う。

問7 自転車の安全利用について、これまでの設問以外に意見がありますか。

ある場合は、その内容を具体的に入力してください。

主な意見(抜粋)

○自転車安全利用について

自転車の交通マナーが悪く、飛び出してくることが多いので、交通マナー徹底の呼びかけを行うべきだと思う。過去にベビーカーを押して歩道を歩いているときに、スピードを出している自転車と衝突しそうになったことがある。イヤホンをして運転している自転車利用者への安全呼びかけも行うべきと思う。

自転車は、歩行ではなく軽車両という認識が弱いと思いますので、その点を徹底していくことも必要かと思います(自動車でもなく、歩行者でもなく、勝手な自己判断での通行が多すぎると思います)

自転車利用者の歩道と車道の使用や信号の遵守についての規制を周知すべきだと思います。

今だに自転車の事故が多発している背景には道路の整備が行き届いていないのはもちろんですが、先述のヘルメット非着用や無灯火など乗り手の意識次第で防げた事故も多いはず。また、お年寄りがふらふらしながら道の真ん中を走る姿も見かけます。

今まで以上に啓発運動を増やすのも大切ですし、今は自動で点灯するモデルもあるので展示会+啓発イベントを開催してもいいかもしれません。福岡にはオシャレなサイクリング店が数多くあるので、形から入る若者をまず取り込むことで、徐々に高齢層にも浸透していくと思います。

日頃から感じていることですが自転車利用者のルール違反が目立っています。歩行者を無視した歩道通行や右側通行、交差点での信号無視、一時停止の無視、夜間の不灯火などがなくなるような取組が必要であると思います。

やはり若い子の携帯を片手に使用しながらながら運転がとても危険だと思う。又、イヤホンをしながらの運転も音が感じにくいので危険だと思います。年配の方は傘をさして運転はやめてもらいたいです。自分の身は自分で守る以外ないのですが相手を巻き込む危険が大いにあることをもっと知るべきです。

車に乗っていると、車道をフラフラと走る自転車や、周りを見ずに急に飛び出す自転車も少なくありません。自転車に乗る人にも、事故に遭わないための講習や、車からみた景色を知る機会があれば、事故をもらわないという意識が増えるのかなと思います。

○自転車専用レーンについて

自転車は歩道を走ってはダメだけど、車道走るのも危険なのはと日頃から思う。車を運転する側からしたら片側1車線の場合など追い越す際に怖いのもっと自転車用の道が増えたらと思います。

やむを得ず自転車での行動をするしかない方々が多いと思うのですが、道路構造的に「車道」と「歩道」に分かれているため自転車は車道を走るように言われても自動車側も自転車側も危うさを感じていると思います。
昨今自転車道が色分けされて作られている場所もありますが、まだまだ少ないですし、従来の車道の一部を自転車道としているのでお互いにストレスの危うさを感じます。
歩道で乗るにもイヤホンを付けて歩いている人には危険を知らせるベルも聞こえずトラブルになることもあると思います。
自動車、自転車、歩行者それぞれのマナー、自分の行動がどういう状況で周囲に迷惑をかけることになるのかの想像を促すことが必要な気がします。

根本問題は、道路が自動車優先で設計されてきたことだと思います。そのため、自転車は車道を走るのは危険で歩道を走行しがちです。しかし、歩道は歩行者優先であるにも拘わらず、特に朝の通勤・通学の時間帯はかなりのスピードで走る自転車が、歩行者特に子どもや高齢者にとっては命に関わります。
自転車と歩行者が分離できれば、かなり危険は回避できるのではないのでしょうか。

○自転車安全利用教育、講習について

あらゆる世代の方が自転車に乗ります。小学生は、小学校に警察の方が来てくださり交通安全教室があります。
高校や大学にもそのような安全指導教室を企画したり、高齢者向けにも地域公民館等にて出向いて安全教室のような企画があったらいいなあと思います。

街中でみると、小学生や中学生はさまざまな経験値が不足しており、運転がとても危ないように思います。学校で交通安全教室をおこない、事故の恐ろしさを理解していただきたいです。

自分自身も子供時代に自転車に乗っていた時と、免許証を取得して以降とは気を付け方ががぜん、変わっている。運転側の心理や行動のイロハを知ること、子供でもある程度は危険度を知ることが可能だと思うので、小学校時代に自動車学校的豆知識として、公道での交通ルールを学ぶ時間を設けてみてはどうだろうか。

近所で外国人の集団が自転車通勤をしている現場をよく見る。
車道に膨らんで通行していたり、無茶な横断をしているときもある。
外国の方たちに日本の交通ルールを知ってもらうためにも、外国籍の方を沢山雇用している会社で講習会を行ってもらうことも必要だと思います。

子供達の自転車の乗り方が悪い場面をよく見かけます。
特に小学生の飛び出しや、後ろを見ずに道路を横断したりとても危険です。家庭での教育が大切だと思いますが、それが不可能な家庭もあるようです。小さい頃から自転車の安全利用を学ぶ機会が増えるといいですね。

<福岡県の環境について>

【調査の目的】

福岡県の環境のマスタープランである「福岡県環境総合ビジョン(第五次福岡県環境総合基本計画)」(※1)では、県民の皆さんと一緒に目指す5年後の姿を「誰もが安心して、たくさんの笑顔で暮らせる福岡県～環境と経済の好循環を実現する持続可能な社会へ～」と設定し、進捗管理のために、主要な環境基準の達成率等の20の数値指標を設定しています。

これらの数値指標に加えて、環境に関する実感を把握するため、県政モニターの皆さんの御意見をお聴かせください。

【活用状況】

環境総合ビジョンの進捗管理の一環として、環境へのニーズや満足度等を把握し、環境施策へ活用します。

(環境部 環境政策課)

※1 福岡県環境総合ビジョンとは

福岡県の環境行政の基本的な方向性を示すとともに、経済成長と環境保全が両立した持続可能な社会の構築を目指して、県民、事業者、行政など、全ての主体が環境について考え行動する際の指針となるものです。

詳しくは、下記を御覧ください。

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/env-vision.html>

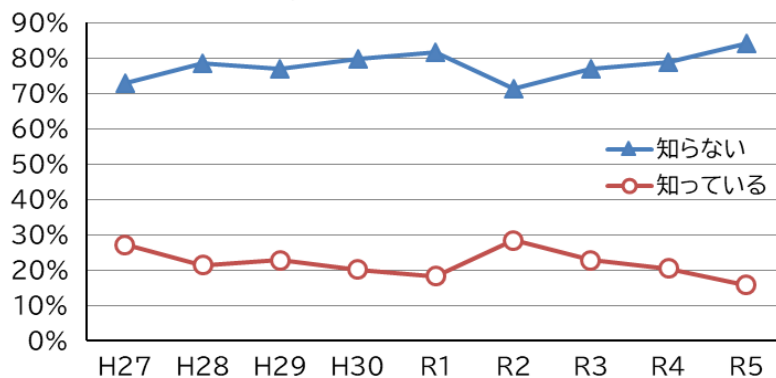
<1> 毎年6月は環境について考える環境月間であり、県でも街頭キャンペーンなどを行っていますが、6月が環境月間であることを知っていますか。

(n=374 選択は1つのみ)

知らない	315名	84.2%
知っている	59名	15.8%

無回答 0% (0名)

環境月間の認知度



<2> あなたが普段生活している身の回りの環境について、現在、満足しているのはどのようなところですか。

(n=374 複数回答可 回答件数=1,490)

身近な自然(海、山、雑木林、川、野鳥など)と触れ合えること	192名	51.3%
ごみが正しく管理・処理されていること	178名	47.6%
水が汚染されていないこと	150名	40.1%
太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていること	116名	31.0%
空気や空が汚染されていないこと	106名	28.3%
環境に負荷をかけず、安全・安心な、資源を有効活用するリサイクルが行われていること	105名	28.1%
住まいの周りの静かさ	103名	27.5%
家庭や会社で、環境配慮型製品が選べること	70名	18.7%
モノや資源が大切に使われ、ごみが少なく資源の無駄遣いがないこと	69名	18.4%
環境関連の技術や産業が向上・発展していること	66名	17.6%
地域(自治会、サークル、NPOなど)で環境保全・環境教育を通じた地域づくりが行われていること	63名	16.8%
豊かな自然の恵み、生物の多様性を活かす社会経済活動が行われていること	60名	16.0%
省エネルギーの取組が行われ、家庭や会社でエネルギーが効率よく使われていること	56名	15.0%
様々な産業において、環境に配慮した取組が行われていること	55名	14.7%
希少な動植物を守る取組や里山保全活動などの地域の豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取組が活発に行われていること	49名	13.1%
環境について満足しているところはない	29名	7.8%
誰もが環境の大切さを意識し、日々の生活や事業活動の中で環境に配慮した行動が実践されていること	19名	5.1%
その他	4名	1.1%

無回答 0名 0.0%

[その他]

- ・ ソーラーパネルの乱立により希少な動植物を守る取組や里山が奪われています。省エネ家電の買い替えのために、まだ使える電化製品が捨てられています。福岡県産の米や野菜/新鮮な魚100%で子どもたちの給食を作ってください。身近な自然、きれいな水が外国資本に買われています。減農薬・減化学肥料栽培の農家を県で支援してください。安全な食を得るのは重要です。環境負荷が目的で、県民の健康が損なわれては意味がありません。
- ・ 身の回りの環境で設問にある事が本当に行われているかが疑問です。真剣に取り組んでいるとは思えない。
- ・ 私があまり知らないだけかもしれませんが、環境に良い、環境の保全への取組み、関連技術の向上などは、現在の住環境においてあまり見聞きしたり感じたりすることがありません。それは私の情報収集不足が原因かもしれませんが、行政や企業がそういった情報を積極的に発信・可視化していないことが原因かもしれません。

<3> あなたが普段生活している身の回りの環境について、この10年間で良くなったと感じるのはどのようなところですか。

(n=374 複数回答可 回答件数=1,377)

省エネルギーの取組が行われ、家庭や会社でエネルギーが効率よく使われていること	158名	42.2%
ごみが正しく管理・処理されていること	144名	38.5%
太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていること	141名	37.7%
環境に負荷をかけず、安全・安心な、資源を有効活用するリサイクルが行われていること	103名	27.5%
環境関連の技術や産業(※3)が向上・発展していること	92名	24.6%
家庭や会社で、環境配慮型製品(※4)が選べること	86名	23.0%
様々な産業において、環境に配慮した取組(※2)が行われていること	79名	21.1%
水が汚染されていないこと	78名	20.9%
モノや資源が大切に使われ、ごみが少なく資源の無駄遣いがないこと	77名	20.6%
身近な自然(海、山、雑木林、川、野鳥など)と触れ合えること	67名	17.9%
空気や空が汚染されていないこと	54名	14.4%
地域(自治会、サークル、NPOなど)で環境保全・環境教育を通じた地域づくりが行われていること	52名	13.9%
希少な動植物を守る取組や里山保全活動などの地域の豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取組が活発に行われていること	45名	12.0%
10年前とは違う地域に住んでいるので分からない	45名	12.0%
豊かな自然の恵み、生物の多様性を活かす社会経済活動が行われていること	44名	11.8%
住まいの周りの静かさ	40名	10.7%
環境についてよくなったと感じるところはない	36名	9.6%
誰もが環境の大切さを意識し、日々の生活や事業活動の中で環境に配慮した行動が実践されていること	32名	8.6%
その他	4名	1.1%

無回答 0名 0.0%

〔その他〕

- ・ 商業施設を始め住宅が増えました。人口は減っているのになぜでしょう？福岡は福岡市中央区/博多区は地域の方が住めない価格になっています。まだ住める民家は壊され現代的な建物へ変わって行っています。福岡県民の心に、古くからある博多の町、近場のきれいな海を大切にしたい。環境のためといつつ、NPOの建物を建て利権に囚われているのが、一般市民にもわかります。
- ・ 私の住む地域ではあまり感じる事ができません。
- ・ 他府県から移住した者なので、10年レベルの設問にはお答えできない。しかし、60年以上前には在住していたことが有り、毎日ボタ山に登った経験を持つ。恐縮ですが、福岡県も大都会になったなあという印象を持つ。
- ・ インフラ整備が行われていرونなどところへの行き来がしやすくなりました。

<4> あなたが普段生活している身の回りの環境について、不安や不満足と感ずるのはどのようなところですか。

(n=374 選択は4つまで 回答件数=860)

モノや資源が大切に使われず、ごみが多いことや資源が無駄遣いされていること	141名	37.7%
空気や空が汚染されていること	108名	28.9%
ごみが正しく管理・処理されていないこと	73名	19.5%
希少な動植物を守る取組や里山保全活動などの地域の豊かな自然環境を将来に引き継いでいく取組が活発に行われていないこと	62名	16.6%
省エネルギーの取組が行われず、家庭や会社でエネルギーが無駄遣いされていること	61名	16.3%
住まいの周りの静かさが保たれていないこと	53名	14.2%
太陽光や風力などの再生可能エネルギーが活用されていないこと	52名	13.9%
水が汚染されていること	50名	13.4%
環境について、不安や不満足と感ずるところはない	39名	10.4%
環境に負荷をかけず、安全・安心な、資源を有効活用するリサイクルが行われていないこと	35名	9.4%
豊かな自然の恵み、生物の多様性を損なう社会経済活動が行われていること	34名	9.1%
日々の生活や事業活動の中で環境に配慮した行動が実践されていないこと	32名	8.6%
地域(自治会、サークル、NPOなど)で環境保全・環境教育を通じた地域づくりが行われていないこと	30名	8.0%
身近な自然(海、山、雑木林、川、野鳥など)と触れ合えないこと	26名	7.0%
様々な産業において、環境に配慮した取組が行われていないこと	23名	6.1%
環境関連の技術や産業が向上・発展していないこと	21名	5.6%
家庭や会社で、環境配慮型製品が選べないこと	12名	3.2%
その他	8名	2.1%

無回答 0.0% (0名)

〔その他〕

- ・ 環境問題を理解せず、省エネ/リサイクル/SDGs を盲信している人が多すぎる。皆が行っている環境問題への取り組みは、全く無意味で間違った方向です。科学的根拠を無視して、イメージだけで活動していませんか？
- ・ 環境政策については、一から考え直した方がよいと考えます。
- ・ 環境問題について正しく理解できていない人達が多いこと。
- ・ ごみが正しく管理・処理されていないこと、にも少し関連する部分があるのですが、ゴミの処理や分別するにあたり、負担が大きい(地域によると思いますが、燃えないごみが決められた日に決められた場所でしか処理してもらえない等)。
- ・ 大規模なソーラーパネル施設が色々な地域に設置されているが九州は特に災害の影響が大きく、災害でソーラーパネルが破壊された際に不法投棄などの問題に発展しないかの不安がある。
- ・ 他府県に比べて、福岡はゴミの分別が少ない。ラクではあるが、これで良いのかなと思うことはある。分別が少なくてもいい理由があれば、なぜ少なくてもいいのかもっと伝えた方がいい。

<5> 福岡県環境について、これまでの設問以外の意見(抜粋)

<①経済・社会のグリーン化>

- ・ 現状省エネルギーに関しては真夏、真冬の空調が適切に維持できずに健康被害が起きていると感じます。これは水道光熱費の高騰が関連していると感じます。環境に配慮した生活を徹底しようとするとコストが掛かることが大きな問題だと思います。エコ商品は再生品を使っても割高で、環境に配慮された商品、添加物の少ない食品なども同じく高値であることが多いです。昨今のSDGsブームを逆手に取っている企業もあると思います。ゴミ袋もとても高く感じますので不法投棄も多く、ゴミ集積場は地域の活動として取り組んでいます。自治会に加入してない方もいるので、不公平感をどうしても感じてしまうという現実もあります。
- ・ 県内の事業所が対象となる「福岡県中小企業等省エネ設備導入支援補助金」は環境配慮型製品への買い替えのための支援策として大変良い制度だと思う。これを機に環境に関する意識の高揚に繋がるものと期待しているが、翌年度以降は本補助金による補助を受けた事業所は補助対象外とする条件は見直すべき。単年度で買い替えが進むものではない。翌年度も同条件で申請可能にすべきだと思うが、制度上どうしても無理であれば補助上限金額を縮小したり、補助率を変えたりするなど再考すべき。
- ・ 環境問題について、理解が広がらない原因の一つに科学的根拠の説明不足があげられます。「部分最適、全体不最適」「合成の誤謬」に陥っていないか、環境問題自体が利権構造になっているのではないか、含めて国民、県民がきちんと納得できることが重要です。例えば、太陽光発電の例をあげると、里山の木を伐採し、防災の役目を担っていた部分の消失により災害につながっていないのか、耐用年数が過ぎた太陽光パネルの処理方法は確立しているのか、その処理方法でCO₂は発生しないのか、日本の電力は火力、水力、原子力でバランスをとっていたのに、そのバランスが崩れている問題。プラスチックゴミを分別したために、燃焼力が弱まり、強めるために重油をつかうことにより、CO₂やオイルコストが高まっている問題。火力発電比率を下げたことにより、原料となる間伐材などの需要が減り、里山が荒れ、林業の退廃、人材の流出、ひいては自然災害につながっている問題等々です。
- ・ 環境対策を実施する企業などに補助金などでバックアップして福岡県発祥に技術など開発促進する機運作りが大切だと思います。
- ・ まだまだ、個人消費を行う様々な商品は過剰包装が多く、ゴミが劇的には減らない。昨今の様々な商品単価値上げを行わざるを得ない原価高騰などの対策も含めて、過剰包装を具体的に削減するような施策や設備改善補助金、相談・指導などを行政から各業界などに積極的に取り組んで欲しい。末端消費者での対策強化に期待するよりも最上流の生産サイドに手を打つことが社会全体としてもローコストで削減効果も大きく、物価の低減にも寄与する、という発想で取り組んで頂きたい。

<②持続可能な社会のための地域づくり・人づくり>

- ・ 便利な暮らしをしていると環境について考えにくくなってしまおうと思います。自然の中に行き、楽しむ機会を持つことで自然の良さやゴミが落ちていることなどなら違和感にも気がつくことがあると思います。ゴミ処理場の社会科見学へ学校から連れて行ってくださったとき、子どもはたくさん学ぶことがあったようです。ただゴミの分別をしなさいと口を酸っぱくして言うよりも、捨てたゴミはどこに行くのか、見て肌で感じることは大切なのだと思います。他にもリサイクル工場や上下水道、発電などのエネルギーなどもどこから来てどこに行くのかみる機会の多い子は環境への意識がまったく違うだろうと思います。学校でもぜひみんなで意見を出し合って話し合うと考えも深まりそうです。
- ・ 先月、段ボールコンポスト講座を受講し、実践をはじめた。これは生ごみを減らし、たい肥として循環できる有益なことだ。福岡県全体でこのような取り組みをすると良い。
- ・ 子供たち向けに、ゴミの分別やものを大切にすることを教える時間があるといいと思う。
- ・ 最近になって、私と同じ町内の同じように子どもを持つ主婦が、海岸清掃のNPOを立ち上げた話を聞きました。団体にならなければ、ただ海岸の清掃をしても、ゴミの処分などは多額の費用をかけて自費で処分しないと行けないと言うことを初めて知りました。彼女は強い思いがあったから、ここまで動くことができました。しかし、なかなかできることではないと思います。これから、海岸

- だけでなくゴミやマイクロプラスチックの問題はたくさん出てくるともいます。ゴミを拾ったり清掃したり、環境をすこしでもよくするための(個人がすることなんて知れているかもしれませんが)活動へのハードルがもう少し下がるといいのではないかと思います。すでに、スポゴミなどの取り組みもあるので、そういう取り組みの支援をして行ってほしいと思います。前述の彼女から学んだことは、膨大なゴミを前に個人ではどうにもならないと諦めてしまうことが一番よくないということです。県民への動機付けで、福岡県が県民を環境への意識へ引っ張って行ってほしいと思います。
- ・ 今回の水害に関してはその地域の過去の水害の歴史の啓蒙や田んぼダムの普及などにもっと力をいれるべきだ。
 - ・ 今はキャンプブームとかで自然と触れ合うことに幸せを感じる人が多くなっているとおもいます。これを機に環境教育と絡ませたイベントなど子どもたちに関心を持たせる機会を作るといいと思います。
 - ・ 企業などは努力していると思う。一方一般市民の意識には開きが有ると思う。やっている人としていない人の個人差が大きいのもっと啓蒙したり子供の頃から学ばせたりする必要が有ると思う。
 - ・ 環境問題は個人個人の意識の上に成り立つものなのでその重要性や意識が個人に浸透しなければ、自然さえ守っていけない世の中になると思います。
 - ・ ポイ捨てや洗剤、外来種の投入を防ぎ、地域の川や海を綺麗に保つことで自らにどのようなメリットがあるかを、学校で考える場(授業)を設けると良いと思いました。
 - ・ ゴミ減量のために地域でできることについて考える機会があると良いと思います。
 - ・ 新聞や広報紙等で県の取り組みが紹介されているが、多くの人たちがそれを読み、内容を深く理解しているのかは疑問。もっとたくさん、誰もが興味をもてるような、大きな啓発運動・キャンペーンイベントを開催してほしい。

<③脱炭素社会>

- ・ 土地の有効活用。遊休地や空き家が建つ土地などの活用を環境政策に取り入れて欲しい。いま自然豊かな土地を守るだけでなく、自然豊かな土地を増やして欲しい。人口減少のなか、余る土地は景観としても問題。自然が増えれば触れ合える機会も増えます。植林すれば炭素吸収にもつながります
- ・ 筑後川流域での水害、心からお見舞い申し上げます。予想を遥かに超える降雨、どんな対策ができるのか。河川の護岸工事も今回は、持ちこたえられて良かったですが、鉄道ののり面など、本当に追いかけてこのようで、山林の間伐など、保水力を更に上げるような対策。もう既になされていると思います。いつも有難うございます。
- ・ 太陽光発電は色々な所で目にしますが、風力発電は当地近辺では目にしません。もっと風力発電に目を向ける必要があると考えます。
- ・ 太陽光発電に関して、業者が言うデメリットだけではなく行政として将来を見越したデメリットをキチンと提示する必要があると思います。設置する家についてだけではなく隣家や周囲の影響も知らせて欲しいです。
- ・ 太陽光発電についてですが、一戸建て住宅での普及は進んでいると思います。しかしながら賃貸住宅では、屋上や壁面など有効活用出来る面積を持ちながら、ほぼ全くと言っていいほど活用されていない印象です。事務所ビル等も同様な印象を受けます。もっと集合住宅で太陽光発電のメリットを共有できるシステムを普及させていかないと、結局は発電量が頭打ちとなり、導入メリットを感じなくなると思います。率先して県営住宅などへ太陽光発電を導入して頂き、自然エネルギー導入のメリットを県民へ提示して欲しいと思います。
- ・ 省エネルギー化及び省資源化は、地球温暖化防止の決め手となるので、さらに 加速化が必要です。考えられるすべての対策を実行することです。
- ・ 再生可能エネルギーの割合がもっと増えればよいと思います。
- ・ 再生エネルギーの利用について、太陽光発電には賛成ですが、設置場所について、少し規制が必要ではないか。近くで、山の崖部分に設置されていて、雨が続きたりすると、気になってしょうがない。

- ・ 環境の問題は、日常生活において、実感として感じる機会が少ないことです。例えば、20年間で、一人当たりのゴミの発生量やエネルギー消費量などの推移を示しながら、具体的な生活がどう変わってきたかなどを、レクチャーしてもらいたいものです。正直、環境政策と産業振興政策との矛盾もあり、市民はよく認識しています、そこに、環境政策が浸透していかない背景があると思います。
- ・ 各家庭に太陽光発電を設置すればかなりのエネルギーが作られるのに、設備は高額で誰もができることではない。太陽がもったいない。無償化または低価格化すればかなりの自家発電量になることを考えてほしい。電力会社の利益よりも各家庭の家計を優先してほしい。
- ・ 夜間のお店の電気が明るすぎる。もう少し控えめでも良いのでは。県でこの日の夜は電気を消して家で過ごしましょうをもっと作ってもよいのでは。
- ・ 昨今の豪雨で、崖崩れが災害発生の原因と言われますが、森林・河川の管理を環境問題としても再度検証していただきたい。
- ・ 近年、自然災害が厳しくなっている。被害も増大している。河川やその他施設も老朽化しており、復旧修理にも多くの経費が必要となっている。限られた予算であるので、今後、新たな施設を作るのではなく、既存の施設の長寿命化のための強度化が重要。

<④循環型社会>

- ・ 地域ごとの事情があると思うが、ゴミの分別回収が違うのでリサイクル出来る物はなるべく分別して再生させるように取り組んで欲しい。
- ・ 市街を離れるとすぐに自然がありとても素晴らしい環境だと思います。各所にリサイクルボックスがたくさんありありがたいですがもっと増えると嬉しいです。
- ・ 古紙を回収してもらおうとポイントが貯まるスーパーがあり、良いと思う。よく活用している。
- ・ 個人レベルで環境に関して意識を高めるのは非常に難しい側面があると思います。我が家では基本的にリサイクル可能なゴミはリサイクルステーションに持ち込みますが、集合住宅のゴミ置き場には全く配慮なく一緒に捨てられたゴミ袋を見かけることがあります。月に一度開催される地域の廃品回収も利用していますが、回収していただけるゴミの種類が少ないのが難点です。リサイクルステーションを増やす、廃品回収の充実、が身近な解決策と考えます。
- ・ リサイクル回収の場所がもっと増えたら、と感じる。ゴミ回収も地域によってばらつきがあることに違和感がある。焼却施設の規模等にもよるのだろうが、社会全体で、リサイクルはやっていくべきもの。リサイクルできるものはゴミにしない、これを徹底するのも全体で行っていくべき課題だろう。
- ・ ペットボトル回収など、リサイクルできるものを回収できる場所を増やしてほしい。
- ・ ごみの分別をもっと細かく行っていいと思う。まだまだ遅れていると思う。
- ・ ごみ分別が各地域によって異なることに疑問をもっています。分別していることに本当に意味があるのかわからなくなります。
- ・ 住人の環境保護に対する意識は年々高まっていると思います。しかし、ゴミの不法投棄はなかなか減ってないので、役所の環境パトロールを強化する必要があると思います。
- ・ コンビニ、スーパーで惣菜や生活雑貨を購入するとプラスチック包材に入っていることが多く、使用後はゴミがたくさん出てしまう。プラスチック包材を減らす取り組みをしてほしい。
- ・ やはり、まだまだ過剰包装は続いているように感じます。一つの料理をするのに、たくさんのプラスチックビニールごみが出ます。ペットボトルもたくさんあふれていて調味料類や酒類も器がプラスチックになっています。街頭でも沢山の紙でのチラシや案内が配られ捨てられています。日本は無料で配る文化が良くも悪くも物大国だだと思います。
- ・ ゴミの処理について、隣の市に行くだけでごみの分別方法が異なるので、なにが正しい管理・処理なのだろう？と思います。紙を節約と言われてきたかと思えば、プラ削減で紙ストローや木製スプーンが使われたりすると何が正しい取り組みなのかわかりません。
- ・ 産業廃棄物やゴミなどの不法投棄や盛り土の取り締まりの強化。
- ・ ペットボトルを分別して捨てていますが、すぐ貯まるので、回収を月2回にして欲しいです。街中の平地に公園や緑が少ないのが気になります。
- ・ 無農薬や有機農業を実践することは、技術面でも資金面でもハードルが高いと思われる。そうした

環境保全を重視した農業を行う意識のある方への支援を重質する。ゴミの分別について、ビン・カン(アルミ・スチール)・ペットボトル・ビニール・電池・生ごみなど、もっと細かく収集すべきと思われる。原子力発電や火力発電に頼らなくてよいように、環境に負荷をかけない電源を重視するべきと考える。

- ・ 資源ゴミの回収の時間帯が合わないことがある。

<⑤自然共生社会>

- ・ 福岡県は海・山・川など身近な自然が多いので、必要のない開発等はしないで、できるだけ守る取り組みを期待したい。
- ・ 福岡の自然には満足しています。
- ・ 資金の問題もあるだろうが、公園や川は草が繁茂して利用されていない公園も多い。(特に小さな公園)そういったところに人件費をさいて、環境を良くする取組みを強化してもいいのではと感じます。
- ・ 環境問題にはとても関心があります。とくに動植物の生態系を守っていく取り組みがもっとなされると良いと思います。
- ・ 室見川周辺の野鳥が増えすぎているのではないのでしょうか？ 糞公害に悩まされている方が多いと思います。行き過ぎた動物保護が自然環境を壊すことがあることを県民に伝えてください。
- ・ 放置されている樹木がある。
- ・ 人の見た目の景観環境の重要性、竹林の繁茂への放置を規制、街路樹の植栽を避けている傾向が、自治体に見られる。費用がかさむことは理解しているが、それ以上の景観、環境への配慮が人の心と安全に機能する。
- ・ 山や農地が住宅地に開発されている。今は静かに暮らしているが、10年先が心配です。
- ・ とにかく雑木林が少なく杉並木が多すぎるのが野生生物の生存率や花粉症や水害の影響を強く受けていると思います。

<⑥健康で快適に暮らせる生活環境>

- ・ 道路を走る車の騒音や列車の騒音など、騒音についての環境についても目を向けたほうがいい。
- ・ 私達が気づきやすいのは目に見えやすい部分が多いとは思いますが、目に見えにくい部分でも持続的な対応をお願いします。また、安定した水質を保つためにも水道の民営化だけは反対です。
- ・ 原発の汚染水を海に流す事は、どうしても、良いと思わない。
- ・ 花粉とPM2.5の多さに毎年うんざりしていますが、こればかりは福岡県のせいではないので、福岡県に対しての意見はありません。
- ・ 遠くの山々や緑が白く霞んで見えるのにはいつもガッカリします。これは中国などからの大気汚染の影響が大きいのですが、私自身、呼吸器系があまり丈夫でないのもあって、PM2.5が多い日は咳がでます。行政として大気汚染や河川の水質汚染には積極的に取り組んでもらいたいと思います。
- ・ 煙突から排出される煙は健康被害を起こさないかが不安です。感覚的に臭いというより嗅いだら体に悪そうと危険を感じる臭いが夜半に多く、風向きによっては家では窓を閉めなくてはならないほど。産業も大切な事ですが、共存できる配慮が極めて乏しいです。日中から同じ臭いが漂えば指摘や指導が入るのでしょうか、夜間～明け方までなので(たまに朝まで臭いが残っている時もあります)行政も気づきません。公害への対策やチェックは四六時中行われているのでしょうか？観測点は数か所設けてあるのでしょうか？目の前の利益ではなく、健康被害を起こさない配慮・対策の強化を求めます。また樹木の伐採より、植樹に力を入れて欲しいです。空気を浄化していく事へも力を注いで欲しいです。
- ・ PM2.5により空気がよどんでいる日が多く、著しく景観を毀損しており観光面でも非常に勿体ないと感じる。
- ・ PM2.5など福岡だけの問題ではない。環境活動など個人、地域だけでは変わるはずもなく頑張る気もなくなってしまう。
- ・ 9年前に久留米に引っ越して来ましたが、田んぼの野焼き？が多いことにびっくりしました。前が

見えないほど煙で覆われています。環境への影響はないのでしょうか。

- ・ 御笠川が臭います。

<⑦国際環境協力>

- ・ 福岡県だけの問題ではないが、中国から飛来してくる黄砂をどうにかして欲しい。黄砂が降る時期の空気は悪く喉が痛くなることが多い。
- ・ 北九州市は、黄砂や高化学スモッグが気になる日がある。
- ・ 特に黄砂の影響を受けやすいと思うが、何ら対策がなされていないように思う。
- ・ 大阪からの移住者ですが、黄砂が酷いような気がします。九州は空気がきれいなイメージだったが、あまりきれいではないのかなという印象を持ちました。
- ・ 佐賀で生まれ、名古屋、東京、三重、石川と色々暮らしてきたが、やはり九州の自然の豊かさはピカイチなのにトラックが多すぎて(ダンプなど)めちゃくちゃ空気が悪く感じます。中国からの黄砂などもやはり凄い。
- ・ 空気が汚染されている事について、毎年飛来する黄砂について中国に防止処置の要求ができませんか。公害垂れ流しで、その汚染空気が日本各地に飛来していますがこれも嚴重に防止策を講義できませんか。

<⑧その他>

- ・ 工業・産業面でのいろいろな取り組みは、福岡県は国内には勿論、国外にも誇れる取り組みがなされ実績を上げていていると思います。今後とも技術的な成果を生かし、よりよい環境づくりに励んでいくべきと考えます。
- ・ 一般的に環境問題は大事だが、日常生活で何ができるのか？具体策が見えない。
- ・ 意識の高さレベルの違いが大きいと思う。底上げを図ることが大事ではないかと思う。
- ・ 今後の取り組みに対して意見を聞いてもよかったのではないか。
- ・ 個人の意識向上と限りある自然を後世に残せるように、住み良い環境を継続していきたい。自然災害が多くなり、住み良い県になるように考えていかないといけない。
- ・ 県環境総合基本計画「福岡県環境総合ビジョン」の推進体制を強化及び更なる具体化をするとともに、進行管理をしっかり行って確実に推進していくべきである。
- ・ 県、市の施策で何が行われ、何が変わったのか知らない。もっと県民、市民に税金を何に使って、どのように変えてきたのか広報してください。
- ・ 環境は福岡県の1人1人で作るため、社会全体が認識しやすい小目標から進め、周知・実行が80%超えたら次のステップに移行するなど段階的に、進めた方がいいと思う。大きな目標は現実感がなく、わかっているけどできない人が多く、実現するのが難しいと思うので。
- ・ 環境に配慮も必要だが、水資源という配慮も必要。いつも、素朴な疑問として思う事が多々ある。例えば、資源ゴミ回収で出すプラスチック製品の為に綺麗に洗ったりして、どれ位のリサイクルになるのか？環境に優しい洗剤を使って水をいっぱい使う方が良いのか。それとも、少ない洗剤で水の省資源で使う方が良いのか等、身の回りで考えられるあらゆる出来事をもっとわかりやすく県を通じてアナウンスして欲しい。
- ・ 環境が良くなったと実感できましたが、環境について県の具体的な施策は周知されていないと感じます。
- ・ 我が家の5歳児が小さなSDGsとしてゴミ拾いを父親と共に活動しています。ゴミを再生できるようによく洗って処理施設に持ち込んでいます。しかし、平気でゴミを捨てる人が後を絶たないという現実もあります。
- ・ 県内の各自治体それぞれで単発的に行動を起こそうとしても、限界があると思うので、できれば県が全体を俯瞰的に眺め、だぶりや抜けがないように、また人口の偏りも視野にいれながら不均衡のないように負担も利も平等に分けて計画して欲しい。
- ・ ごみ処理に関しては分別に課題を感じることもある。住まいのゴミ出しも正しく分別されていないことがある。環境政策については進んでいることを実感するが、世界を見てみると大雨や干ばつ等異常気象が起り、環境破壊もあり、効果的な政策が必要かと思えます。

- ・ SDGs などよく耳にするようになったけど、実生活の中でそこまで違いを感じられていないかもしれません。
- ・ 自然資源を次世代に引き継ぐ為に、適切な管理や監視が必要かと思います。自然公園や野生生物保護区や海岸等に監視カメラを設置。幼少期からの環境教育(海保が実施している出前授業は有効かと思います。)福岡県、特に北九州は、有数の工業地帯でありながら、豊かな自然や文化が残されている地域です。今後も環境行政は、経済発展と環境保全のバランスを取ることが重要と思料します。

<6> 満足・不満足に関する回答の経年変化^{注)}

<①経済・社会のグリーン化>

- ・「産業での環境に配慮した取組」「家庭や会社での環境配慮型製品の選択」「環境関連技術・産業」に対する満足度は、横ばいで推移しています。

<②持続可能な社会を実現するための地域づくり・人づくり>

- ・「環境配慮行動」に対する満足度は、令和5年度は減少しています。「地域づくり」に対する満足度は、横ばいで推移しています。

<③脱炭素社会への移行>

- ・「再生可能エネルギーの活用」「省エネルギーの取組」に対する満足度は、横ばいで推移しています。

<④循環型社会の推進>

- ・「ごみの管理・処理」に対する満足度は、比較的高く推移しています。
- ・「資源の有効利用」に対する満足度は、横ばいで推移しています。
- ・「リサイクル」に対する満足度は、令和5年度は減少しています。

<⑤自然共生社会の推進>

- ・「身近な自然との触れ合い」に対する満足度は、比較的高く推移しています。
- ・「豊かな自然の恵みを活かす社会経済活動」や「希少種や里山を守る取組」に対する満足度は、横ばいで推移しています。

<⑥健康で快適に暮らせる生活環境の形成>

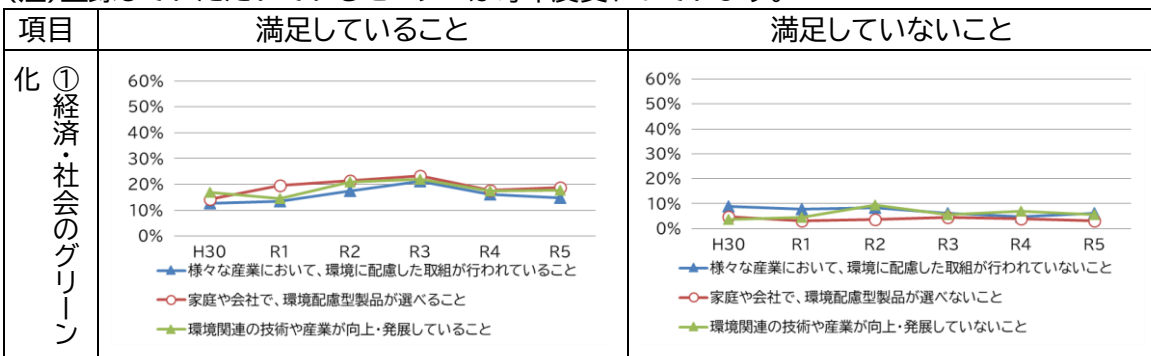
- ・「水の汚染」「空気の汚れ」「住まいの周りの静かさ」に対する満足度は、横ばいで推移しています。

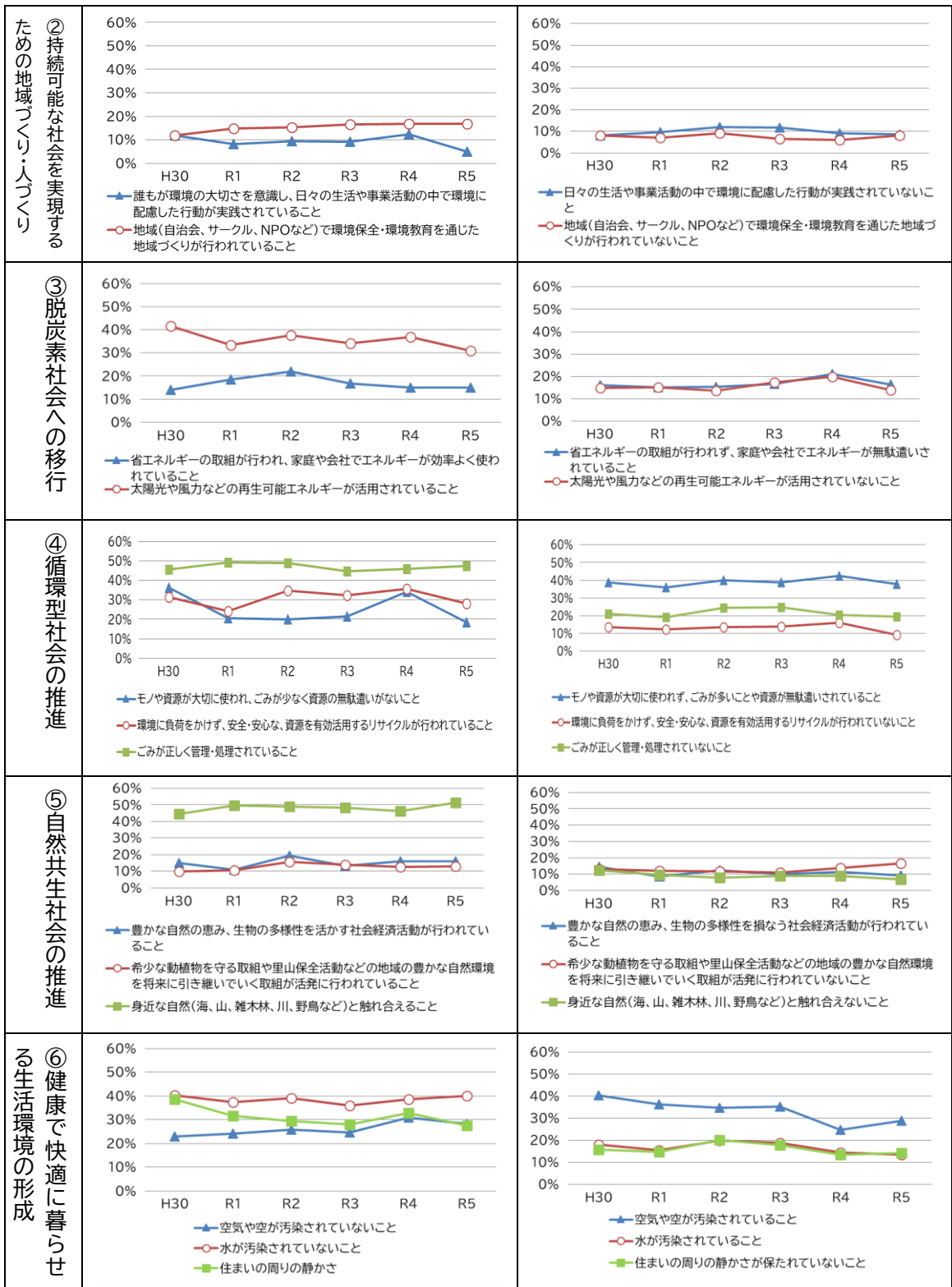
一方、満足していないと感じる割合については、「<循環型社会の推進>モノや資源が大切に使われていないこと」では他の項目に比べ比較的高く推移しています。

また、<健康で快適な生活環境>「空気や空気が汚染されていないこと」では他の項目に比べ比較的高く推移していますが、近年減少傾向にもあります。

これらの項目については、今後の環境に関する取組の進め方に活かし、県民への情報提供や普及啓発に取り組んでいく必要があります。

(注)登録していただいているモニターは毎年度変わっています。





令和5年度
県政モニターアンケート調査結果

テーマ:公金の支払い方法について

福岡県 会計管理局 会計課

1. 調査の目的

県民の方が県へお支払いいただく公金（県税、使用料、手数料など）の支払方法は、現在、現金（現金で購入した領収証紙を貼付した申請書を県の担当課へ提出、県機関（県税事務所等）または金融機関窓口で直接現金で納付など）が中心となっています。

一方、商品やサービスの対価を支払う場合において、キャッシュレス決済の利用率が年々高まってきており、今後、県民の皆さんの利便性の向上の観点から、県公金についてもキャッシュレス決済を導入することとしております。

今回のアンケートにより、商品やサービスの対価支払時における支払方法の実情や公金支払方法に関するご意見をお聴かせいただき、公金支払方法を検討する上での参考とさせていただくため調査を行いました。

※ 領収証紙とは

県が発行した領収証紙を、県指定の「売りさばき所」を通じて現金で購入し、県に提出する申請書等に貼付することによって手数料や使用料を納付するものです。

※ キャッシュレス決済とは

物理的な現金（紙幣・硬貨）を使用せずに商品・サービスの料金の支払等を行うことを指します。（クレジットカード決済、コード決済（PayPay、楽天Pay、LINE Pay等）、電子マネー（SUGOCA・nimoca・はやかけん等の交通系、楽天Edy・WAON・nanaco等の非交通系）などが該当します。

2. 活用状況

令和6年4月から、県機関窓口におけるキャッシュレス決済を開始するにあたり、決済方法や決済事業者（ブランド）を検討する際、参考にさせていただきました。

3. 調査時期

令和5年7月13日～令和5年7月31日

4. 回答者の構成

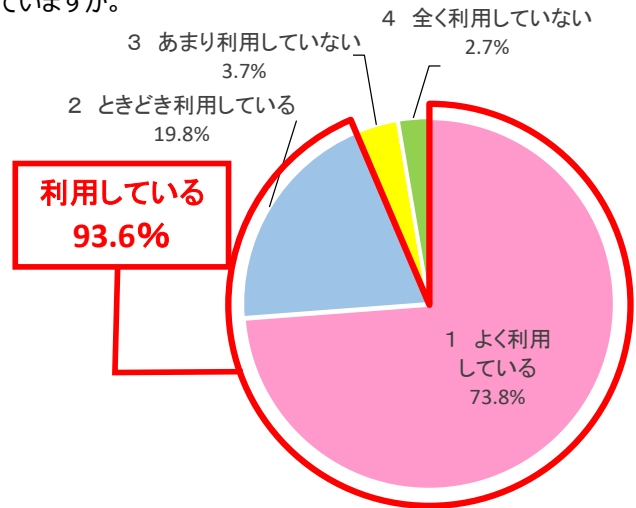
項目	計		北九州	福岡	筑後	筑豊	
	人数（人）	構成比					
総数	人数	374	91	198	56	29	
	構成比		24.3%	52.9%	15.0%	7.8%	
性別	女性	206	55.1%	55	105	28	18
	男性	166	44.4%	36	92	27	11
	その他	2	0.5%	0	1	0	1
年代別	20代以下	61	16.3%	15	32	10	4
	30代	64	17.1%	14	34	11	5
	40代	72	19.3%	16	39	12	5
	50代	66	17.6%	17	35	10	4
	60代	82	21.9%	23	39	12	8
	70代以上	29	7.8%	6	19	1	3

5. 回答結果

問1 商品購入やサービス利用の際、キャッシュレス決済を利用していますか。
(n=374、選択は1つのみ)

	人数	割合
1 よく利用している	276人	73.8%
2 ときどき利用している	74人	19.8%
3 あまり利用していない	14人	3.7%
4 全く利用していない	10人	2.7%

※赤字は割合が最も多いもの。



(参考：年代別内訳)

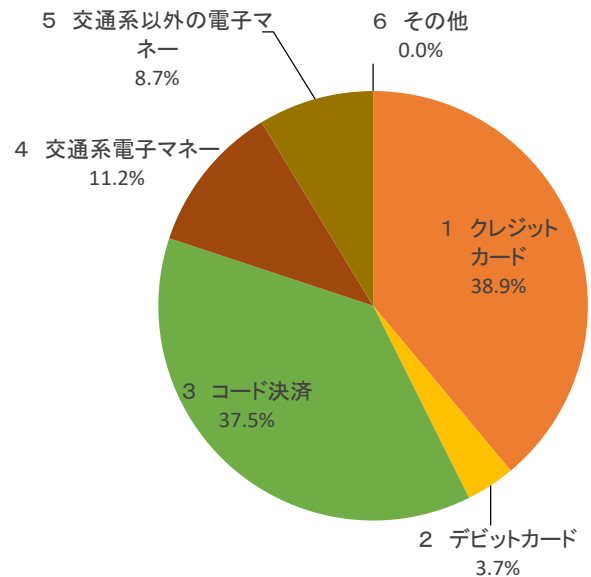
	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～
1 よく利用している	73%	74%	89%	78%	68%	67%	62%
2 ときどき利用している	18%	22%	8%	18%	20%	27%	28%
3 あまり利用していない	0%	4%	3%	1%	6%	4%	7%
4 全く利用していない	9%	0%	0%	3%	6%	2%	3%

※赤字は割合が最も多いもの。

問2 (問1で「1、2、3」を選択された方にお尋ねします。)
現在利用しているキャッシュレス決済の中で、比較的に利用する頻度の高い手段は何ですか。
(回答数=678、選択は2つ)

	人数	割合
1 クレジットカード	264	38.9%
2 デビットカード (支払代金が口座から即時に引き落とされるカード)	25	3.7%
3 コード決済 (PayPay、楽天Pay、LINE Pay等)	254	37.5%
4 交通系電子マネー (SUGOCA、nimoca、はやかけん等)	76	11.2%
5 交通系以外の電子マネー (楽天Edy、WAON、nanaco等)	59	8.7%
6 その他	0	0.0%

※赤字は割合が最も多いもの。



(参考：年代別内訳)

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～
1 クレジットカード	12%	30%	38%	40%	44%	41%	45%
2 デビットカード	12%	7%	7%	3%	2%	1%	4%
3 コード決済	47%	42%	44%	39%	35%	32%	29%
4 交通系電子マネー	18%	12%	6%	10%	10%	14%	18%
5 交通系以外の電子マネー	12%	9%	5%	8%	10%	13%	4%
6 その他	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

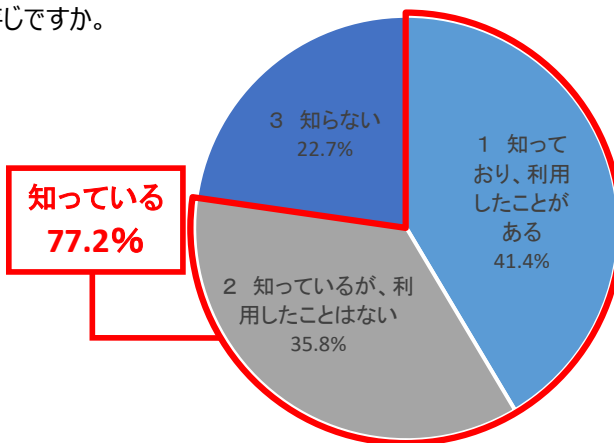
※赤字は割合が最も多いもの。

問3 問2で「6」を選んだ場合は、その内容を具体的にしてください。(n=0)

問4 県では、県税（自動車税種別割、個人事業税等）や県有施設（県営公園、体育施設等）利用料等、一部の公金支払いにキャッシュレス決済が導入されていることをご存じですか。
 (n=374、選択は1つのみ)

	人数	割合
1 知っており、利用したことがある	155人	41.4%
2 知っているが、利用したことはない	134人	35.8%
3 知らない	85人	22.7%

※赤字は割合が最も多いもの。



(参考：年代別内訳)

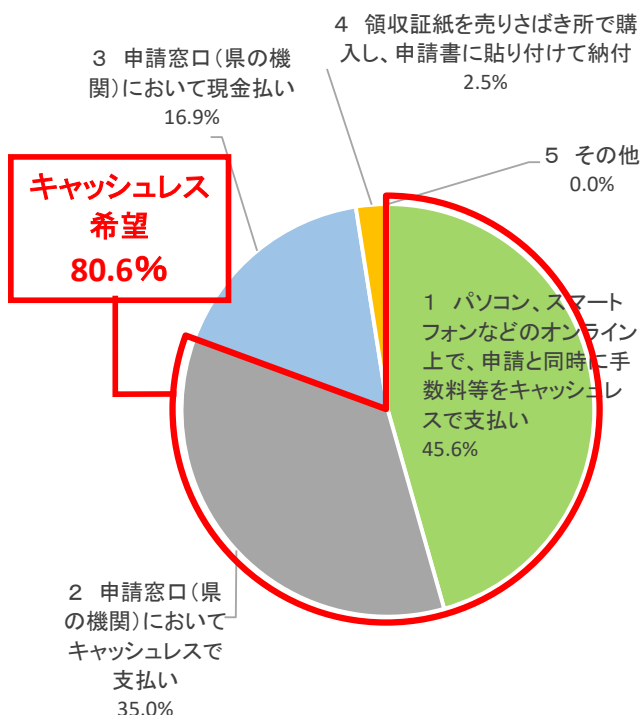
	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～
1 知っており、利用したことがある	0%	46%	50%	50%	48%	32%	21%
2 知っているが、利用したことはない	55%	30%	30%	32%	39%	40%	41%
3 知らない	45%	24%	20%	18%	12%	28%	38%

※赤字は割合が最も多いもの。

問5 県に対する申請と同時に料金を支払う場合（例：納税証明書の交付申請、パスポートの交付申請等）、次の支払方法の中で、良いと思う方法を選んでください。
 (回答数=682、複数選択可)

	人数	割合
1 パソコン、スマートフォンなどのオンライン上で、申請と同時に手数料等をキャッシュレス（クレジットカード、コード決済等）で支払い	311	45.6%
2 申請窓口（県の機関）においてキャッシュレス（クレジットカード、コード決済等）で支払い	239	35.0%
3 申請窓口（県の機関）において現金払い	115	16.9%
4 領収証紙を売りさばき所で購入し、申請書に貼り付けて納付	17	2.5%
5 その他	0	0.0%

※赤字は割合が最も多いもの。



(参考：年代別内訳)

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～
1 パソコン、スマートフォンなどのオンライン上で、申請と同時に手数料等をキャッシュレスで支払い	33%	49%	52%	47%	48%	42%	33%
2 申請窓口（県の機関）においてキャッシュレスで支払い	17%	19%	13%	16%	16%	19%	20%
3 申請窓口（県の機関）において現金払い	38%	29%	34%	36%	35%	36%	43%
4 領収証紙を売りさばき所で購入し、申請書に貼り付けて納付	13%	2%	2%	1%	2%	3%	4%
5 その他	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

※赤字は割合が最も多いもの。

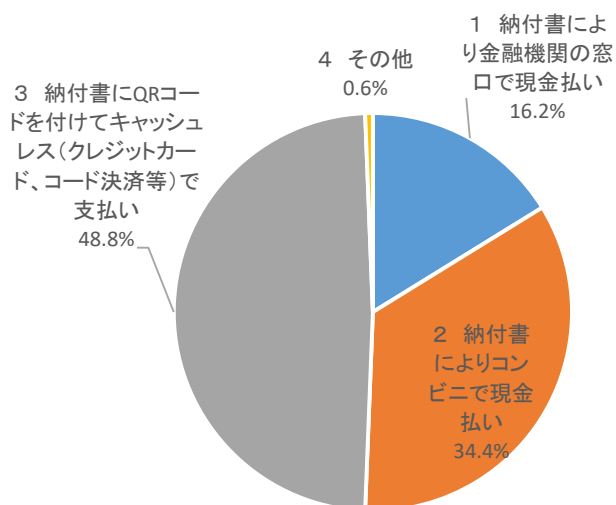
問6 問5で「5」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。(n=0)

問7 県が納付書を発行し、期限内に料金を支払う場合（県有施設の使用料等）、次の支払方法の中で、良いと思う方法を選んでください。

(回答数=642、複数選択可)

	人数	割合
1 納付書により金融機関の窓口で現金払い	104人	16.2%
2 納付書によりコンビニで現金払い	221人	34.4%
3 納付書にQRコードを付けてキャッシュレス（クレジットカード、コード決済等）で支払い	313人	48.8%
4 その他	4人	0.6%

※赤字は割合が最も多いもの。



(参考：年代別内訳)

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～
1 納付書により金融機関の窓口で現金払い	18%	18%	9%	11%	17%	18%	31%
2 納付書によりコンビニで現金払い	41%	29%	30%	35%	38%	36%	33%
3 納付書にQRコードを付けてキャッシュレス（クレジットカード、コード決済等）で支払い	41%	52%	60%	53%	44%	46%	35%
4 その他	0%	1%	0%	1%	2%	0%	0%

※赤字は割合が最も多いもの。

問8 問7で「4」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。(n=4)

【意見】

- ・納付書により金融機関・コンビニでキャッシュレス支払い。（手数料なし）
- ・パソコン、スマートフォンなどのオンライン上で、キャッシュレス（クレジットカード、コード決済等）で支払い
- ・金融機関のアプリで振込
- ・コンビニでキャッシュレス決済

問9 県の公金支払方法について、これまでの設問以外に意見がありますか。ある場合は、その内容を具体的に入力してください。

(回答数=135)

【主な意見（概要）】

＜決済方法＞

- ・ コンビニでもキャッシュレス決済ができるようにしてほしい。
- ・ オンライン決済、ATM、デビットカード決済等ができるとうい。
- ・ 口座振替、コンビニ払い等混在しており、混乱する。
- ・ 支払方法を拡充してほしい。
- ・ 支払方法を統一化してほしい。
- ・ 安全な支払方法を確立してほしい。

＜法人関係＞

- ・ 法人における支払の電子化や効率化を進めてほしい。

＜手数料＞

- ・ 納付者が手数料を負担しない仕組みが望ましい。

＜領収証＞

- ・ 領収証がないと不安である。

＜ポイント等＞

- ・ クレジットカード等のポイントが付与されると良い。

＜推進意見＞

- ・ 社会のキャッシュレス化に対応し、今後も推進してほしい。
- ・ キャッシュレス決済が利用できることを周知してもらいたい。支払方法など周知に工夫が必要である。

＜慎重意見＞

- ・ 高齢者を含め、多様な世代、ニーズに対応するため、現金を含め、多様な決済手段が必要である。
- ・ セキュリティ、プライバシーの保護、トラブルの対応に不安がある。
- ・ 不慣れな高齢者や障がい者などの利用者の支援や教育が必要である。
- ・ キャッシュレス決済導入に係る費用対効果の検証が必要である。
- ・ 行政の手続きにキャッシュレス決済は不要である。
- ・ 電子化に対応するのに苦慮している。
- ・ 公金支払に係る将来的な姿を明確にし、方向性を示すべきである。

＜その他＞

【キャッシュレス決済事務処理】

- ・ 納付及び支払いの事務費用は、キャッシュレス化による事務費の減で吸収すべきである。

【領収証紙】

- ・ 領収証紙を購入できる場所が少ない。場所を増やす、支払い方法を増やすなど柔軟な対応をお願いしたい。
- ・ 免許申請はキャッシュレス決済に移行してほしい。手間や時間がかかり紛失等リスクも高い。人件費等もかかる。
- ・ 領収証紙は非効率であり無くすべきである。
- ・ パスポート申請時にはわざわざ別の場所に収入印紙と領収証紙を買いに行く必要があり不便である。

【マイナンバー等】

- ・ 払込もメールでQRコードを送付してほしい。マイナンバーカードのセキュリティが整備されたら導入してほしい。
- ・ マイナカードやマイページに紐づけて、支払履歴を確認したり、領収書等をコンビニで発行できるようにしてほしい。
- ・ マイナンバー登録の公金受取口座を利用し、即引き落としができようしてほしい。

【納税証明書等】

- ・ 納税証明書も電子発行してほしい。
- ・ インターネット等での支払の場合は納税証明書も同時に発行してほしい。

警察活動について

(令和5年度)

【調査の目的】

福岡県警では、「県民の安全・安心の確保」を運営の指針とし、県民の皆さんからの御理解と御協力を得ながら、地域との協働による犯罪・事故の起きにくい社会づくりに向けた警察活動を展開しています。

そこで、警察活動について皆さんの御意見をお聴かせいただき、今後の参考にさせていただきます。

【活動状況】

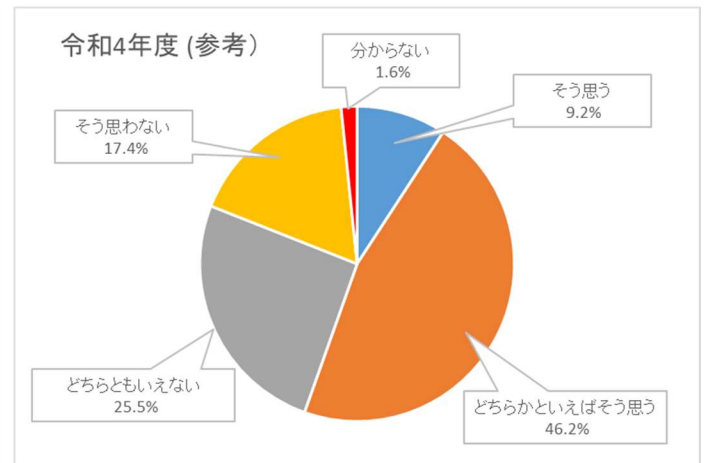
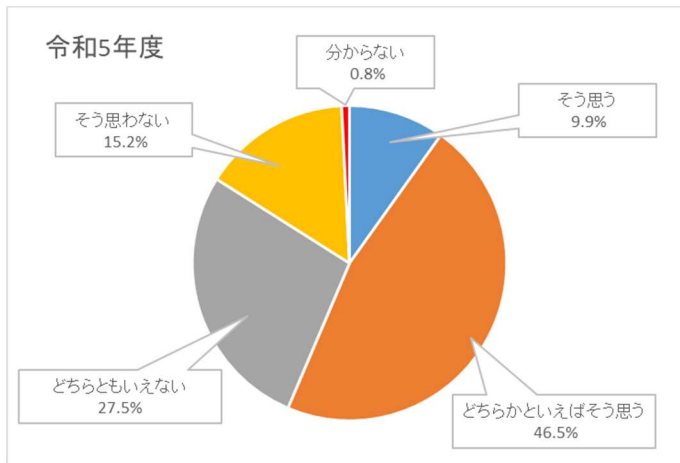
治安に関する県民の意識及びその変化を把握し、今後の各種警察活動に反映します。

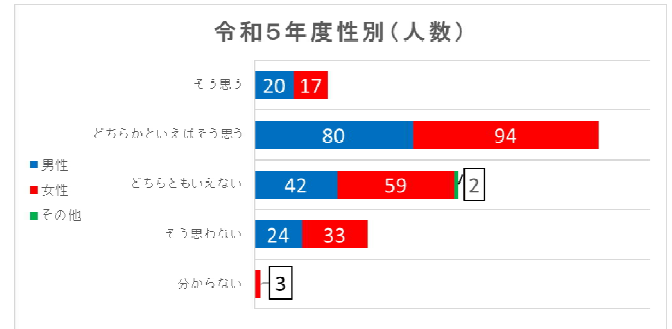
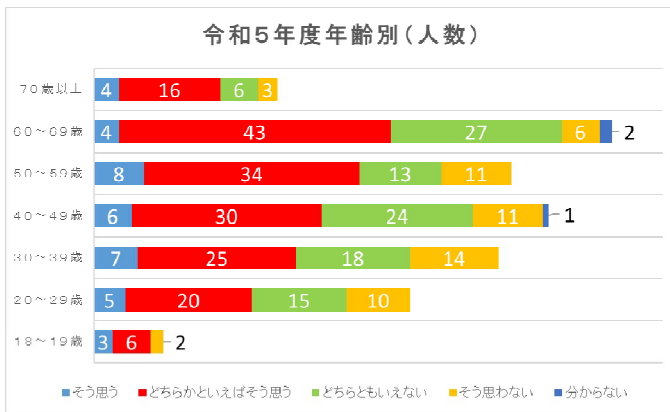
(警察本部 総務部 被害者支援・相談課)

〈1〉 あなたは、現在の福岡県が、治安がよく、安全で安心して暮らせる県だと思いますか。

(n = 374 選択は1つのみ)

そう思う	9.9%	(37 名)
どちらかといえばそう思う	46.5%	(174 名)
どちらともいえない	27.5%	(103 名)
そう思わない	15.2%	(57 名)
分からない	0.8%	(3 名)
無回答	0.0%	(0 名)





〈2〉 〈1〉で「そう思わない」と選択された方にお尋ねします。

あなたが、福岡県の治安がよく、安全で安心して暮らせる県だと思わない理由は何ですか。

(「そう思わない」と選択された方 n=57 選択は3つまで 回答件数=149)

車・バイクの爆音走行や暴走行為を見かけるから	17.5%	(26名)
暴力団等による凶悪事件などが発生しているから	14.1%	(21名)
パトカーが集まっているのを見かけたり、パトカーのサイレン音が聞こえるから	14.1%	(21名)
悪質・危険な交通違反を見かけるから	13.4%	(20名)
自分や身近な人が犯罪被害や交通事故に遭ったり、身近な場所でそれらが発生しているから	11.4%	(17名)
深夜、公共の場所(公園やコンビニエンスストアを含む)で騒いでいる人たちを見かけるから	9.4%	(14名)
不審な人や乱暴な言動をする人を見かけるから	8.1%	(12名)
自転車の運転マナーが悪い人を見かけるから	8.1%	(12名)
その他	4.0%	(6名)
無回答	0.0%	(0名)

[その他(抜粋)]

- ・ 県内で発生した事件(殺人や飲酒運転事故)のニュースを見ることが多いから(類似意見1件)
- ・ 歩きタバコが多いから
- ・ 警察の不祥事が多いから

〈3〉 あなたが、警察に特に力を入れて取り締まってほしい犯罪は何ですか。

(n=374 選択は3つまで 回答件数=1090)

ストーカー、DV、児童・高齢者虐待・障がい者虐待に関する犯罪	13.7%	(149名)
飲酒運転	13.3%	(145名)
強制性交等(強姦)、強制わいせつ、痴漢、盗撮などの犯罪	9.5%	(104名)
暴力団による犯罪	9.2%	(100名)
殺人、強盗、放火、誘拐などの凶悪犯罪	8.4%	(91名)
爆音走行などの暴走行為	7.8%	(85名)
サイバー犯罪(フィッシング、不正アクセス、コンピュータウイルス等インターネットを利用した犯罪)	6.3%	(69名)
オレオレ詐欺や架空料金請求詐欺などの「ニセ電話詐欺」	6.1%	(66名)
空き巣、ひったくり、車上ねらいなどの窃盗犯罪	5.9%	(64名)
拳銃発砲などの銃器犯罪や、覚醒剤・大麻の密売などの薬物犯罪	5.2%	(57名)
少年の非行、被害防止対策	3.9%	(42名)
ごみの不法投棄など、人の健康または生活環境に関する犯罪	2.8%	(31名)
汚職など公務員による犯罪	2.6%	(28名)
悪質な訪問販売などの商取引に関する犯罪	2.5%	(27名)
違法な性風俗営業等による、青少年の健全育成などを害する犯罪	1.7%	(18名)
高金利貸付けや脅迫的な取立てをするヤミ金融犯罪	0.3%	(3名)
その他	1.0%	(11名)
無回答	0.0%	(0名)

[その他(抜粋)]

- ・ 交通取締りの強化(類似意見4件)
- ・ 不法滞在の取り締まり強化(類似意見1件)
- ・ 喫煙等の迷惑行為
- ・ ネットでの誹謗中傷行為

〈4〉 あなたは、犯罪の取締り以外に、警察が今後、特に力を入れるべき活動として、どのようなものを望みますか。

(n = 374 選択は3つまで 回答件数 = 1037)

パトカーや制服警察官によるパトロール	17.2%	(178名)
相談、苦情、要望・意見を受ける窓口の充実	12.0%	(124名)
飲酒運転を許さない社会環境づくりの推進	11.1%	(115名)
高齢者や子供等の交通事故の抑止	7.6%	(79名)
地域で発生する身近な犯罪などの情報提供	7.1%	(74名)
少年非行の防止	6.9%	(71名)
学校や地域などの社会教育の場での防犯指導	5.7%	(59名)
暴力団排除運動の支援や暴力団犯罪の被害に遭うおそれのある企業・県民等の保護	5.6%	(58名)
サイバー空間におけるパトロール	5.1%	(53名)
住民によるパトロールや自主的な防犯活動をしている団体への支援	4.2%	(43名)
犯罪被害者に対する支援の充実	3.5%	(36名)
自治体・地域住民等と連携した繁華街・歓楽街の環境浄化	3.2%	(33名)
サイバー犯罪に関する情報提供	3.0%	(31名)
交通に関する反則(違反)金のキャッシュレス決済の導入	2.9%	(30名)
災害発生時の被災者の救出救助や行方不明者の捜索、避難誘導、警戒活動	2.3%	(24名)
テロの未然防止	2.1%	(22名)
その他	0.7%	(7名)

無回答 0.0% (0名)

〔その他(抜粋)〕

- ・ 地域住民との関わりを深める(類似意見1件)
- ・ 交番の増設
- ・ 警察が不偏不党かつ公平中正に職務を遂行しているかのチェック機能の強化

〈5〉 あなたは、これまでに事件・事故、その他の困りごとについて警察に電話で相談したことがありますか。

(n = 374 選択は1つのみ)

電話で相談したことがある	24.1%	(90名)
電話で相談したことはない	75.9%	(284名)

無回答 0.0% (0名)

〈6〉 〈5〉で「電話で相談したことがある」と選択された方にお尋ねします。
どこに電話をして相談しましたか。

（「電話で相談したことがある」と選択された方 n = 90 複数選択回答可 回答件数 = 94）

警察署に電話で相談したことがある	70.2%	（ 66 名）
警察本部の代表電話番号、警察相談専用電話（#9110警察本部相談コーナー）に電話で相談をしたことがある	11.7%	（ 11 名）
警察に相談をしたことはあるが、どこに相談をしたか覚えていない	7.4%	（ 7 名）
その他	10.6%	（ 10 名）
無回答	0.0%	（ 0 名）

〔その他（抜粋）〕

- ・ 交番に相談をした 4件
- ・ 110番に相談をした 2件

〈7〉 今後、警察に電話で相談をする場合は、どこに電話をしますか。

（n = 374 複数選択回答可 回答件数 = 441）

警察署に電話で相談をする	62.6%	（276名）
警察本部の代表電話番号、警察相談専用電話（#9110警察本部相談コーナー）に電話で相談をする	32.9%	（145名）
その他	4.5%	（20名）
無回答	0.0%	（0名）

〔その他（抜粋）〕

- ・ 交番に相談をする（類似意見5件）
- ・ メールで相談をする（類似意見3件）

〈8〉 警察活動について、これまでの設問以外に意見がありますか。

〔回答内容（抜粋）〕

- ・ 犯罪の未然防止に向けた環境整備の推進（類似意見13件）
- ・ 交通違反や交通事故の未然防止に向けた環境整備及びドライバーへの再教育の推進（類似意見14件）
- ・ 常時、交番に警察官が駐在してほしい（類似意見3件）
- ・ 警察官という自覚をもって県民を守ってほしい（類似意見3件）
- ・ 優秀な警察官の人材確保の強化（類似意見2件）
- ・ 各種窓口の事務手続きの簡素化

令和5年度第2回県政モニターアンケート

(回答者構成)

項目		計		北九州	福岡	筑後	筑豊
		人数(人)	構成比				
総数	人数	371		90	194	56	31
	構成比		100.0%	24.3%	52.3%	15.1%	8.4%
性別	女性	207	55.8%	56	103	29	19
	男性	162	43.7%	34	90	26	12
	その他	2	0.5%	0	1	0	1
年代別	20代以下	59	15.9%	14	29	11	5
	30代	62	16.7%	14	33	10	5
	40代	71	19.1%	16	38	11	6
	50代	66	17.8%	17	34	11	4
	60代	83	22.4%	22	41	12	8
	70代以上	30	8.1%	7	19	1	3

モニター数 398人

回答数 371人

回収率 93.22%

実施期間 R5.8.21～R5.9.5

【回答結果の注意点】

- ・ 集計は小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は、必ずしも100%にならない場合がある。
- ・ 2以上の回答（複数回答）を要する設問の場合、その回答比率の合計は、100%を超える場合がある。

令和5年度 県政モニターアンケート調査結果

テーマ：県の広報活動について

福岡県 総務部 県民情報広報課

1. 調査目的

県では、本県の魅力や県政に関する情報を分かりやすく県民の皆さまにお届けするために、さまざまな広報媒体を使って情報発信をしています。

本アンケートにおいて、県民の皆さまのニーズを把握し、今後の広報活動の参考にさせていただくため、県の広報の現状について調査を行いました。

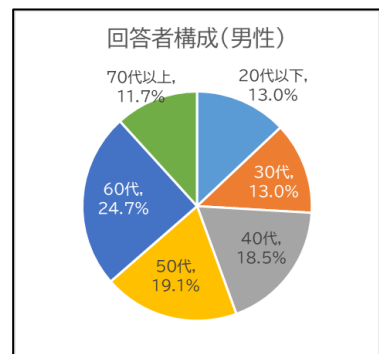
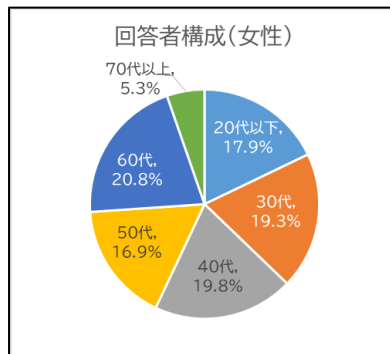
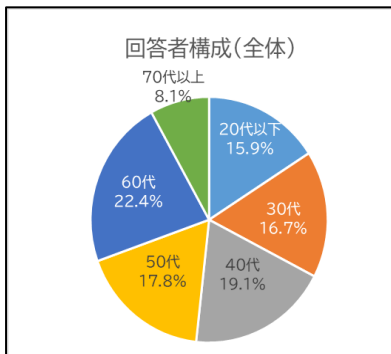
2. 活用状況

県民の皆さまのニーズを把握することにより、県の主要施策に係る広報について、より効果的なアプローチと内容の充実を図ることに活用します。

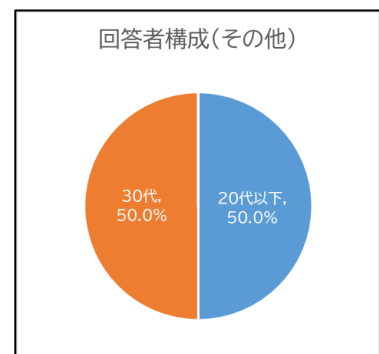
3. 調査時期

令和5年8月22日～9月5日(第2回)

4. 回答者の構成



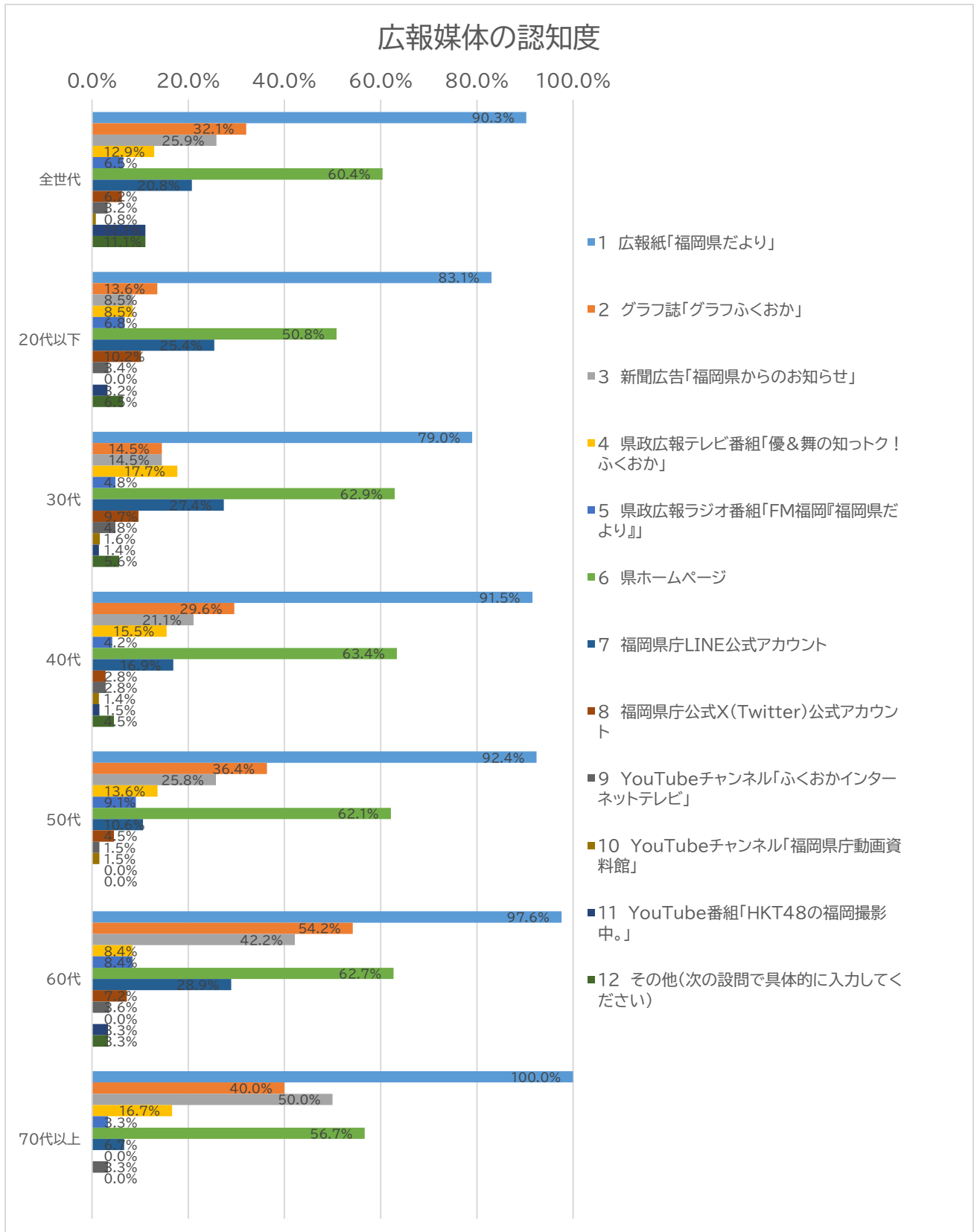
項目	計		北九州	福岡	筑後	筑豊	
	人数(人)	構成比					
総数	人数	371	90	194	56	31	
	構成比		24.3%	52.3%	15.1%	8.4%	
性別	女性	207	55.8%	56	103	29	19
	男性	162	43.7%	34	90	26	12
	その他	2	0.5%	0	1	1	0
年代別	20代以下	59	15.9%	14	29	11	5
	30代	62	16.7%	14	33	10	5
	40代	71	19.1%	16	38	11	6
	50代	66	17.8%	17	34	11	4
	60代	83	22.4%	22	41	12	8
	70代以上	30	8.1%	7	19	1	3



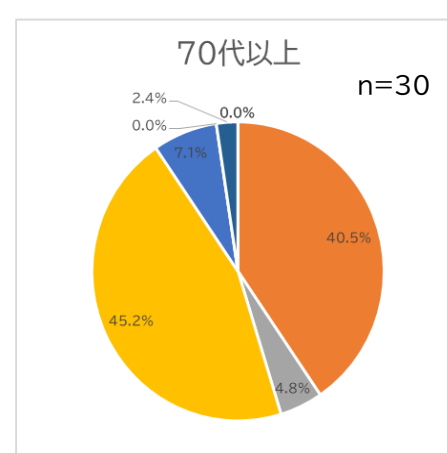
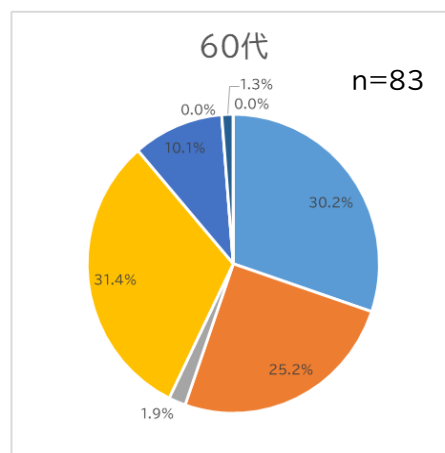
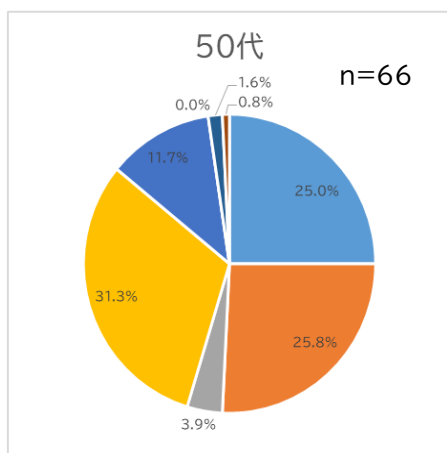
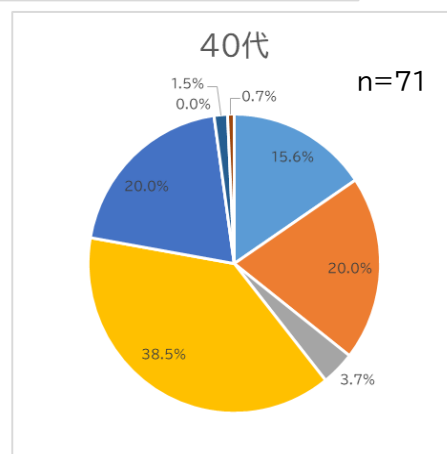
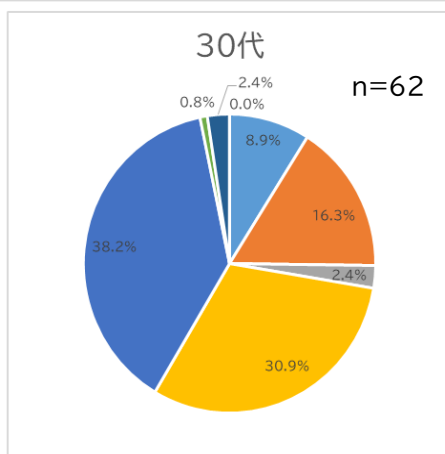
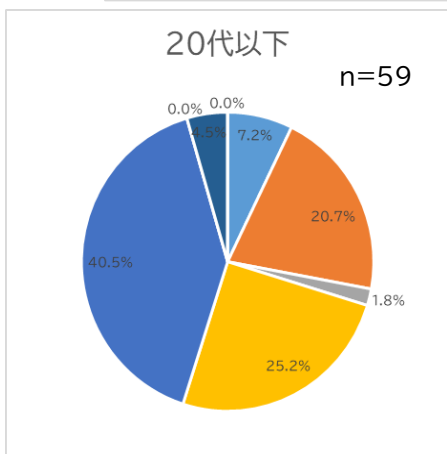
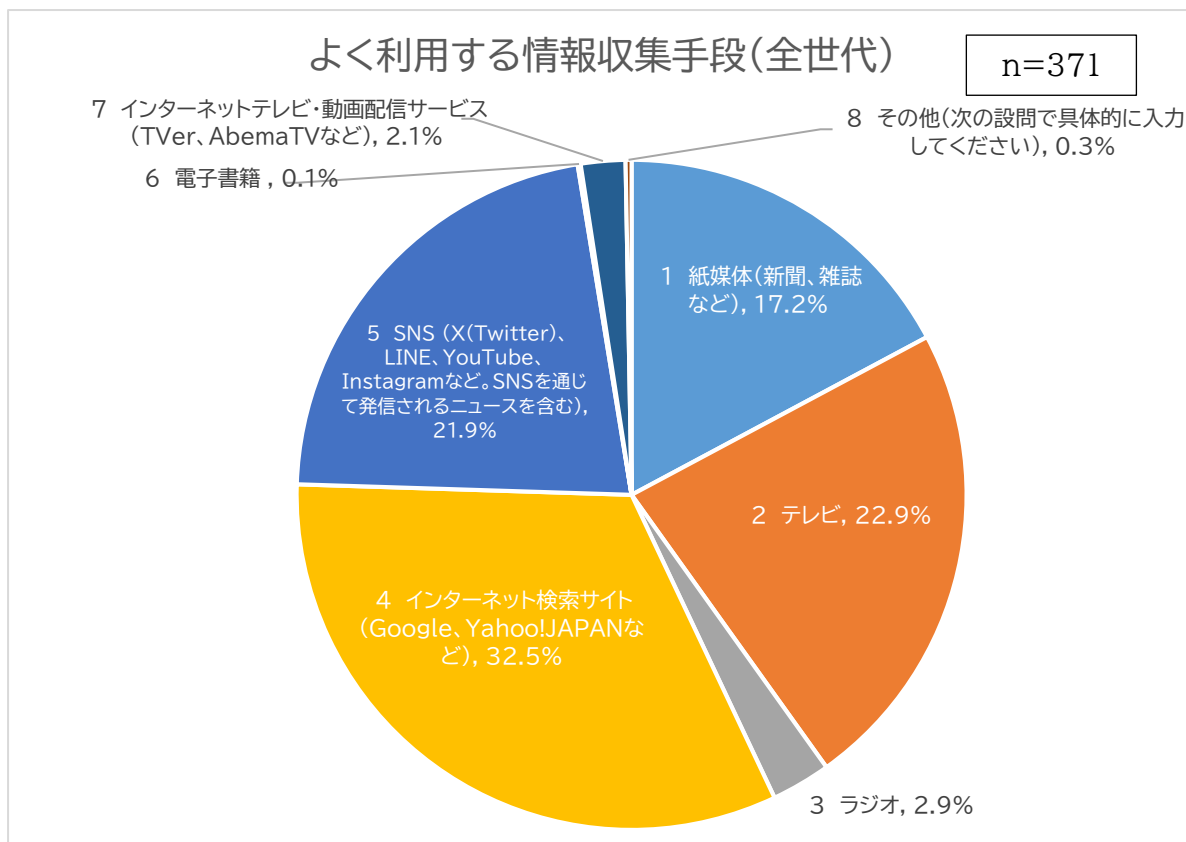
モニター数	400人
回答数	371人
回収率	92.8%

5. 回答結果

問 1 県の広報媒体(※1～※11)について、あなたが、県政モニターに応募される以前から知っていた、または見たことがあるものについて、次の中から【全て】選んでください。



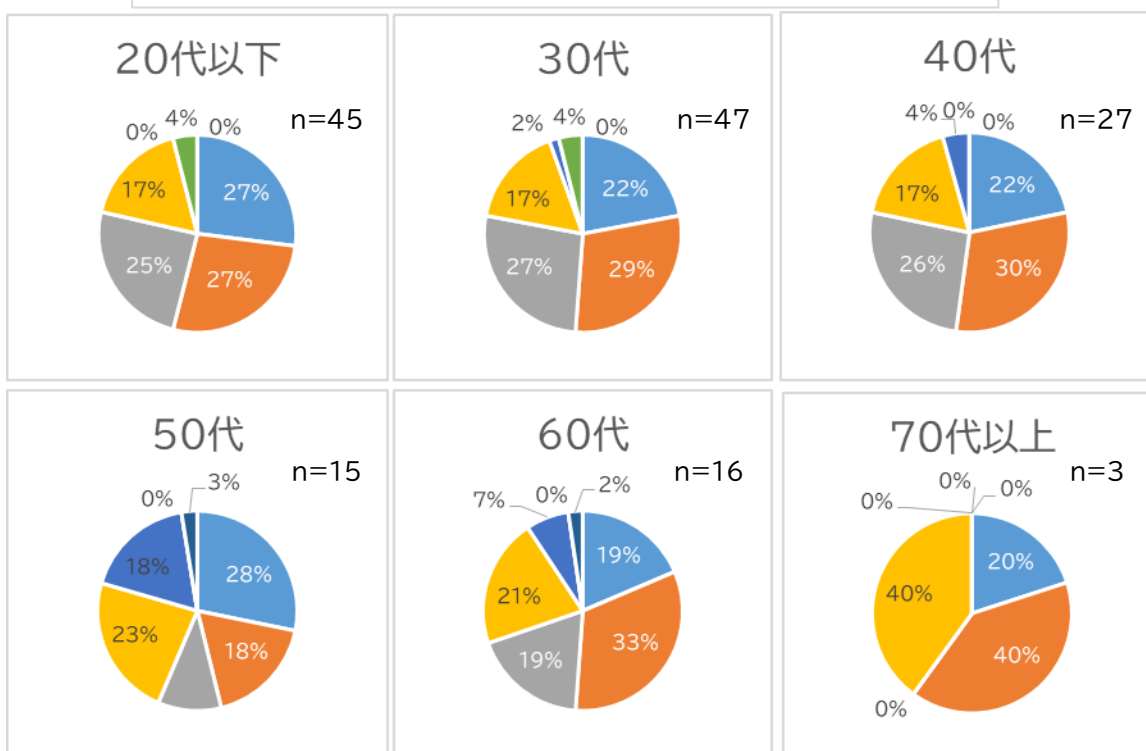
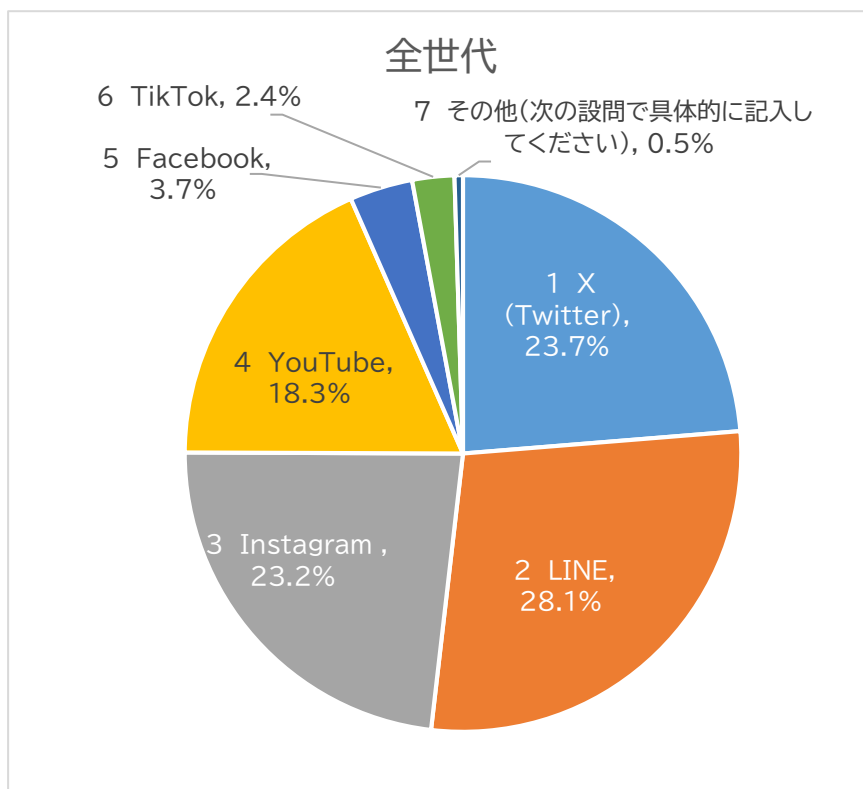
問2 あなたは、普段どのような手段で情報を入手していますか。県政に関する情報に限らず、一般的によく利用する情報収集手段についてご回答ください。
次の中から最も利用するものを【2つまで】選んでください。



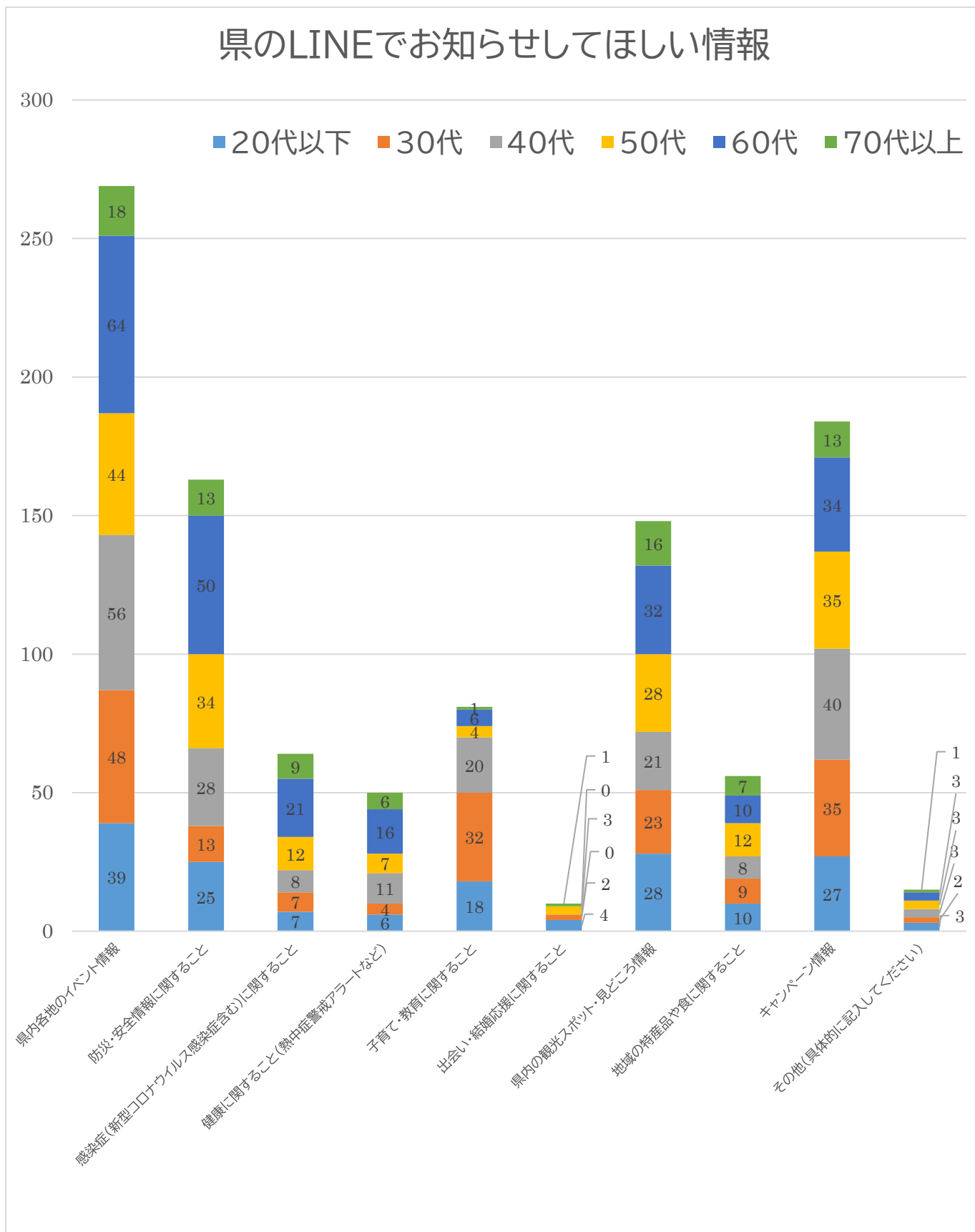
問2-2 その他回答

1	信頼できる方の講演会や勉強会に参加して情報収集を行っています。
2	イオン福津の入口にあるチラシが置いてある所で、福岡県県政モニター応募のチラシを見て、しりました。

問2-3 問2で「5」を選択された方にお尋ねします。
あなたが、最も利用する SNS の種類を【3つまで】選んでください。



問 3 県のLINE でどのような情報をお知らせしてほしいと思いますか。または、どのような情報があれば友だち登録してもよいと思いますか。
次に中から【3つまで】選んでください。



問3-2 問3で「7」を選択された方は、具体的に入力してください。

1	普段、窓口で聞かないと教えてくれない、社会福祉サービスや社会的弱者に対してのサービス情報
2	一つのアプリだけに限るのではなく、LINE 以外の方法での情報提供も考えて欲しい。
3	月毎に、お店で使えるクーポンをもらえる
4	不審者情報
5	・健康に関すること(県民の病気や死亡の推移、他都道府県や海外との健康対策の比較) ・子育て・教育に関すること(助成金や補助金の情報、10代の死因1位の自殺について解決策、過度なLGBT教育に対する問題) ・地域の特産品や食に関すること(オーガニックな農家や特産品の紹介) ・国防に関すること(外国人移民や外国資本の土地保有率の推移)
6	福岡県独自の行政動向など
7	手持ち花火ができる公園、町内レベルのお祭り情報
8	県の条例や制度など、政治に関わる変更があった際のアナウンス
9	個人的にLINEはしておりませんので悪しからず。
10	LINEは家族・知人や地域情報だけにしたいので、LINE友達での情報は遠慮しておきたいです。
11	医療機関情報(休日の診療や病状によってのおすすめの医療機関の紹介)。
12	お得情報やお金が絡む情報
13	補助金情報
14	県政や県議会議員について
15	求職案内や求職に関するイベント案内

問4 県の広報活動について、これまでの設問以外に意見がありますか。ある場合は、その内容を具体的に入力してください。

番号	内容
1	SNSでキッズチャムさんが子育て世代に向けて発信されているものをよく参考にさせていただいております。友人もよくみているようで、話題にもよく上がります。市政便りに募集ご載っている場合よりも競争率が高まりなかなか当選しなかったり、参加者が多くなっていたりと影響力の高さをひしひしと感じます。
2	高齢者に関するホットな情報
3	福岡県に住みたいと思ってもらうべく全国的にアピールしてほしい。魅力はたくさんある
4	広報で一回知らせていても、県民は、見逃していたり忘れてしまっているの、必要な情報は、繰り返す必要があると思う。
5	福岡県だけではないですが、各種自治体のホームページは見づらいところが多く、見たい情報になかなか辿り着けません。
6	体感として北九州市民は福岡県の情報をあまり重要視していないような気がします。北九州市と書いていなければ自分にはあまり関係ない情報とってしまいます。その隔たりを少しでも解消できるような情報発信があればと思います。
7	福岡県庁の公式LINEがあるのを初めて知ったが、LINEでどのような情報発信をしているのか知りたい。
8	災害(地震、津波、洪水など)の情報をラインなどで瞬時に知らせてほしい。
9	ユーチューブで情報発信していることを、もっと周知したらいいと思います。
10	安全情報に関わることは、もっと普通に受け取れるようにしてほしい。例えばPM2.5などや黄砂は天気予報と一緒に常に発信してほしい。
11	ネットでの広報が低予算でいいと思うが、高齢者が多いので、市政だより等が置かれている場所には、福岡県だより等、県の広報誌と一緒に配置すれば良いと思う。
12	福岡市付近の情報ばかりではなく一部に少し離れた田舎の紹介もいれてほしい

番号	内容
13	設問以外にとありますが、あえて意見を書かせてもらいます。県政広報テレビ番組「優&舞の知っく！ふくおか」非常に良い番組です。ユーモアがあっっておふざけでない演出、安心して情報収集できます。
14	県の広報活動については、主にテレビ(県政番組やCMを含む)と新聞から情報を得ているが、それを知って実際に現場に行ったり、何か行動したりすることはほとんどない。あらゆる世代に向けた広報のみならず、子ども・若者・ファミリー・高齢者・障害者・LGBTなど、それぞれの人たちの目線に合わせた広報のやり方もあると思う。
15	スマホやネットに弱い高齢者等で、テレビも無く新聞の購読もしていない者は、県の情報を得るには、広報誌の他は、郵便物や口コミに頼るしかありません。
16	子育て情報をもっと入れてほしいです。例えば、何歳向けなのか、ベビーカーの利用ができるのか、授乳室やおむつ替えスペースの有無等があるといいなと思います。また、「県」の広報なのに、福岡市やその近郊の広報というイメージが強いです。実際関係ないなと思っていつも見ていました。もっとローカル情報も載るといいなと思います。
17	福岡県のイベント情報は、カレンダーなど1日1日わかる情報の配信の仕方があれば、良いと思います
18	新聞で県の行事などを知ることが出来るのは良いです。地域の自治会からの広報紙の配布、最近ではインターネット検索で行事など判りますが、昨年など実施した際の参加者コメントなどがあると更に判り易く興味を持てるようになると思います。
19	福岡県だよりは月1回しか見ないので、モニターになって久しぶりにグラフ福岡を見ました。福岡の知らないところが写真入りで内容も観光、特産など色々興味深くて、とても良かったです。ただ、北九州でふだん見ることがないので、こんな情報があるのに伝わらないのが残念です。県政しおりだけでなく、もう少し福祉や教育など県の取り組みがわかるものがあつたら良いなと思いました。QRコードなど検索が簡単にできる仕組みも欲しいです。
20	引っ越して来た人が情報を探しやすいコンテンツがあると良いと思います。旅行者も大事なのですが、移住や、例えば転勤などで越して来た方がまた福岡に住みたいと思えるようなコンテンツがあるとPRになると思います。
21	福岡県の取り組みのPRについては買い物に行った際にも目にするようにスーパー等にもお願いできるような仕組みも必要ではないかと
22	福岡県内のふるさと納税、人気の返礼品などの紹介をしてほしいです。
23	市の広報はよくみるが、県の広報はあまり気にしたことがありませんでした。意識していないだけかもしれません。
24	県政に関心がある人はいろいろな媒体での発信でも積極的にみると思いますが、関心のない方々に県政を知っていただくには効果的な発信の仕方も工夫してみるのもいいと思います。 例えば、若い方にはSNS、年配者には老人会や自治会などを通じての発信、健康アプリにお知らせ機能を使つての発信、民生委員の方の訪問時に県政だよりの配布
25	プレミアム商品券や旅行券を取得するのに、パソコン等を利用できる老人は極めて少ないと思います。その様なイベントがあつても、その応募や参加に応えるべく作業を頼める近接の人たちもいないことも多く、さて申込み段階になって、二の足を踏む高齢者が多数あると思います。まだまだ、アナログ的な広報活動も必要かと思つています。
26	時々、県庁のホールで物産市をしてらっしゃいますが、もっと告知して頂きたいなあと思つています。 たまたま庁舎に伺つた時に開催していればラッキーですが、テレビのニュースで終わったのを観るとがっかりします。 沢山の県外の方や海外の方がいらっしゃつているので、空港や駅で県のイベントを告知したり案内をするといいと思つています。
27	事件や事故の情報も「安全・安心」に関わる事なので知らせてほしいと思つています
28	福岡県の食、観光などを主に投稿しているインフルエンサーに広報活動をお手伝いしてもらつたいかでしょうか。 私の個人的なことですが、旅行や食事に行くときにGoogleなどの検索サービスよりもインフルエンサーの投稿を見たほうが見つけやすいかつ分かりやすいと日々感じております。
29	市の広報活動の方が馴染みがある
30	KBCさんのように、毎週どこかの市町村をピックアップして、宣伝するような機会があるとよいかもしいない また、市町村カルタや市町村体操などキャッチーなものがあるとより県民の愛着度が上がるかもしれない
31	私が住んでいる地域が糸島なので、糸島に関しては広報紙やHP、ネット検索などしますが、福岡県に関してあまりに知らないことが多くびっくりしました。

番号	内容
32	<p>全国に言えることで、みなさんご存じと思います。 治山治水について</p> <ol style="list-style-type: none"> 洪水における山崩れ防止 植林を一斉に広い面積、同樹木のみにしなない。樹木の根張りが一様で浅く、植林前の地肌と根の間に雨水が流れ崩落が起きやすい。樹種を変える、同工エリアであれば時間をかけて植えていくなど方法を考え、防災処置を講じてほしい。 川の氾濫による災害防止 氾濫原の復活。川底を浚い、天井川を無くす。流木などが、安易に川に流れないようにする。 ダム放流 大雨の時にダムの水が満杯になるので放流することは危険なので早く対策を講じる。
33	県の情報誌が地元の情報誌と共に毎月届くが、ゴム輪で丸めてあり、丸く固まって情報誌が読みにくい。
34	どのような人を対象として作成されているのか分かりにくい。
35	「県便り」の内容が堅すぎる傾向があります。もっと砕けた内容にして、誰でも読める工夫をお願いします。
36	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安心安全が、まず第一だと思いますので、防災、感染症、事故、事件などの情報(出来れば、事前～途中～事後といった流れが分かるように)は必要な情報と考えます 2. 県地域の活性化という点では、一般的な情報は、色々な媒体で紹介されているので、隠れた情報を発信するなど、テーマを決めた独自性を期待したいと思います
37	具体的にこまめに発信されていると思います
38	『県政のしおり』と『グラフふくおか』の内容はとても良いと思いましたが、冊子は時間の余裕がないと読まない方が多いと思われます。世代に合わせた広報活動を検討してほしいと思います。 例えば小中学生や高校・大学生に向けては、学校の掲示板などに内容を絞ってポスターを作る。若い世代にはYouTube、中高年にはテレビ、ラジオなど。
39	住んでいる市の新聞は知っていましたが、福岡県だよりは知りませんでした。新聞をあまり読まず、インターネットやSNSで情報を入手している人、特に若者は、自分の興味のある情報以外の情報を得る機会が少なくなっていると思います。そのため、福岡県公式のSNSアカウントがあるということ、チラシや電子モニターによって公共施設や学校などで知らせ、自動的に人の目に入るような機会を増やすことで、福岡県の広報媒体の認知度アップに繋がると思います。
40	県内とそれ以外への広報内容は分けた方がいいと思います。県外や外国等に向けてのアピールは必要と思います。たくさんの労力を要するのはナンセンスですので、県内部分、県外部分、共通部分の3つを組み合わせ、ルーティンとして組み立ててはいかかかと思えます。その上で、多言語対応等も必要になると思います。
41	同じ県内でも、遠いところに行ったことがないので、もっと知れるような特集があると良いな、と思います。
42	テレビ番組やYouTubeなど、いろいろと広報活動されているようですが、今回はじめて知りました。できるかどうかは分かりませんが、重要なことについては、各自が勤務している会社を通じて通達するなどすると、もっと広まるかと思いました。
43	<p>国防に関しては、外国資本による太陽光パネルやTSMCの工場などの自然破壊や水源地の買収から有害物資の処理問題、汚染水による健康被害の問題が起きています。</p> <p>県民の所得推移の情報と今後の所得向上に対する県の計画や取組みについて 福岡市の一部では地価が上がり過ぎておりファミリー層は住める金額ではなくなっています。結果、近い将来自治体が成り立たなくなると考えられます。一度無くなった文化や伝統は復活させるのに20から30年かかると思います。</p> <p>外国人による土地買収問題は一つや二つではなく広く悪影響が考えられますので早期対策をお願い致します。</p>
44	最近の傾向として、詳しい情報をHPで確認するようにしていることがあると感じます。しかし、高齢者などはパソコンやスマホを使用していなかったり、そこから情報を得ることが困難な方もいると思われます。特に災害や感染症などの情報(ワクチン接種等)は、様々な人に情報が届くような工夫が必要だと感じます。
45	インターネット等を利用しない高齢者等も存在しているため、紙ベースの広報紙「福岡県だより」の内容充実(頁増も含む)が必要と思う。
46	福岡市と福岡県の活動内容や取り仕切っているイベントや公共事業の差について。
47	福岡県には、たくさんの特産物があると思います。もっとPRしてほしいというのが正直なところ。 あと、観光産業というと、いまいち、ピンとこない。SNSを使ってPRをお願いするなど、できないのかなと思います。
48	福岡県だより拝見していますが、もう少し、市政だより並みに内容のボリュームがあってもいいかと思えます。

番号	内容
49	広報誌 福岡県だより は欠かさず読んでいますが、情報量が少ないと感じる
50	生涯学習や、資格やスキルアップに関する講座の開催情報
51	私は福岡市に在住しているのですが、福岡市の情報発信との差別化が難しいところだと思います。私自身、福岡市の LINE に友達登録しているのですが、防災や安全情報に関することや、熱中症警戒アラート等については福岡市の情報発信で十分事足りています。そのため、福岡県の情報発信については福岡市外の情報に期待したいところです。そのため問3でお答えしたように、イベントや観光スポットなどの情報、特産品などの情報に力を入れた方が良いのではないかと思います。県内の全市町村が LINE を運用しているかは存じませんが、県と各市町村とで情報発信の棲み分けについて話し合いの場を持つのはいかがでしょうか。
52	福岡市の広報活動は各メディアで良く目にするが、県の広報活動は紙のみの認識が強い
53	福岡県だよりをもっと充実させてほしい。
54	災害の時に LINE で連絡があると便利です。通報もできるといいです。那珂川市は LINE で災害状況も写真などで通報ができるので、便利です。
55	プレゼント付きアンケートを SNS で発信してほしいです。若者に興味を持って欲しいし、年齢の高い人も、プレゼント付きだともっと SNS などを利用するきっかけになればいいと思います
56	県が知らせたいことと、県民が知りたいことの乖離があることに県側が気づくべきです。観光やキャンペーンなどの情報は、簡単にすぐにお得感が得られ、一瞬は満足するでしょうが、長くは続きません。県民がこの先何年も住み続けたい福岡県であるためには、長い目で見て有効な情報を発信するべきです。福岡県の人口、税収など県の財政に関するお知らせ、私たちの税金がどのように使われているか、議員はどのような活動をしているのか、市民団体の活動や参加方法、大きな決定に関する投票(〇〇の立て直しについて賛否を等)自分たちが住む県が、健全な県であるか、今後も安心して住める県なのか、関心がない県民はいないと思います。県民が考え、県民が県政に投票できたら、郷土愛もめばえると思います。県民が県政に関心を持つような発信をしてほしい。
57	県は福岡市に比べてちょっと地味な感じがあります。県独自のコンテンツや北九州特集、久留米特集など旅行したくなるコンテンツもあると楽しいと思います。
58	福岡県は LINE で色々やっているのは分かるのだが、「LINE による個人情報流出問題」が色々話題になっている現状で、LINE ばかり注力するのはやめて欲しい。LINE だけでなくほかの媒体とも連携して欲しい。
59	『福岡県だより』は送付されてくるのでよく読んでいますが『グラフ福岡』は内容がとても良くて読みたいのですが、たまたま県庁に立ち寄った時に入手するくらいなので、入手できる場所を増やしてほしいです。
60	広報手段は多岐にわたって情報提供されていると思います。県政に関するポータルサイトの細分化にももう少し工夫ができたと思うことと市町村情報(市町村ごとのデータ比較など)の情報量が少ないのが課題かと思っています。政令市の関係で課題があるのかもしれませんが・・・。
61	LINE は情報漏洩を含めて問題は有りませんか？国産のメッセージ+は、有りませんか？
62	年配の母(80代)はテレビや新聞から情報を得ているので、LINE などから発信する情報は得にくい。スマホからの情報を取る方法を簡単に教えてあげてほしい。逆に 20 代の子どもはテレビや新聞はほとんど見ないので、県からの発信を受け取る場合 SNS がメインのようです。私 50 代はこちらのモニターの案内をスーパーの入り口で手に入れたので商業施設などに広報の場があるのはとても良いし便利だと思います。
63	なかなか県内の情報を街中で見かけることがないので、駅などでもっと大きくキャンペーンしてほしいです。
64	福岡県だよりがページ無さすぎる。各市町村の広報誌と比べ、チープ過ぎだと思う
65	設問の選択肢を見て、福岡県発信の広報媒体がこんなにあったのかと驚いています。自宅に届く手軽さから「市政だより」に目を通す程度でした。
66	LINE とかならば、通知されるエリアを自身で選べるようなら助かる(例えば、福岡、北九州、筑豊、筑後のように)
67	これまで特に意識はしていなかったが、市と県の活動の違い、エリア分けなどがどうなっているのかな、と思うことがある。市と県の違い一覧表を用いて、イベントの紹介をつけると分かりやすいかもしれない。
68	福岡県の魅力は、まだたくさんあります。もっとPRして観光客の増加に繋げてほしいと思いました。
69	興味・関心がなければ情報を入手する意識が弱いです。これからインターネットが身近な入手の手段として、ますます利用が多くなると思います。注意して検索したいです。

番号	内容
70	条例に変更があった場合などに情報提供があるといいです。
71	県民の年齢や世代により必要な情報が異なるため、きめ細かい情報提供が重要である。
72	私は福岡市に長く在住しています。情報源は福岡市から大きいのですが、その境界部や福岡都市圏の情報や北九州市や全県的な情報の発信をお願いしたいと思います。そこが、福岡県の情報発信機能の重要なところですよ。
73	市政だよりは読むけど、なかなか福岡県だよりは読まないことが多いです。不妊治療の助成金のことも、もっとアピールしてほしいです。新聞を読んでも友達に教えてもらって調べたぐらいで、なかなか県の政策を知ることがないと思いました。
74	県の魅力や県政に関する情報を分かりやすく届ける為に色々広告媒体で情報発信してます。若い世代には県のライン等で情報発信が好ましいと思います。年配者は福岡県だより、クラブふくおかの広報誌が情報収集の手段だと思います。私の両親もそうです。
75	広報誌は地域で配られるので目にする機会はありますが、LINE やツイッター等で見ることはありません。興味の内容(グルメや特産品等)やプレゼント等を広報誌で取り上げ、LINE やツイッターでの応募にするとLINE やツイッターのフォローやYouTube を目にする機会が増えるのではないのでしょうか。
76	子育て世代の為にサービス等の情報は沢山あるのに、単身者や夫婦だけの世帯の情報が少なすぎます。
77	家に直接届く広報誌が一番情報源になりやすい。SNS やインターネットでの広報は他の情報に埋もれてじっくり見ることが出来ない。紙での広報をより充実したもの(保存しておきたいようなもの)にするのが他との差別化となり、良いと思う。
78	簡単に入力できるように再度お願いしても中々改善されない。
79	福岡県出身の有名人が数多く活躍されてますので、その方達に様々な観点から協力してもらえると、福岡県の認知度が上がると思います。
80	政令市に住んでいると、市内だけの情報入手に偏りがちです。福岡市の水の3割が筑後川等の市外からの供給で賄われていること等、県内各市町村との連携協力が不可欠です。そういう意味からも県全体を見据えた県の広報は必要不可欠です。
81	広報活動ではありませんが、8月上旬来庁した際、館内の冷房が低すぎ、寒すぎと感じました。職員の健康や光熱費を考えると、設定温度をもっと上げてほしいのではないのかと思いました。
82	イベントなどがあっても気づいたら終わってしまっていることも多いので、もっと効果的にPRしてほしいです。
83	福岡県の広報は、地域が広範囲に広がっているのになかなか難しいと思いますが、やはり県民の興味をひくような広報が必要だと思います。
84	私は普段色々な情報媒体を使っているが設問2では一つしか該当がなかった。LINE の事も You Tube の事も知らなかった。ちなみに福岡市のLINE は友達登録している。
85	県の予算に関して、詳しく記載してほしい。地域のイベント情報も詳しく、お願いします。
86	キャンペーンやプレゼント応募企画が充実するとそれを目当てに広報誌や県のサイトを求める方が多くなるのではないかと思います。広報誌を見たこともない人が県を知る機会になるのではないかと思います。
87	JR九州、西日本博多駅、西鉄福岡天神駅等のデジタルサイネージを利用する
88	子育て世代の方々に向けての情報(子育て、教育、助成金等)をもっと増やしてほしい。
89	県の広告媒体がこんなにあることをこのアンケートで知りました。ほとんど周知されていないのがもったいない！もっとインパクトのあるネーミングにしてみれば印象に残すことをしたほうが良いのではないかと思います。
90	LINE を登録していますが、親しみやすく良いアカウントだと思います。運用されている方、いつもありがとうございます。職場と家が離れている人には市町村だけでなく県単位の広報が役に立つと思っています。また、今までの世代は政治について触れないのが良いような価値観だったかもしれませんが、今の日本の政治が非常に堕落しているのでもって県単位ではマシになってほしいと考えています。そのため、支払った税金がどう使われているか、県議会などでどんなことについて議論してどんなことを決めたかを通知していただくと嬉しいです。
91	そもそも発信量が少ないと感じる。若者向けにLINE やYouTube もよいが、テレビ発信を増やしてほしい。
92	今は自治体に入っているため県の広報誌が自宅に配布されるが、以前住んでいた地域では1度も配布されることがなかった。どの年代のどの地区の県民にも情報が届くようにすることが必要だと思います。

番号	内容
93	日常の情報をもっと頻繁に発信すべき。
94	福岡市や早良区の広報に関しては、広報誌が投函されるためほぼ毎回熟読しています。一方で福岡県の広報活動を問われると、正直なところどういった媒体があるのかを知らず、回答に困ってしまいました。私も Z 世代と呼ばれる世代のため、普段は SNS からの情報取得が多いのですが、福岡県の魅力を発信する専用の SNS 活動を活性化させるのはいかがでしょうか。また、福岡県を独自で PR しているインフルエンサーもかなり多くいます。そういった方々と協力して、官民連携して福岡県の魅力度アップにつなげてほしいと考えています。
95	駅や電車内の広告を利用すると思う。広告に QR コードをつけて、詳しくはそちらを見るようにすると、いちいち必要な情報を探しに行く手間が省け、県民にとって必要な情報がアクセスしやすくなる。広報において、アクセスのしやすさ(SNS は情報が大量で埋もれてしまうので、案外アクセスしにくい)が大事だと思う。
96	もっとテレビの利用を増やしたほうがいいと思います。まだまだテレビの影響力は大きいのです。
97	もっと SNS を活用したほうがいい。紙の媒体を目にする若者が少ないので、音声、動画などを活用すべきだ。
98	正直申し上げますと、福岡市の LINE は登録していましたが、県の LINE は意識したことがありませんでした。市に関してはゴミ収集で必要となったため登録しましたが、県の LINE は何を発信しているのか、何が出来るのかが全く認知されていないので、周知が必要だと思います。
99	他県と比較し、公式 LINE など、とても便利な情報の発信ができています。
100	福岡県が YouTube や LINE で広報活動をしていることは知らなかった。福岡市の広報と比べても知られていないのではないかと。もっと積極的に PR すべきと考える。
101	広報をどのくらい実際の行動に活かしているか
102	現状、LINE を使用する広報活動は致し方ないと思いますが、情報漏洩のリスクなどを考えると国内(開発・データ管理)のコミュニケーションツールを活用する方向をご検討いただければと思います。現在、最適なツールは無いと考えますが、地方行政から国へと働きかけ、その動きを強いものにしていく必要があると考えます。それが将来的に国益につながるのではないのでしょうか？
103	イメージキャラクターがもっと分かりやすくて親しみやすいものだと良いと思います。大野城の大野ジョー君など、分かりやすくて覚えやすく、とても人気なので、福岡県のキャラクターの知名度をあげると県内外にアピール出来ると思います。県の公式ラインなどでもそのスタンプを使ったりと、若者にも受け入れやすいと思います。
104	質問の趣旨と逸れるかもしれませんが交通機関を利用した(駅や車内)外国人向け福岡情報(この時期なら熱中症アラートなどで水分補給の必要性など)をお知らせする。
105	助成金のこと、決定された今後変化があることのお知らせがほしいです。
106	費用対効果で言うと、今は TV、ラジオよりインターネットの方が効果的と思う。県が、どの位予算編成しているか知りたい。
107	福岡県独自のスタンプに人気が出ると鼻高々になると思います。
108	LINE を使わない県民に対する配慮がないのは遺憾だ。
109	福岡県が全国ランキング上位だけど、意外に知られていないこと、もの、人などを紹介してほしい。それを楽しむためのアドバイスなども。
110	各市での活動比較、県としての全体を俯瞰した分析結果が、知りたい。分析結果に基づいた対策ができる様な広報活動。
111	県の広報紙だけでは知りたい情報が少なく、もっと目に入りやすい広報活動をしてほしい。
112	防災、安全情報を扱うことを考えますと安全保障上、また国力、県(民)力向上の観点から、LINE では無く国産アプリを使用、推進していただきたい。

番号	内容
113	コロナ禍で海外どころか国内旅行も行く事がなくなり車で 2 時間以内位の所に行く事が増えました。そして何十年も前から何度も横を通っているのに知らないスポットが多くある事に気づきました。Google マップで福岡県を見ていると知らない場所が本当にたくさんです。観光スポットだけではなく、あまり知られていないけど歴史的な場所などを教えていただきたいです。私は涼しくなったら春に見つけた志賀島の万葉歌碑を少しずつ探してみようと思っています。何十年も何十回も横を通っているのに気づかなかったのです。
114	県のホームページは必ず目を通します。ラインでの県・市の発信はタイムリーで見やすいです。地産地消に興味があり、エコファームにも参加していますが、地産地消の商品がもっと紹介されるとうれしい。食に興味があります。
115	福岡県の観光情報について。おそらく福岡県には太宰府や糸島以外に素敵なおとろががたくさんあると思うものの、観光アピールが不足しているように感じる。
116	福岡県ではいろいろな媒体を通じて広告されていると思いますが、ほとんど記憶がありません。知事が時折農産物のコマーシャルに出てるのを見かけるぐらいで、福岡県の観光地、穴場、おいしい食べ物・・・などいくらでも誇れるところがあると思いますが、そういうコマーシャルにほとんどお目にかかりません。広く広告されることを望みます。
117	福岡県は外国籍の人も増えてきているので、外国語版の広報活動もあるといいと思います。県内の観光情報は、県外の方たちにも有用な情報となるように意識すること、またビジネス的な観点から旅行代理店などへは別途ビジネス的な情報を加味して発信して観光客を増やす取り組みにつなげてもらいたい。
118	インターネットで十分に広報活動も充実していると思います。
119	SNS 等にたどり着くまでの道のりをする事が重要だと思います。高島市長のレパゼンコラボ等話題になってからくる媒体なので
120	学生時代、長崎の学校に行って、長崎新聞をとってました。 西日本新聞の地域欄のようなところに、今日のお祭りの予定などが書いてあり、出掛けてました。 今は、テレビの情報番組で、今日から〇〇祭が始まりましたと、後から知ります。 ホームページや、福岡県だよりなどで、予定などを知らせてほしいと思います。
121	県の文化体育施設の情報を、インターネットで検索している。休館情報などのお知らせが分かり重宝するが、設備等の広報内容が乏しくお知らせ広報板程度に利用している。
122	商業的な事は人口的にも福岡市内の話題が多くなるとは思いますが、地方の話題もふくめて、福岡県内の自然に関する事項のニュースや紹介記事が増えると嬉しいです。登山をしていると環境税？を使って整備されていますと言う看板を見る機会があります。山に限らずそこに行かないと見聞きできない県の取り組み等を紹介したらいいと思います。
123	福岡県民がよりよく楽しめる内容を発信して欲しいですね
124	LINE は便利で個人でのやり取りによく使っています。 ただ、県の広報活動に使うのはセキュリティ面でどうでしょうか？
125	公共交通機関や公共施設などでポスターなどで QR コードを使用して広報サイトにアクセスしやすくしてほしい。
126	1、地域の教育と福岡県の指導方針 高校の募集定員に満たない実態の解消。例えば普通課程の進路実態は入学時と相当違う、進路指導をしっかり指導し目標に向かって努力する指導を早くからしてほしい。 2、老人ホームと福岡県の指導方針 体験入居者、長期入居者も自宅に早く帰りたい様子、気持ちを整理し居心地よくするためには、ホームスタッフあげて寄り添う研修が必要。
127	プレミアム商品券が市町村に限られているので購入品がいつも同じになってしまいます。県内全域で使用出来る商品券も提供して頂けるととても嬉しいです。
128	県知事がこれから展開していこうと考えていることなど、県議以外でも知らせてくれたらと思うことがある。
129	新しい情報(新規スポットやお得なキャンペーン、イベント)などがあると助かります
130	若い人や子供でも分かりやすいように、マンガで情報を発信してくれるとうれしいなと思います！
131	紙媒体での発信も良いが、これからはデジタル媒体に力を入れた方が経費削減にもなって良いと思う。
132	より子育ての地域の情報に根付いた広報活動があると助かります。
133	海外との交流について・・・現在福岡に在住の外国の方が何人ぐらい住んでいるのか？とか訪日される方の人数とかも知りたいと思います。
134	私は X(Twitter)をやっておらず、Instagram と LINE のみを利用しています。 Instagram でも X(Twitter)同様写真や動画をアップすることが出来るため、X(Twitter)と同じ内容でもよいと思うので Instagram を開設するのもありだと思います。

番号	内容
135	外国人の私にとって、福岡県の情報以外に、もし同じような外国出身の方々と定期的に交流ができればいいなあと思います。
136	私が住んでいるところは久留米市ですが、あまり福岡県の情報は入って来ません。福岡県の情報が街にあふれかえるくらい活気が欲しいです。
137	県の広報誌の紙質が良くないと感じています。お隣の佐賀県は「さがすき」というタイトルで写真や話題を、わかりやすくまとめています。手触りもよい。まずは手に取ってもらう意味で紙質を見直してはいかがでしょうか。
138	広報紙「福岡県だより」ですが、紙媒体を無くす、もしくは、選択性にしてほしい。紙媒体が必要な人は公民館に取りに行く等、何か改善して欲しい。
139	自分なりに収集できていると思いますが、もっと地区別の見所やグルメ等の情報発信が対外的(ネット系)に出来るといいなと思います。4地区より細分化したエリアで例えば北筑と南筑。あとどうしても福岡市発がメインになりがちですので、例えば佐賀空港発熊本入り、大分入りのルートもあっていいのではないかと(難しいですかね?)
140	県の広報活動の範囲は大変幅広いので、大項目で分類したうえで、記事を読めるようにしたら、探しやすいと思う。
141	私はこれまで多くの都道府県に住みましたが、福岡県はととも住みやすくまた、食べ物が美味しく、魅力的な観光地が比較的多くあると思います。現在、福岡県は元気がある都道府県と言われているため、今まで以上に国内外にPR活動をしていただき、更に元気な福岡県を目指していきましょう！
142	県の職員はおそらく多忙であるため、広報については外部人材を登用して戦略的に実施すると新たな視点により効果が現れると思う。

<「ふくおか健康ポイントアプリ」の認知度について>

【調査の目的】

県では、県民の皆様の健康寿命を延ばすため、「ふくおか健康づくり県民運動（※1）」を推進しています。その中で、県民一人ひとりが日々の運動や食生活の改善、健（検）診の受診、健康教室やイベントの参加などの健康づくりに積極的に、楽しみながら、継続的に取り組んでいけるよう、令和2年2月に「ふくおか健康ポイントアプリ（※2）」の運用を開始しました。

アプリの運用開始から、3年が経過したため、アプリの認知度や活用状況をお聞かせいただき、今後のアプリ運用の参考とさせていただきたいと思っております。

（保健医療介護部健康増進課）

※1 ふくおか健康づくり県民運動とは

県民の健康寿命の更なる延伸を目指し、保健、医療関係団体、経済団体、企業、大学、マスコミ、地域団体、行政など、様々な分野の関係団体が一体となって、県民の自主的な健康づくりを県民運動として展開しているものです。

※2 ふくおか健康ポイントアプリとは

運動や健康管理など日々の健康づくりによりポイントを貯めることができ、そのポイントを活用し特典協力店でのサービスや県や市町村が実施するキャンペーンへの参加など楽しく続けられる機能や仕組みを備えたアプリです。

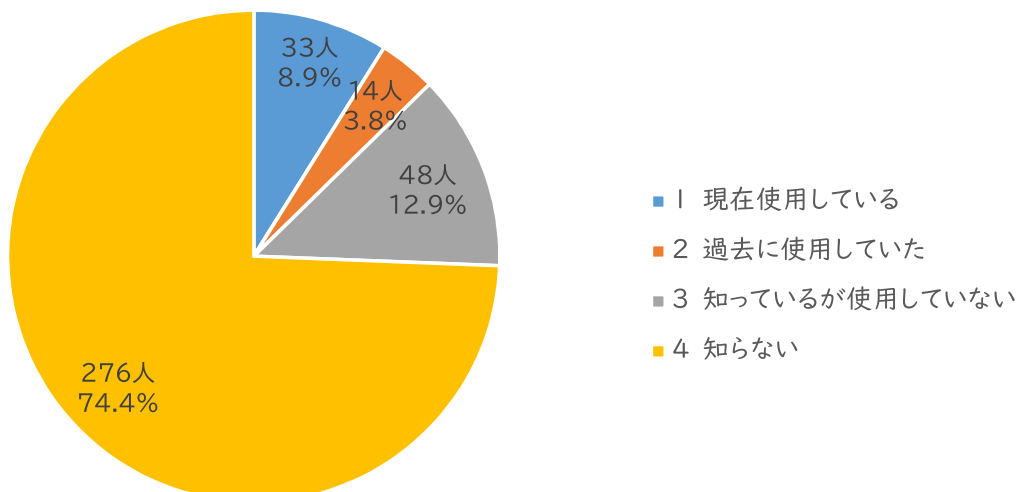
【活用状況】

・今後のふくおか健康ポイントアプリの運用の基礎資料として活用します。

問1 「ふくおか健康ポイントアプリ」を知っていますか。次の中から【1つだけ】選んでください。

(n=371)

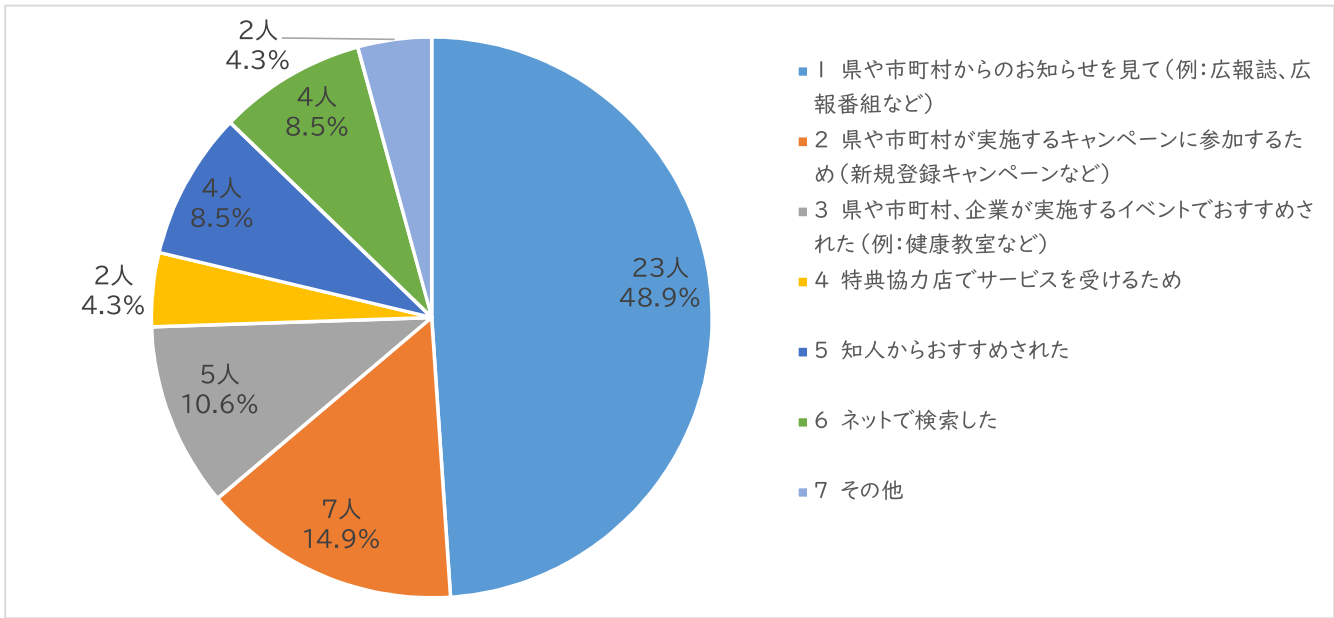
1 現在使用している	8.9%	(33人)
2 過去に使用していた	3.8%	(14人)
3 知っているが使用していない	12.9%	(48人)
4 知らない	74.4%	(276人)



問2（問1で「1」または「2」を選択された方にお尋ねします。）アプリをダウンロードしたきっかけは何ですか。次の中から【1つだけ】選んでください。

(n=47)

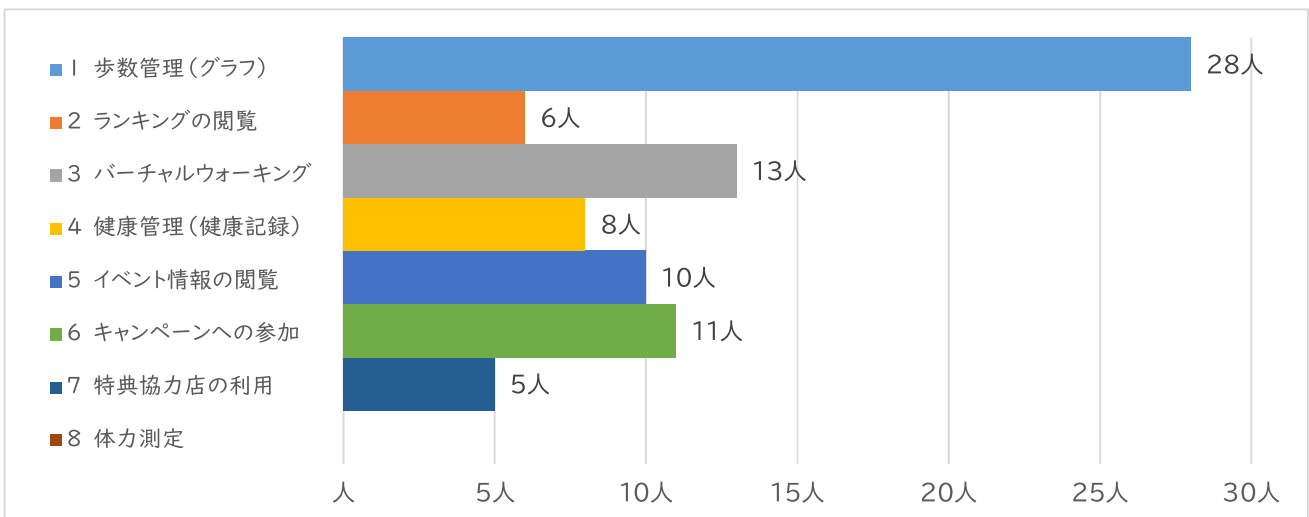
1 県や市町村からのお知らせを見て(例:広報誌、広報番組など)	48.9%	(23人)
2 県や市町村が実施するキャンペーンに参加するため(新規登録キャンペーンなど)	14.9%	(7人)
3 県や市町村、企業が実施するイベントでおすすめされた(例:健康教室など)	10.6%	(5人)
4 特典協力店でサービスを受けるため	4.3%	(2人)
5 知人からおすすめされた	8.5%	(4人)
6 ネットで検索した	8.5%	(4人)
7 その他	4.3%	(2人)



問3（問2で「1」を選択された方にお尋ねします。）利用している機能を【すべて】選んでください。

(回答数=81件、複数選択可)

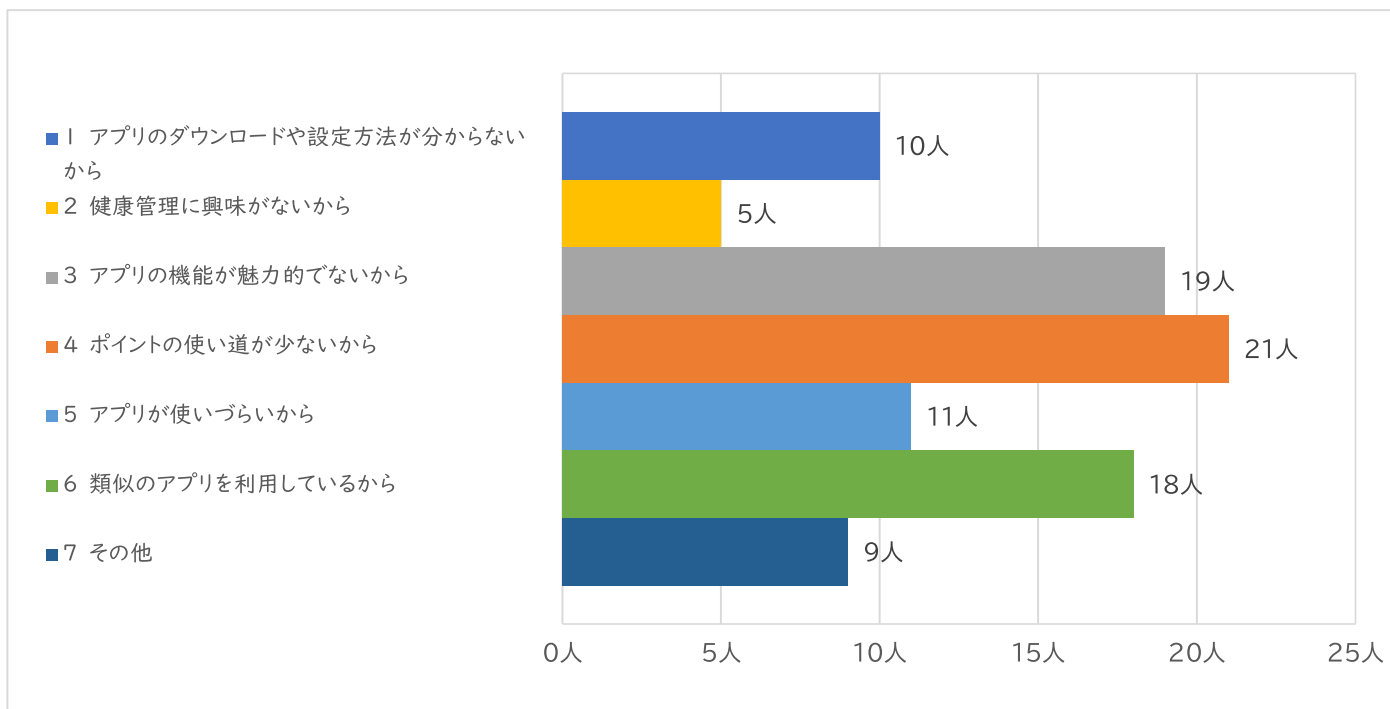
1 歩数管理(グラフ)	34.6%	(28人)
2 ランキングの閲覧	7.4%	(6人)
3 バーチャルウォーキング	16.0%	(13人)
4 健康管理(健康記録)	9.9%	(8人)
5 イベント情報の閲覧	12.3%	(10人)
6 キャンペーンへの参加	13.6%	(11人)
7 特典協力店の利用	6.2%	(5人)
8 体力測定	0.0%	(0人)



問4 (問1で「2」または「3」を選択された方にお尋ねします。)
「ふくおか健康ポイントアプリ」を利用していない理由は何ですか。次の中から当てはまるものを【全て】選んでください。

(回答数=93 複数選択可)

1 アプリのダウンロードや設定方法が分からないから	10.8%	(10人)
2 健康管理に興味がないから	5.4%	(5人)
3 アプリの機能が魅力的でないから	20.4%	(19人)
4 ポイントの使い道が少ないから	22.6%	(21人)
5 アプリが使いづらいから	11.8%	(11人)
6 類似のアプリを利用しているから	19.4%	(18人)
7 その他	9.7%	(9人)



問5 問4で「7 その他」を選んだ場合は、その内容を具体的にしてください。

福岡市民だけの利用かと思っていました。
育児休暇中で、時間がなかなか取れない。復職したら活用したいと思ってます。
やりはじめるのに躊躇いが有り、少しめんどうに感じる。
健康イベントには関心があるが、参加できるかわからないことや、福岡市などで行われていると休みに行く元気がない。
数日前に友達から聞いたばかりで、まだ何もしていません。
スマホの容量を取るから。
日頃から、あまりアプリ自体を使わないため。
名前は聞いたことあるが、具体的にどのような特典があるのか分からないから。
名前は聞いたことありましたが、大牟田に住んでいて、街では広告をみたことがないので対象地域なのかわからなかったので登録していません。

【主な意見(抜粋)】

(アプリの機能に関すること)

- ・デザインが大事なので改善してほしい。使いやすいものにしてほしい。
- ・類似のアプリがあるので、県のアプリを使う必要性を感じない。
- ・高齢者でも分かりやすく簡単なものにしてほしい。アプリの説明の機会がほしい。
- ・市が独自で運用しているアプリもある。市と県がやるのが重複しているのもったいない。
- ・初めて知ってダウンロードをしたが、色々と活用できそう。順位が出て楽しく参加できそう。
- ・簡単なゲームで楽しく脳トレができ、ゲームをすることでポイントが貯まればよい。
- ・食事バランスの入力が面倒くさい。食事パターンが決まっているものはすぐに登録できるようにしてほしい。
- ・やれることが多すぎて何のためのアプリなのかよく分からない。
- ・自身に対するアドバイスがほしい。
- ・健康記録がカレンダーで見れたら嬉しい。
- ・他県のアプリでデジタルスタンプラリーが楽しかった。

(広報に関すること)

- ・初めて知ったので、SNSやテレビ、ラジオなど幅広い広報が必要なのは。
- ・地方で広告を見たことがない。
- ・どのようなアプリか分からないので、詳しく広報を行ってほしい。
- ・毎月広報誌やSNSに載せるなど周知の機会を増やすべき。
- ・広報誌は毎月見ているが、知らなかった。目立つように掲載をしてはどうか。
- ・県のホームページで探してみたが、見つからなかった。
- ・企業や医療機関などと連携して広報を行ってはどうか。
- ・健康診断のときに周知を行うと良いのではないか。
- ・ジムや公園などの運動に関係のある施設や、バス停や自転車置き場などに広告があると良いのではないか。
- ・若い人の中では浸透していないと感じる。
- ・アプリを使っている人の意見を聞きたい。今回初めて知ったが、他の人がアプリをどこで知ったのかを知りたい。

(特典等に関すること)

- ・ポイントの使い道が少ない。魅力を感じない。
- ・ポイントはやる気に繋がるので、良いと思う。
- ・家の近くに特典協力店がないので増やしてほしい。ジムやプールなどを増やしてほしい。
- ・公共施設のジムの無料体験があれば良いと思う。
- ・景品を魅力的なものにしてほしい。(電子ポイントへの交換、県産品、商品券など)
- ・キャンペーンやイベントを増やしてほしい。
- ・イベントや特典が福岡市内が中心で活用したくてもできない。
- ・市町村でのイベントが身近なので、様々な市町村のイベントが見られるようにしてほしい。

<救急医療電話相談(#7119)について>

【調査の目的】

近年、救急搬送人員は年々増加しています。高齢化の進展とともに、救急医療の需要はさらに高まっていくものと予想され、救急医療及び救急車の適正利用が課題となっています。

このような状況を踏まえ、福岡県では、急な病気やケガの際に「救急車を呼んだ方がいいのか」「病院をすぐ受診した方がいいのか」といった相談に対応する電話相談窓口(救急医療電話相談(#7119))を、平成28年から開設しています。

相談の利用件数は年々増えてきておりますが、事業の周知のあり方が課題となっています。このため、皆様のご意見をお聴かせいただき、今後の事業の周知の参考とさせていただきますと思います。

【活用状況】

事業の広報手法を検討するための基礎資料として活用します。

(保健医療介護部 医療指導課)

<救急電話相談とは>

看護師が24時間365日体制で電話対応し、急な病気やケガの際の医療機関受診の緊急度や救急車利用の要否などについてアドバイスをを行います。

電話番号は、短縮ダイヤル「#7119」又は「092-471-0099」です。

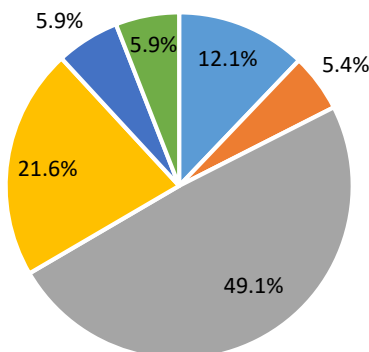
なお、同じ番号で電話による「医療機関案内」も行っています。

「医療機関案内」では「今診療している最寄りの医療機関を知りたい」といった問い合わせに、オペレーター(案内員)が24時間365日体制で対応しています。

(1) 休日・夜間に診療可能な医療機関を、主にどのような方法で見つけていますか。

(n=371 選択肢は一つのみ)

1 救急電話相談(#7119)へ電話	12.1%	(45名)
2 かかりつけの医師に相談	5.4%	(20名)
3 ふくおか医療情報ネットなど、インターネットで検索	49.1%	(182名)
4 市町村の広報紙や新聞の情報	21.6%	(80名)
5 消防署へ問い合わせる	5.9%	(22名)
6 その他	5.9%	(22名)
無回答	0.0%	(0名)



- 1 救急電話相談(#7119)へ電話
- 2 かかりつけの医師に相談
- 3 ふくおか医療情報ネットなど、インターネットで検索
- 4 市町村の広報紙や新聞の情報
- 5 消防署へ問い合わせる
- 6 その他

<内訳(地区別)>

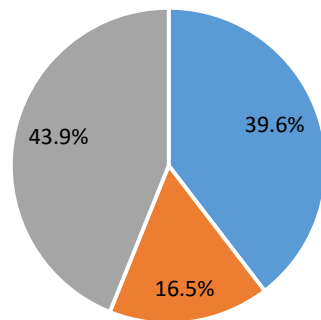
福岡地区 (n=194)		
1 救急電話相談(#7119)へ電話	10.8%	(21名)
2 かかりつけの医師に相談	3.1%	(6名)
3 ふくおか医療情報ネットなど、インターネットで検索	55.2%	(107名)
4 市町村の広報紙や新聞の情報	19.1%	(37名)
5 消防署へ問い合わせる	4.6%	(9名)
6 その他	7.2%	(14名)

北九州地区 (n=90)		
1 救急電話相談 (#7119)へ電話	15.6%	(14名)
2 かかりつけの医師に相談	5.6%	(5名)
3 ふくおか医療情報ネットなど、インターネットで検索	50.0%	(45名)
4 市町村の広報紙や新聞の情報	18.9%	(17名)
5 消防署へ問い合わせる	6.7%	(6名)
6 その他	3.2%	(3名)
筑豊地区 (n=31)		
1 救急電話相談 (#7119)へ電話	12.9%	(4名)
2 かかりつけの医師に相談	9.7%	(3名)
3 ふくおか医療情報ネットなど、インターネットで検索	29.0%	(9名)
4 市町村の広報紙や新聞の情報	32.3%	(10名)
5 消防署へ問い合わせる	9.7%	(3名)
6 その他	6.4%	(2名)
筑後地区 (n=56)		
1 救急電話相談 (#7119)へ電話	10.7%	(6名)
2 かかりつけの医師に相談	10.7%	(6名)
3 ふくおか医療情報ネットなど、インターネットで検索	37.5%	(21名)
4 市町村の広報紙や新聞の情報	28.6%	(16名)
5 消防署へ問い合わせる	7.1%	(4名)
6 その他	5.4%	(3名)

(2)救急電話相談(#7119)を知っていますか。

(n=371 選択肢は一つのみ)

1 知っており、利用したこともある	39.6%	(147名)
2 知っているが、利用したことはない	16.5%	(61名)
3 知らない	43.9%	(163名)
無回答	0.0%	(0名)



- 1 知っており、利用したこともある
- 2 知っているが、利用したことはない
- 3 知らない

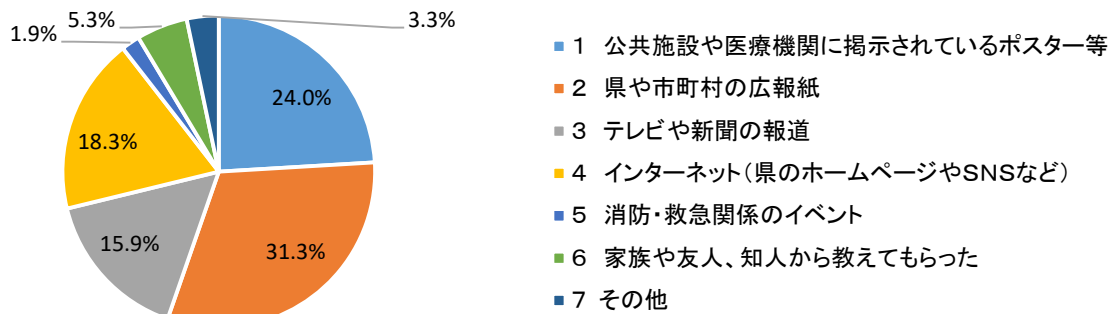
<内訳(地区別)>

福岡地区 (n=194)		
1 知っており、利用したこともある	40.7%	(79名)
2 知っているが、利用したことはない	17.0%	(33名)
3 知らない	42.3%	(82名)
北九州地区 (n=90)		
1 知っており、利用したこともある	37.8%	(34名)
2 知っているが、利用したことはない	13.3%	(12名)
3 知らない	48.9%	(44名)
筑豊地区 (n=31)		
1 知っており、利用したこともある	29.0%	(9名)
2 知っているが、利用したことはない	16.1%	(5名)
3 知らない	54.9%	(17名)
筑後地区 (n=56)		
1 知っており、利用したこともある	44.6%	(25名)
2 知っているが、利用したことはない	19.6%	(11名)
3 知らない	35.7%	(20名)

(3)どのようにして救急電話相談(#7119)を知りましたか。

(回答は(2)で1又は2を選択した方 n=208 選択肢は一つのみ)

1 公共施設や医療機関に掲示されているポスター等	24.0%	(50名)
2 県や市町村の広報紙	31.3%	(65名)
3 テレビや新聞の報道	15.9%	(33名)
4 インターネット(県のホームページやSNSなど)	18.3%	(38名)
5 消防・救急関係のイベント	1.9%	(4名)
6 家族や友人、知人から教えてもらった	5.3%	(11名)
7 その他	3.3%	(7名)
無回答	0.0%	(0名)



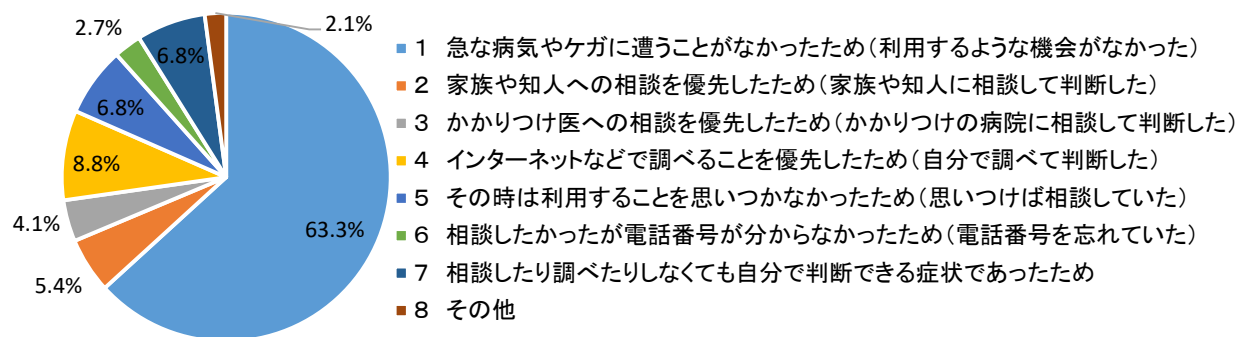
<内訳(地区別)>

福岡地区 (n=112)		
1 公共施設や医療機関に掲示されているポスター等	24.1%	(27名)
2 県や市町村の広報紙	33.0%	(37名)
3 テレビや新聞の報道	12.5%	(14名)
4 インターネット(県のホームページやSNSなど)	18.8%	(21名)
5 消防・救急関係のイベント	1.8%	(2名)
6 家族や友人、知人から教えてもらった	4.5%	(5名)
7 その他	5.3%	(6名)
北九州地区 (n=46)		
1 公共施設や医療機関に掲示されているポスター等	23.9%	(11名)
2 県や市町村の広報紙	32.6%	(15名)
3 テレビや新聞の報道	17.4%	(8名)
4 インターネット(県のホームページやSNSなど)	21.7%	(10名)
5 消防・救急関係のイベント	0.0%	(0名)
6 家族や友人、知人から教えてもらった	4.4%	(2名)
7 その他	0.0%	(0名)
筑豊地区 (n=14)		
1 公共施設や医療機関に掲示されているポスター等	21.4%	(3名)
2 県や市町村の広報紙	7.1%	(1名)
3 テレビや新聞の報道	35.7%	(5名)
4 インターネット(県のホームページやSNSなど)	28.6%	(4名)
5 消防・救急関係のイベント	0.0%	(0名)
6 家族や友人、知人から教えてもらった	7.2%	(1名)
7 その他	0.0%	(0名)
筑後地区 (n=36)		
1 公共施設や医療機関に掲示されているポスター等	25.0%	(9名)
2 県や市町村の広報紙	33.3%	(12名)
3 テレビや新聞の報道	16.7%	(6名)
4 インターネット(県のホームページやSNSなど)	8.3%	(3名)
5 消防・救急関係のイベント	5.6%	(2名)
6 家族や友人、知人から教えてもらった	8.3%	(3名)
7 その他	2.8%	(1名)

(4)救急電話相談を利用しなかった理由は何ですか。

(回答は(2)で1を選択した方 n=147 選択肢は一つのみ)

1 急な病気やケガに遭うことがなかったため(利用するような機会がなかった)	63.3%	(93名)
2 家族や知人への相談を優先したため(家族や知人に相談して判断した)	5.4%	(8名)
3 かかりつけ医への相談を優先したため(かかりつけの病院に相談して判断した)	4.1%	(6名)
4 インターネットなどで調べることを優先したため(自分で調べて判断した)	8.8%	(13名)
5 その時は利用することを思いつかなかったため(思いつけば相談していた)	6.8%	(10名)
6 相談したかったが電話番号が分からなかったため(電話番号を忘れていた)	2.7%	(4名)
7 相談したり調べたりしなくても自分で判断できる症状であったため	6.8%	(10名)
8 その他	2.1%	(3名)
無回答	0.0%	(0名)



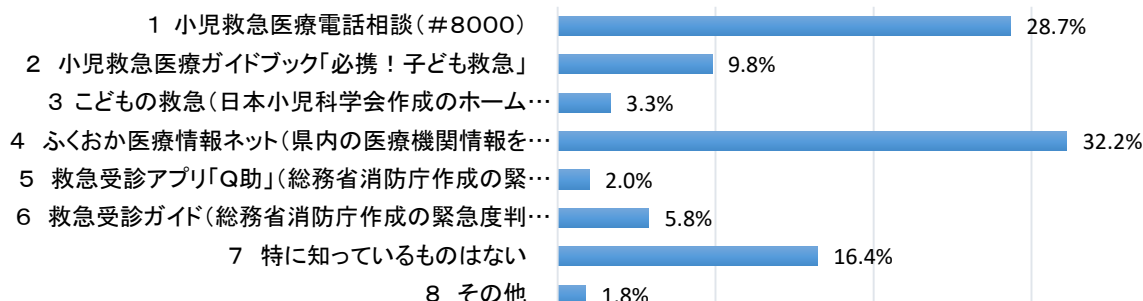
<内訳(地区別)>

福岡地区 (n=79)		
1 急な病気やケガに遭うことがなかったため(利用するような機会がなかった)	59.5%	(47名)
2 家族や知人への相談を優先したため(家族や知人に相談して判断した)	5.1%	(4名)
3 かかりつけ医への相談を優先したため(かかりつけの病院に相談して判断した)	6.3%	(5名)
4 インターネットなどで調べることを優先したため(自分で調べて判断した)	10.1%	(8名)
5 その時は利用することを思いつかなかったため(思いつけば相談していた)	8.9%	(7名)
6 相談したかったが電話番号が分からなかったため(電話番号を忘れていた)	2.5%	(2名)
7 相談したり調べたりしなくても自分で判断できる症状であったため	7.6%	(6名)
8 その他	0.0%	(0名)
北九州地区 (n=34)		
1 急な病気やケガに遭うことがなかったため(利用するような機会がなかった)	67.7%	(23名)
2 家族や知人への相談を優先したため(家族や知人に相談して判断した)	2.9%	(1名)
3 かかりつけ医への相談を優先したため(かかりつけの病院に相談して判断した)	2.9%	(1名)
4 インターネットなどで調べることを優先したため(自分で調べて判断した)	5.9%	(2名)
5 その時は利用することを思いつかなかったため(思いつけば相談していた)	5.9%	(2名)
6 相談したかったが電話番号が分からなかったため(電話番号を忘れていた)	2.9%	(1名)
7 相談したり調べたりしなくても自分で判断できる症状であったため	2.9%	(1名)
8 その他	8.9%	(3名)
筑豊地区 (n=9)		
1 急な病気やケガに遭うことがなかったため(利用するような機会がなかった)	55.6%	(5名)
2 家族や知人への相談を優先したため(家族や知人に相談して判断した)	11.1%	(1名)
3 かかりつけ医への相談を優先したため(かかりつけの病院に相談して判断した)	0.0%	(0名)
4 インターネットなどで調べることを優先したため(自分で調べて判断した)	11.1%	(1名)
5 その時は利用することを思いつかなかったため(思いつけば相談していた)	11.1%	(1名)
6 相談したかったが電話番号が分からなかったため(電話番号を忘れていた)	11.1%	(1名)
7 相談したり調べたりしなくても自分で判断できる症状であったため	0.0%	(0名)
8 その他	0.0%	(0名)
筑後地区 (n=25)		
1 急な病気やケガに遭うことがなかったため(利用するような機会がなかった)	72.0%	(18名)
2 家族や知人への相談を優先したため(家族や知人に相談して判断した)	8.0%	(2名)
3 かかりつけ医への相談を優先したため(かかりつけの病院に相談して判断した)	0.0%	(0名)
4 インターネットなどで調べることを優先したため(自分で調べて判断した)	8.0%	(2名)
5 その時は利用することを思いつかなかったため(思いつけば相談していた)	0.0%	(0名)
6 相談したかったが電話番号が分からなかったため(電話番号を忘れていた)	0.0%	(0名)
7 相談したり調べたりしなくても自分で判断できる症状であったため	12.0%	(3名)
8 その他	0.0%	(0名)

(5)救急医療に係る相談窓口やウェブサイト等で知っているものがありますか。

(n=371 複数選択可 回答件数450件)

1 小児救急医療電話相談(#8000)	28.7%	(129名)
2 小児救急医療ガイドブック「必携！子ども救急」	9.8%	(44名)
3 こどもの救急(日本小児科学会作成のホームページ)	3.3%	(15名)
4 ふくおか医療情報ネット(県内の医療機関情報を検索できるホームページ)	32.2%	(145名)
5 救急受診アプリ「Q助」(総務省消防庁作成の緊急度判定アプリ)	2.0%	(9名)
6 救急受診ガイド(総務省消防庁作成の緊急度判定ガイドブック)	5.8%	(26名)
7 特に知っているものはない	16.4%	(74名)
8 その他	1.8%	(8名)
無回答	0.0%	(0名)



<内訳>

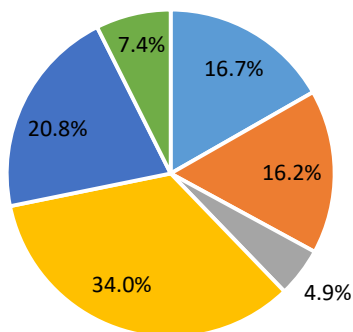
#7119を知っている方(n=208)		
1 小児救急医療電話相談(#8000)	34.3%	(94名)
2 小児救急医療ガイドブック「必携！子ども救急」	11.7%	(32名)
3 こどもの救急(日本小児科学会作成のホームページ)	3.3%	(9名)
4 ふくおか医療情報ネット(県内の医療機関情報を検索できるホームページ)	29.6%	(81名)
5 救急受診アプリ「Q助」(総務省消防庁作成の緊急度判定アプリ)	1.8%	(5名)
6 救急受診ガイド(総務省消防庁作成の緊急度判定ガイドブック)	6.6%	(18名)
7 特に知っているものはない	10.9%	(30名)
8 その他	1.8%	(5名)
#7119を知らない方(n=163)		
1 小児救急医療電話相談(#8000)	19.9%	(35名)
2 小児救急医療ガイドブック「必携！子ども救急」	6.8%	(12名)
3 こどもの救急(日本小児科学会作成のホームページ)	3.4%	(6名)
4 ふくおか医療情報ネット(県内の医療機関情報を検索できるホームページ)	36.4%	(64名)
5 救急受診アプリ「Q助」(総務省消防庁作成の緊急度判定アプリ)	2.3%	(4名)
6 救急受診ガイド(総務省消防庁作成の緊急度判定ガイドブック)	4.5%	(8名)
7 特に知っているものはない	25.0%	(44名)
8 その他	1.7%	(3名)

(6)「救急電話相談(#7119)」の周知に効果的だと思う広報の手法は何だと思いますか。

(n=371 選択肢は一つのみ)

1 医療機関でのポスター等の掲示	16.7%	(62名)
2 公共施設や公共交通機関でのポスター等の掲示	16.2%	(60名)
3 イベントでチラシ等の啓発物配布	4.9%	(18名)
4 インターネットやSNSなどによる広報	34.0%	(126名)
5 県や市町村の広報紙に掲載	20.8%	(77名)
6 その他	7.4%	(28名)

無回答 0.0% (0名)



- 1 医療機関でのポスター等の掲示
- 2 公共施設や公共交通機関でのポスター等の掲示
- 3 イベントでチラシ等の啓発物配布
- 4 インターネットやSNSなどによる広報
- 5 県や市町村の広報紙に掲載
- 6 その他

<内訳(地区別)>

福岡地区 (n=194)		
1 医療機関でのポスター等の掲示	14.4%	(28名)
2 公共施設や公共交通機関でのポスター等の掲示	14.4%	(28名)
3 イベントでチラシ等の啓発物配布	5.2%	(10名)
4 インターネットやSNSなどによる広報	37.6%	(73名)
5 県や市町村の広報紙に掲載	19.6%	(38名)
6 その他	8.8%	(17名)
北九州地区 (n=90)		
1 医療機関でのポスター等の掲示	18.9%	(17名)
2 公共施設や公共交通機関でのポスター等の掲示	22.2%	(20名)
3 イベントでチラシ等の啓発物配布	7.8%	(7名)
4 インターネットやSNSなどによる広報	26.7%	(24名)
5 県や市町村の広報紙に掲載	18.9%	(17名)
6 その他	5.5%	(5名)
筑豊地区 (n=31)		
1 医療機関でのポスター等の掲示	25.8%	(8名)
2 公共施設や公共交通機関でのポスター等の掲示	16.1%	(5名)
3 イベントでチラシ等の啓発物配布	0.0%	(0名)
4 インターネットやSNSなどによる広報	32.3%	(10名)
5 県や市町村の広報紙に掲載	16.1%	(5名)
6 その他	9.7%	(3名)
筑後地区 (n=56)		
1 医療機関でのポスター等の掲示	16.1%	(9名)
2 公共施設や公共交通機関でのポスター等の掲示	12.5%	(7名)
3 イベントでチラシ等の啓発物配布	1.8%	(1名)
4 インターネットやSNSなどによる広報	33.9%	(19名)
5 県や市町村の広報紙に掲載	30.4%	(17名)
6 その他	5.3%	(3名)

令和5年度 県政モニターアンケート調査結果

テーマ：資源の有効利用について

【調査の目的】

日本国内では、売れ残りや期限切れの食品、食べ残しなど、本来食べられるにもかかわらず捨てられてしまう「食品ロス（フードロス）」が年間 523 万トン発生しています。これは、国民一人当たりで換算すると、毎日お茶碗 1 杯分（130 g）に近い量を捨てている計算になります。

本県では、この食品ロスの削減のため、平成 28 年度から事業者や県民の皆様と行政が一体となって県民運動として取り組んでいます。

また、海洋プラスチックごみ問題を背景に、本県では、ワンウェイ（使い捨て）プラスチックの使用削減やプラスチック代替品の利用促進などに取り組んでいます。

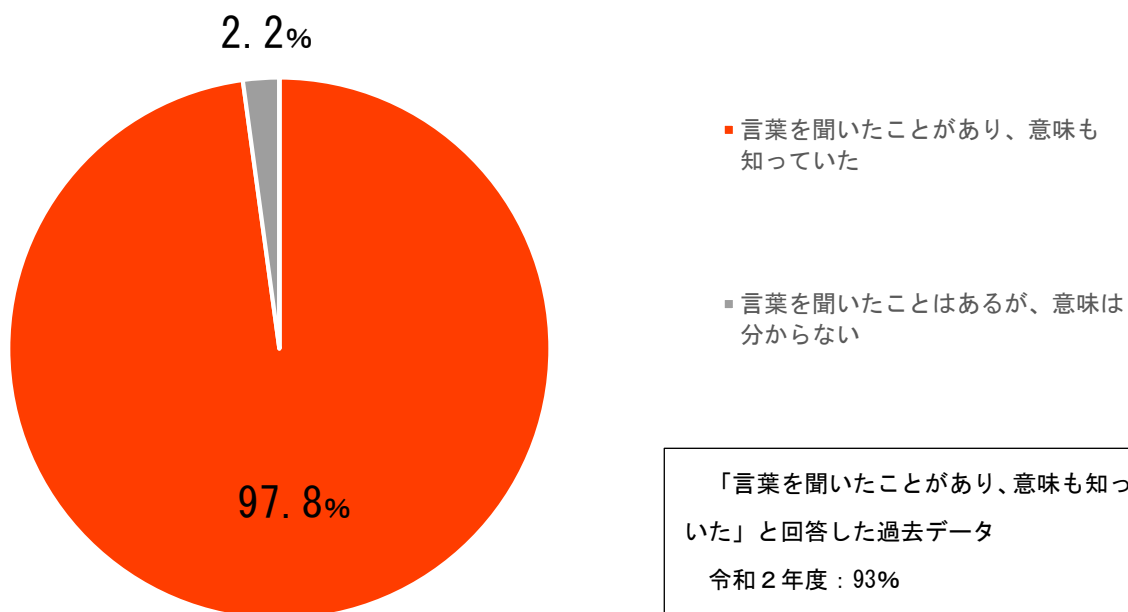
プラスチック代替品の利用促進にあたっては、まず、プラスチック代替品にはどのようなものがあるのか、なぜ環境に優しいのかを知ってもらうことが必要であり、次のステップとして、環境に配慮した商品を選ぶという意識の醸成を図っていく必要があると考えております。

この調査結果は、食品ロス削減やプラスチック代替品に関する今後の行政施策の参考とさせていただきます。

（環境部循環型社会推進課）

問1 「食品ロス（フードロス）」という言葉について聞いたことがありますか。

また、その意味を知っていましたか。当てはまるものを一つ選んでください。（回答数：371）

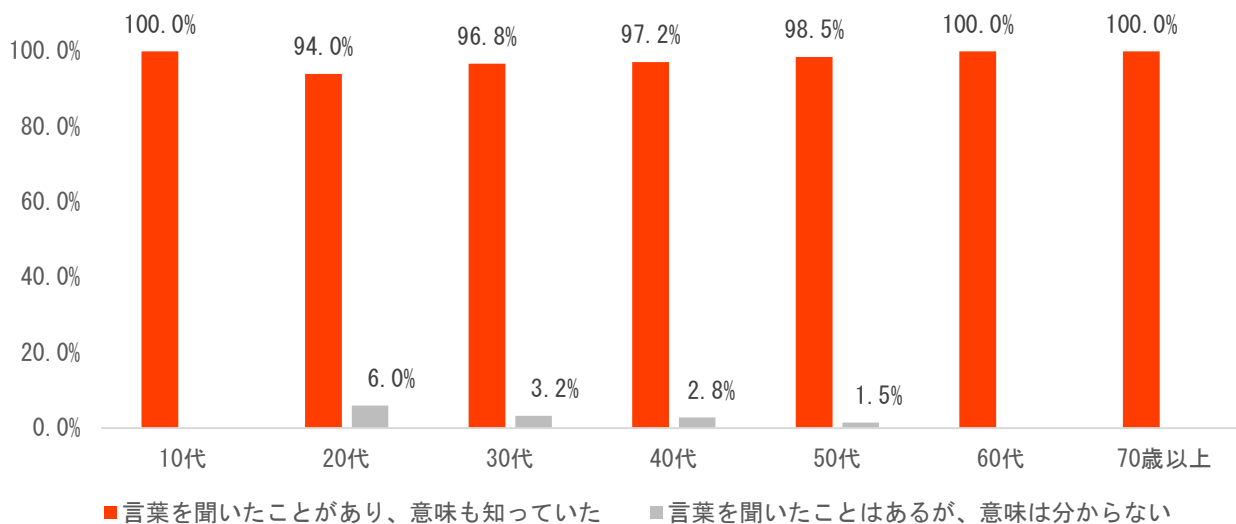


- 言葉を聞いたことがあり、意味も知っていた
- 言葉を聞いたことはあるが、意味は分からない

「言葉を聞いたことがあり、意味も知っていた」と回答した過去データ

令和2年度	93%
令和3年度	97.2%
令和4年度	96.2%
令和5年度	97.8%

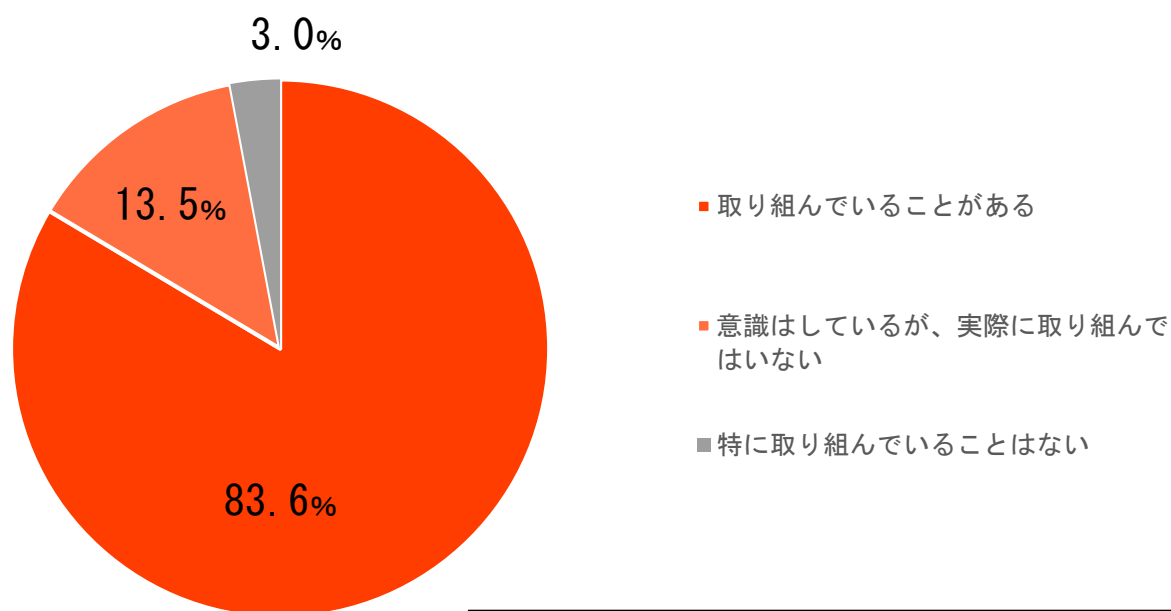
年齢別回答



○ 「意味も知っていた」と回答した割合は昨年度より上昇し、97.8%となった。

○ 言葉の意味を知らない割合はどの年代においても非常に小さいが、比較的若年層で高い結果となった。

問2 実生活の中で、食品ロス削減に取り組まれていますか。
 当てはまるものを一つ選んでください。(回答数：371)



「①取り組んでいることがある」	
「②意識はしているが実際に取り組んではいない」過去データ	
令和2年度：	①62% ②29%
令和3年度：	①64.5% ②29.4%
令和4年度：	①64.7% ②29%
令和5年度：	①83.6% ②13.5%

【年齢別回答】(昨年度との比較)

(単位：%)

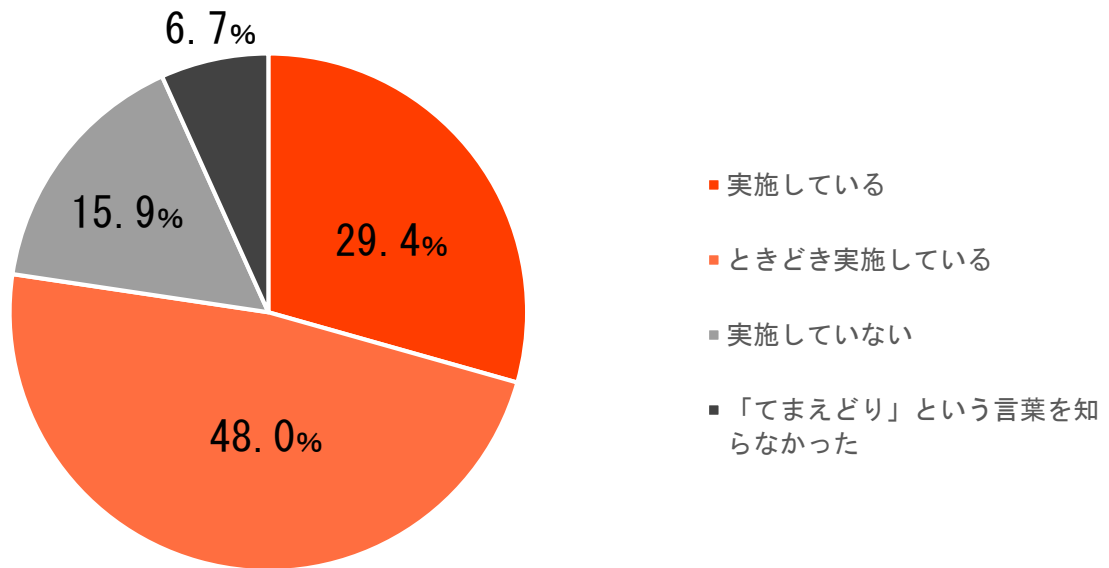
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
取り組んでいる	R4	61.5	59.3	59.2	65.4	64.4	73.3	70.0
	R5	77.8	88.0	79.0	83.1	89.4	85.5	70.0
意識はしているが 取り組んではいない	R4	38.5	35.2	36.6	29.5	32.2	23.3	26.7
	R5	22.2	10.0	16.1	9.9	10.6	12.0	30.0

○「取り組んでいる」と回答した割合は、昨年度から大きく上昇し、83.6%となった。

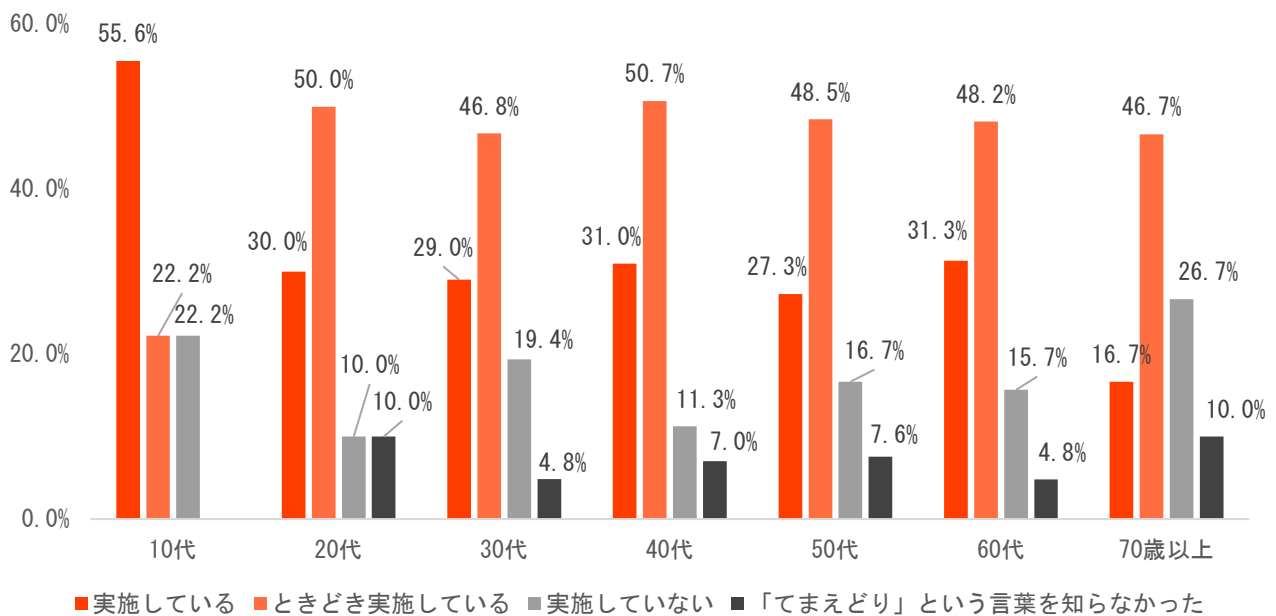
○前年度と比較し、ほぼすべての年代で「取り組んでいる」割合が増加し、「意識はしているが取り組んではいない」割合が減少した。

問3 購入してすぐに食べる場合に、商品棚の手前にある消費・賞味期限の近い商品を積極的に選ぶ行動のことを「てまえどり」と言います。

購入してすぐに食べる場合に「てまえどり」を実施していますか。(回答数：371)



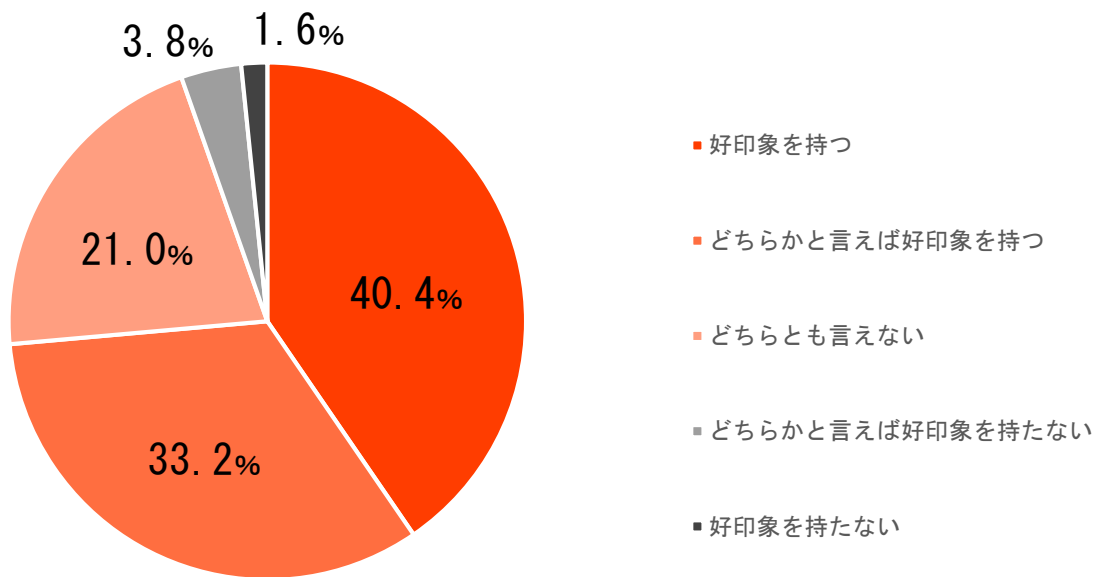
年齢別回答



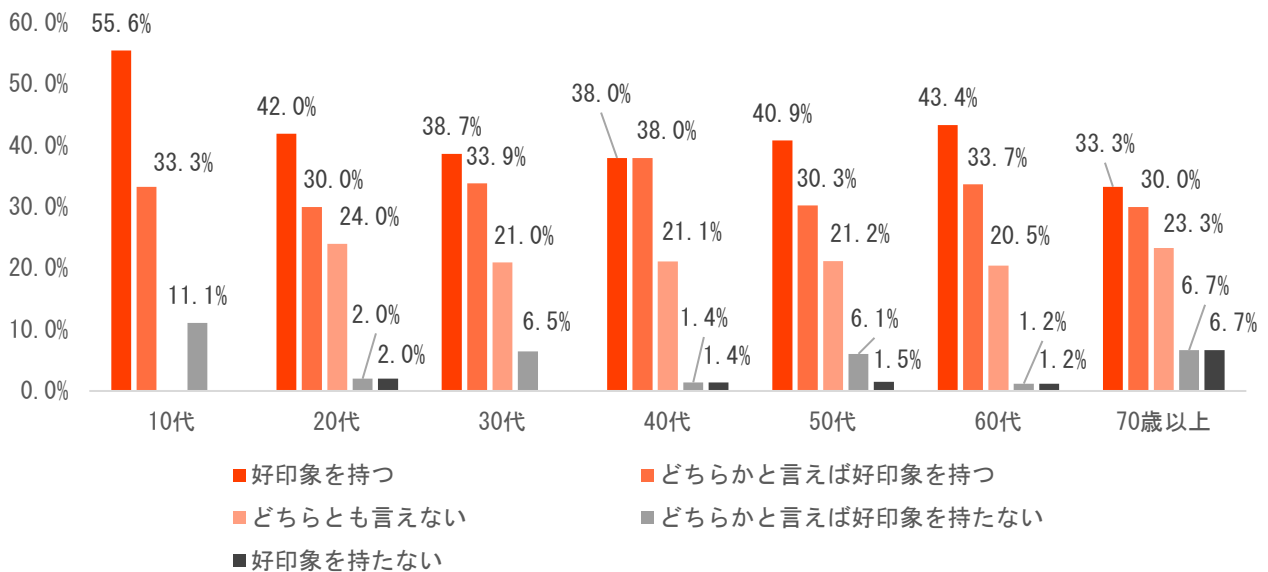
○「てまえどり」を実施している、もしくはときどき実施している人の割合の合計は77.4%となり、4分の3以上の方が意識して「てまえどり」を実施したことがあるという結果となった。

○「てまえどり」という言葉を知らなかった人の割合は6.7%であり、言葉の認知度は高いことが分かる。

問4 食品ロスを削減するために「てまえどり」の呼びかけを行うお店に好印象を持ちますか。
 (回答数：371)



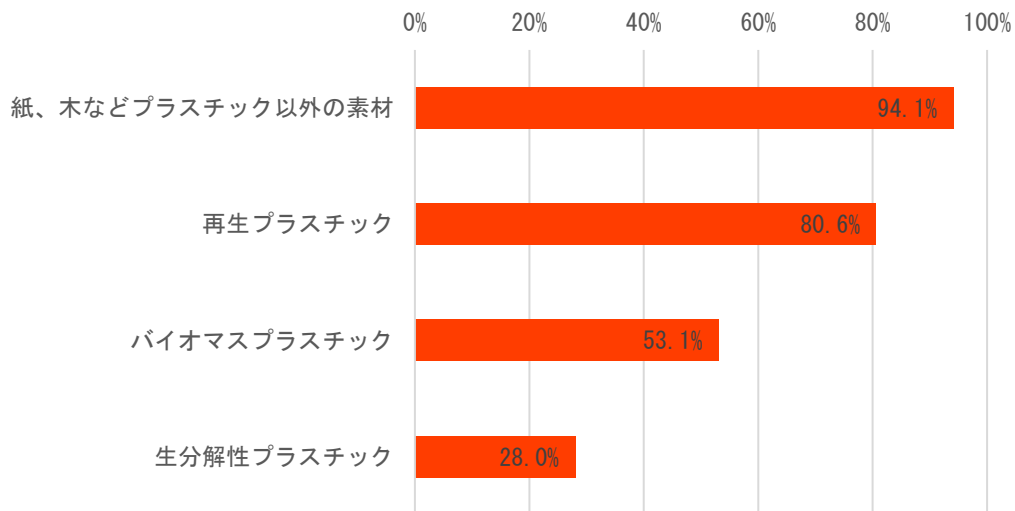
年齢別回答



○「好印象を持つ」「どちらかと言えば好印象を持つ」と回答した人の合計は73.6%であり、「てまえどり」の実施に対しては概ね好印象を持たれている。

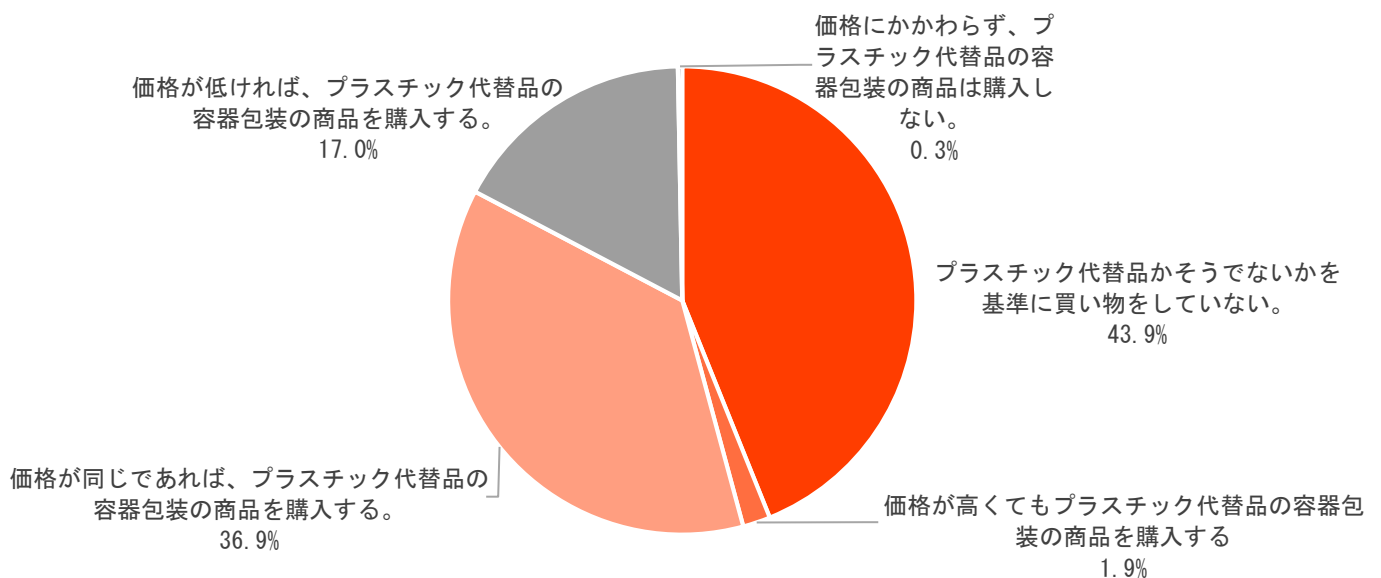
○「どちらとも言えない」との回答が2割程度占めている年代がほとんどであり、「てまえどり」の実施は食品ロスの削減に有効であるという点をより周知していくことが必要である。

問5 次に挙げたプラスチック代替品と呼ばれる環境に配慮した素材を知っていますか。
知っているものを全て選んでください。(回答数：371)



- 紙や木など、身近にある素材については認知度が高い。
- バイオマスや生分解性など、素材の性質に由来した素材については、一定程度認知度されている。

問6 普段の買い物の際、商品自体は同じもので、商品の容器包装が石油から作ったプラスチックでできたものと上記で挙げたプラスチック代替品でできたものがあった場合、プラスチック代替品でできた容器包装の商品を購入する条件について、当てはまるものを一つ選んでください。(回答数：371)

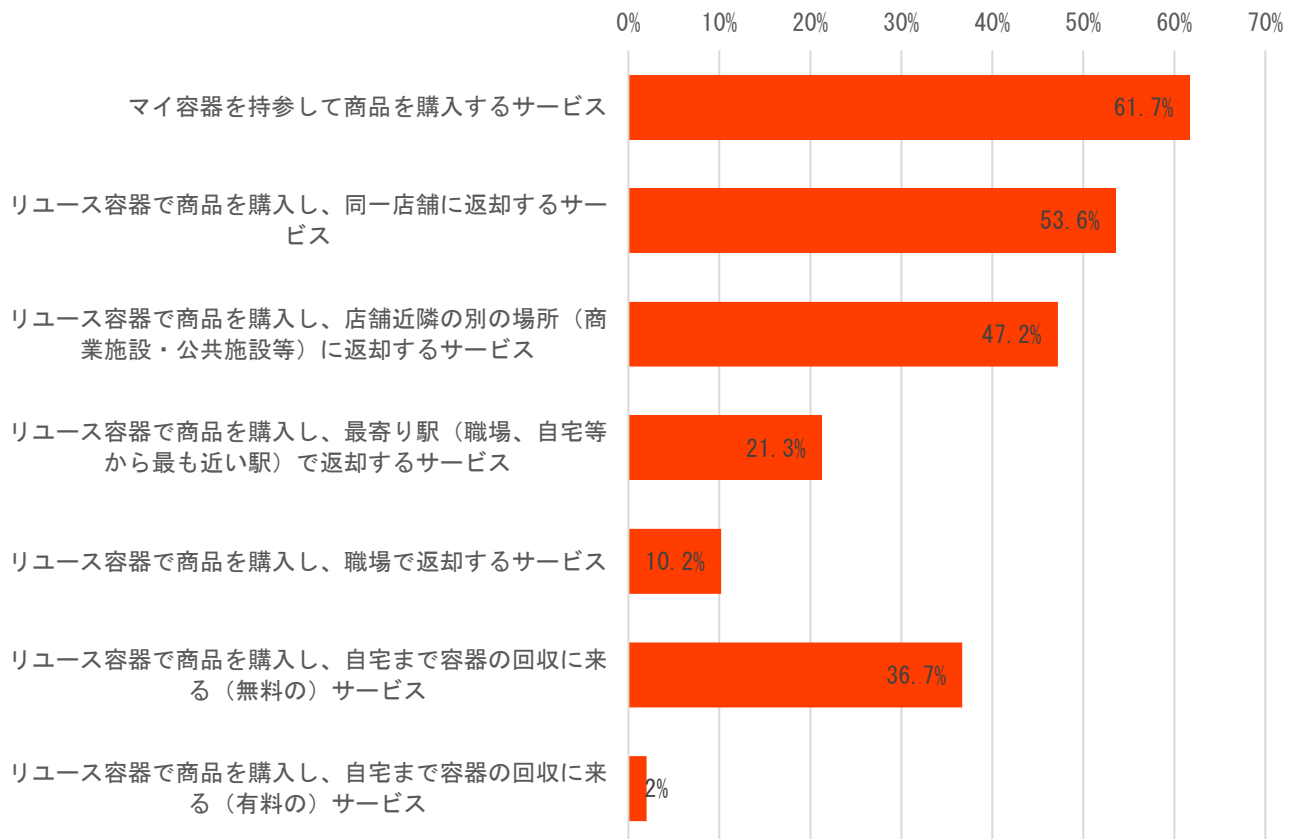


- 「プラスチック代替品かそうでないかを基準に買い物をしていない」という回答が多い。
- 一方で、「価格が同じであれば、プラスチック代替品の容器包装の商品を購入する」とした回答も多いことから、環境に配慮するという意識が高まっているようにみられる。

問7 プラスチックごみ削減に向け、使い捨ての容器に変えてリユース容器*を利用可能な店舗や、マイ容器を持参のうえ量り売りで購入する店舗が、近年改めて注目されています。

そこで、食品や飲料などの商品を購入する際、どのような容器や返却方法であれば利用したいと考えますか。以下のサービスについて、利用したいと思われるものを全て選んでください。(回答数：371)

※本設問においてリユース容器とは、洗浄により繰り返し利用が可能で、返却が必要な容器を指します(マイ容器は除きます)。



○マイ容器を持参して商品を購入するサービスは、返却が必要なリユース容器で商品を購入するサービスに比べ、受け入れられやすい。

○リユース容器で商品を購入するサービスの中でも、返却方法により利用したいと思う人は大きく異なり、「同一店舗に返却する」という方法は最も受け入れられやすい方法で、半数以上の方が利用したいと回答している。

県政アンケート：福岡県育成品種かき「秋王」について

(農林水産部 園芸振興課)

【調査の目的】

柿「秋王（あきおう）」は福岡県の農林業総合試験場で開発されたかきで、糖度が高く、サクサクした食感に加え、種がほとんどない、大変美味しいかきです。しかし、「秋王」を知らない消費者が多いのが現状である。このため、今回のアンケート結果を、今後の「秋王」の認知度向上と魅力発信の取組の参考とするもの。

①性別

	人数	(%)
男性	162	44%
女性	207	56%
その他	2	1%
総計	371	100%

②年齢

	人数	(%)
18～19歳	9	2%
20～29歳	50	13%
30～39歳	62	17%
40～49歳	71	19%
50～59歳	66	18%
60～69歳	83	22%
70歳以上	30	8%
合計	371	100%

③地域

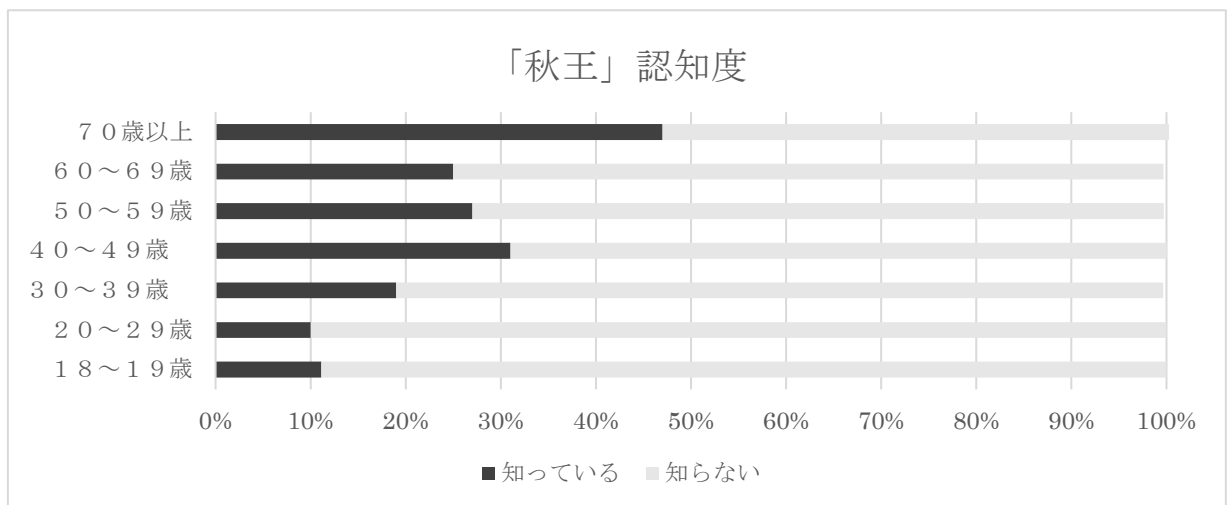
	人数	(%)
筑後	56	15%
筑豊	31	8%
福岡	194	52%
北九州	90	24%
合計	371	100%

④かき「秋王」を知っていますか？

次の中から【1つだけ】選んでください。

- 1 知っており、購入したことがある。
- 2 知っているが、購入したことはない。
- 3 知らない

	18～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70歳 以上	合計
1 知っており、購入したことがある	0%	2%	6%	7%	5%	12%	10%	7%
2 知っているが、購入したことはない	11%	8%	13%	24%	23%	13%	37%	18%
3 知らない	89%	90%	81%	69%	73%	75%	53%	75%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%



「秋王」の認知度としては70代が一番高く47%だった。次点は40代で31%。18歳～20代の知名度が一番低く約10%しか知らなかった。

⑤ (④で「1 知っており、購入したことがある) を選択された方にお尋ねします。) 食べた時の感想を次の中から【すべて】教えてください

- 1 甘くて美味しい
- 2 種がほとんどなくて食べやすい
- 3 サクサクした食感が美味しい
- 4 美味しくない
- 5 いずれも該当しない
- 6 その他 (問3で具体的に)

	人数	(%)
1 甘くて美味しい	23	88%
2 種がほとんどなくて食べやすい	14	54%
3 サクサクした食感が美味しい	14	54%
4 美味しくない		0%
5 いずれも該当しない		0%
6 その他(次の設問で具体的に <input type="text"/>)	2	8%

「秋王」を食べた時の感想としては「甘くて美味しい」が88%と一番高かった。

⑥「秋王」を食べてみたいと思いますか？

次の中から近いものを【1つだけ】選んでください。

- 1 ぜひ食べたい
- 2 食べたい
- 3 あまり食べたくない
- 4 食べたくない

	18~ 19歳	20~ 29歳	30~ 39歳	40~ 49歳	50~ 59歳	60~ 69歳	70歳 以上	合計
1 ぜひ食べたい	44%	48%	53%	56%	71%	52%	53%	56%
2 食べたい	22%	30%	32%	25%	23%	39%	40%	31%
3 あまり食べたくない	11%	12%	13%	15%	5%	6%	7%	10%
4 食べたくない	22%	10%	2%	3%	2%	4%	0%	4%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

「秋王」を食べてみたいかのアンケートでは、30歳以上のどの年齢層でも8割以上が食べてみたいと思っており、認知度調査で「秋王」のことを知らない人でも興味を持っている。

⑦柿のシーズン（10~11月頃）の購入頻度を教えてください（「秋王」に限らず柿全般についての質問です）。次の中から近いものを【1つだけ】選んでください

- 1 1週間に1回以上
- 2 2週間に1回以上
- 3 1か月に1回以上
- 4 シーズン中に1回程度
- 5 買わない

	18~ 19歳	20~ 29歳	30~ 39歳	40~ 49歳	50~ 59歳	60~ 69歳	70歳 以上	合計
1 1週間に1回以上	11%	4%	2%	11%	18%	13%	20%	11%
2 2週間に1回以上	11%	12%	15%	17%	23%	40%	33%	23%
3 1か月に1回以上	0%	12%	15%	17%	17%	14%	27%	16%
4 シーズン中に1回程度	33%	30%	27%	30%	32%	23%	10%	27%
5 買わない	44%	42%	42%	25%	11%	10%	10%	23%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

年齢が上がるにつれ購入頻度が高くなる傾向がある。60歳以上になると2人に1人が2週間に1回以上購入する。一方で18歳~39歳までの若者世代では40%以上はシーズン中に1回も買わない。

	1 ぜひ食 べたい	2 食べたい	3 あまり食べ たくない	4 食べたくない
1 1週間に1回以上	18%	4%	0%	0%
2 2週間に1回以上	28%	21%	11%	0%
3 1か月に1回以上	19%	15%	6%	0%
4 シーズン中に1回程度	24%	39%	8%	7%
5 買わない	11%	21%	75%	93%
合計	100%	100%	100%	100%

⑧柿の好きなところを教えてください。

次の中から当てはまるものを【全部】選んでください。

- 1 甘さ
- 2 食感がかたいところ
- 3 食感が柔いところ
- 4 特にない
- 5 その他（問7で具体的に入力してください）

	18～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70歳 以上	合計
1 甘さ	※56%	54%	69%	75%	82%	80%	87%	74%
2 食感がかたいところ	11%	34%	32%	42%	47%	47%	60%	42%
3 食感が柔いところ	11%	10%	16%	18%	20%	27%	33%	20%
4 特にない	33%	30%	23%	15%	12%	8%	3%	16%
5 その他(⑨で具体的に入力してください。)	11%	4%	3%	8%	9%	6%	3%	5%

※ （18～19歳の1甘さと答えた人数） / （18～19歳の全人数）

	1 ぜひ食 べたい	2 食べたい	3 あまり食 べたくない	4 食べたくない
1 甘さ	88%	73%	25%	0
2 食感がかたいところ	51%	39%	14%	0
3 食感が柔いところ	28%	13%	6%	0
4 特にない	4%	15%	61%	79%
5 その他(⑨で具体的に入力してください。)	5%	4%	3%	21%

⑨ ⑧で「5」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください

	1ぜひ食べたい 2食べたい 3あまり食べたくない 4食べたくない
1 ぜひ 食べ たい	うらして食べたり、サラダみたいに食べたり、プリンにしたり、食べ方で雰囲気が変わる
	デザートとして食べるだけでなく、おかずとしても使える。
	栄養が豊富なところ
	栄養価が高いので、子どものおやつとして。
	柿しかない独特の糖度
	季節を感じるができる。
	私は40代ですが、子供のころの柿といえば、渋い、硬い、ゴリゴリ、貰うもの、自生しているものでした。それが、最近の柿は甘くて、しっとり＆ねっとり(噛んだ時にむにっという噛み心地)。明らかにフルーツとしておいしくなったと思います。今まで柿を買うことはなかったですが、本当にここ2・3年柿を買うようになったくらい好きになりました。
	味、栄養価
	迷信かもしれませんが、二日酔いに効くとか
	利尿作用があり健康に良いです
2 食べ たい	お弁当に彩りとして使える。ビタミン等栄養価が高い。外国に「かき」の名で浸透している。
	栄養価。酒飲みに嬉しい栄養が摂れる。甘すぎないところがすっきり食べられるし糖分を取りすぎない。
	加工品として楽しめる (干し柿、ジャム、ドレッシングなど)
	種が少ない又は無い柿を選んでしまいます。
3 あまり 食べ た くない	甘いだとか柔らかいだとか、無理に品種改良すべきでない。柿は柿。
4 食べ た く ない	果物は、好きではなく、食べない
	柿が苦手です
	柿を食べないため。

ぜひ食べたい、食べたい人は、下記の栄養価にも魅力を感じている

⑩柿の苦手なところを教えてください。

次の中から当てはまるものを【全部】選んでください。

- 1 甘さ
- 2 食感がかたいところ
- 3 食感が柔いところ
- 4 特にない
- 5 その他（⑩で具体的に入力してください）

	1 ぜひ 食べたい	2 食べたい	3 あまり食 べたくない	4 食べ たくない	(%)
1 甘さ	0%	4%	28%	14%	5%
2 食感がかたいところ	8%	21%	33%	29%	15%
3 食感が柔いところ	15%	28%	33%	29%	21%
4 特にない	69%	41%	31%	29%	55%
5 その他（⑩で具体的 に入力してください。）	8%	13%	8%	36%	11%

柿の苦手なところという質問に対しては、特に一番の理由はなく、それぞれである。

	18～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70歳 以上
1 甘さ	※11%	6%	8%	3%	2%	6%	0%
2 食感がかたいところ	22%	16%	18%	18%	14%	14%	7%
3 食感が柔いところ	11%	30%	26%	15%	20%	19%	23%
4 特にない	56%	40%	47%	54%	58%	64%	70%
5 その他（⑩で具体的 に入力してください。）	22%	22%	13%	15%	8%	4%	0%

※ (18～19歳の1甘さと答えた人数) / (18～19歳の全人数)

⑪ ⑩で「5」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

	1ぜひ食べたい 2食べたい 3あまり食べたくない 4食べたくない
1 ぜひ 食べ たい	タネがあるところ
	渋いものに当たった時
	渋み
	渋み？山口弁でしわいと言うのは福岡では伝わるかしら？
	渋みが残ることがある時
	熟すとドロドロしてしまうところ
	熟れ過ぎた場合の柔らかい食感
	タネがある種類は、食べにくいです
	へタの間に時々いる虫、種
	柿は当たり外れが多いような気がする
	滑って皮をむきにくいところ。種にあたると切りにくいところ
	硬い時もありますし、食べにくい場合があります
	香り
	種が大きい。
	切る時タネが邪魔になる
	皮が食べられない 食べるために包丁が必要。 美味しい柿の選び方がわからない。 熟しているのか判断が難しい。
	2 食べ たい
タネがあるところ 皮を剥くところ	
タネが面倒くさい	
どこを見れば美味しい柿なのか、選び方を知らない。 好みの食感の柿の選び方などが分かりやすい説明図などがあればいいと思う。	
柿は独特のくどい甘さがあり苦手です。種が大きいのも良くない。ただ、秋王は美味しいとのことなので探してみようと思います。	
甘さや食感に当たり外れが多い	
個人的な好みの問題だが、柿を買うより、梨や葡萄の方が好きでそちらを買う。	
時々渋さが少しあるものが紛れていること	
種が多い時がある。	
種をうまく取れない	
早く食べないと悪くなりやすい。日持ちが短い。	

	皮をむく、切る
	皮をむくところ。
	皮を剥くのがめんどくさい
3 あまり食べ たくない	個人的に柿が苦手なので、すみません。
	種の回りの部分
	味や匂いが苦手な為、購入してまでは食べません。
4 食べた くない	味
	臭み、味
	ほとんど食べ物の好き嫌いはないのですが、柿だけは絶対に食べられません。小さい頃苦手だった物も年齢を重ねるにつれ食べられるようになりましたが、柿だけは絶対にダメです。

柿を食べたいと回答した人の柿が苦手な部分として、種があるところや、皮むき、洗みに関するキーワードが多い。

まとめ

「秋王」の認知度としては70代が一番高く47%だった。次点で40代で31%。18歳～20代の知名度が一番低く約10%しか知らなかった。

「秋王」を食べた時の感想としては「甘くて美味しい」が88%と一番高かった。

「秋王」を食べてみたいかのアンケートでは、30歳以上のどの年齢層でも8割以上が食べてみたいと思っており、認知度調査で「秋王」のことを知らない人でも興味を持っている。

柿の購入頻度についてのアンケートでは、年齢が上がるにつれ高くなる傾向があり、60歳以上になると2人に1人が2週間に1回以上購入する。一方で18歳～39歳までの若者世代では40%以上はシーズン中に1回も買わない。

柿の好きなおところという質問に対しては「甘さ」と答えた割合がどの世代でも一番高く、他の理由として、栄養価に魅力を感じている人もいる。

柿の苦手なおところという質問に対しては、特に一番の理由はなく、それぞれである。柿を食べたいと回答した人の柿が苦手な部分として、種があるところや、皮むき、洗みに関するキーワードが多い。

「秋王」に対する自由意見として、存在を知らなかったというコメントが一番多く、46%はもっとPRしてほしいという意見だった。肯定意見は67%と多かった。

令和5年度第3回県政モニターアンケート

(回答者構成)

項目		計		北九州	福岡	筑後	筑豊
		人数(人)	構成比				
総数	人数	373		90	197	56	30
	構成比		100.0%	24.1%	52.8%	15.0%	8.0%
性別	女性	206	55.2%	55	104	29	18
	男性	165	44.2%	35	92	26	12
	その他	2	0.5%	0	1	0	1
年代別	20代以下	60	16.1%	14	31	11	4
	30代	63	16.9%	14	33	11	5
	40代	72	19.3%	16	38	12	6
	50代	67	18.0%	18	35	10	4
	60代	84	22.5%	23	41	12	8
	70代以上	27	7.2%	5	19	0	3

モニター数 398人

回答数 373人

回収率 93.72%

実施期間 R5.9.15～R5.10.3

【回答結果の注意点】

- ・ 集計は小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は、必ずしも100%にならない場合がある。
- ・ 2以上の回答（複数回答）を要する設問の場合、その回答比率の合計は、100%を超える場合がある。

令和5年度 県政モニターアンケート調査

テーマ：災害時の備蓄について

福岡県総務部防災危機管理局防災企画課

1 調査の目的

災害時は、断水、停電、ガス停止などライフラインへの影響に加え、流通機能の麻痺に伴い食料などの生活物資の入手が困難になる事態が想定される。

そのため福岡県では、日常の食料を多めに購入し、消費の都度買い足すことにより常に一定量の食材を保有する方法も含め、飲料水、食料などの生活物資の3日以上以上の備蓄に努めるよう呼びかけをふくおか県政出前講座等で行っている。

現在の県民の備蓄意識、各家庭における食料などの備蓄の状況を把握し、今後の施策の参考とする。

2 調査時期

令和5年9月15日～令和5年10月3日（第3回）

3 回答者の構成

		計	北九州	福岡	筑後	筑豊
総数	-	373 (100%)	90 (24.1%)	197 (52.8%)	56 (15.0%)	30 (8.0%)
性別	女性	206 (55.2%)	55	104	29	18
	男性	165 (44.2%)	35	92	26	12
	その他	2 (0.5%)	0	1	0	1
年代別	20代以下	60 (16.1%)	14	31	11	4
	30代	63 (16.9%)	14	33	11	5
	40代	72 (19.3%)	16	38	12	6
	50代	67 (18.0%)	18	35	10	4
	60代	84 (22.5%)	23	41	12	8
	70代以上	27 (7.2%)	5	19	0	3

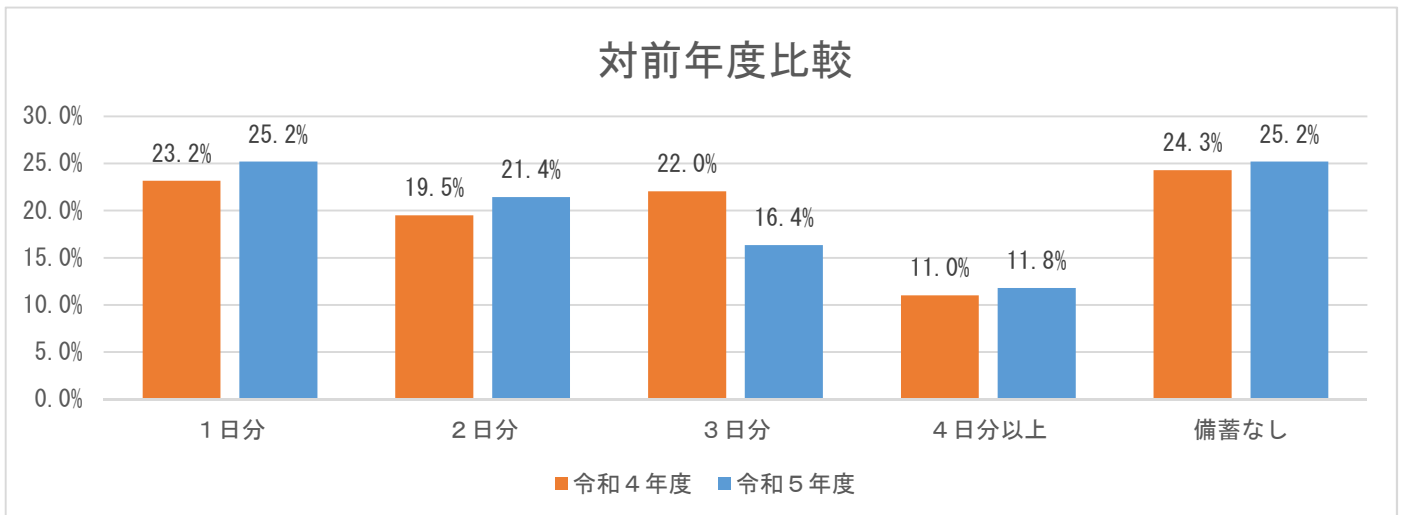
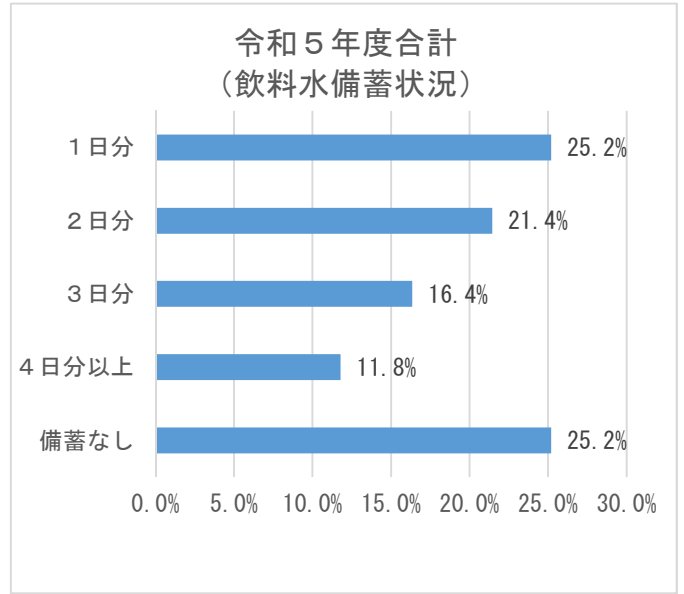
4 回答結果

問1 あなたは、飲料水を何日分備蓄（買い置き）していますか。（1つだけ）

- 1 1日分
- 2 2日分
- 3 3日分
- 4 4日以上（何日分か具体的に）
- 5 飲料水は備蓄（買い置き）していない

回答

	令和5年度 合計	令和4年度 合計	対前年度 増減
回答者数	373	354	19
1日分	94	82	12
	25.2%	23.2%	2.0%
2日分	80	69	11
	21.4%	19.5%	2.0%
3日分	62	78	-16
	16.6%	22.0%	-5.4%
4日分 以上	43	39	4
	11.5%	11.0%	0.5%
備蓄なし	94	86	8
	25.2%	24.3%	0.9%



問1-2 4日以上は、何日分か具体的に。

回答 (抜粋) ※1人未回答

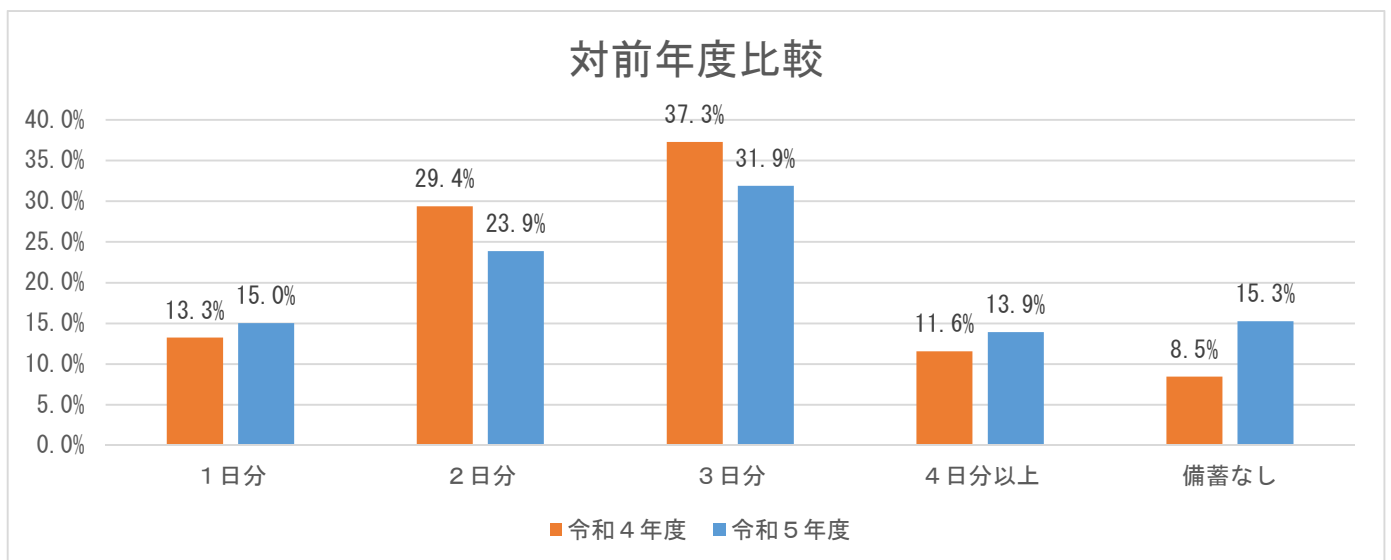
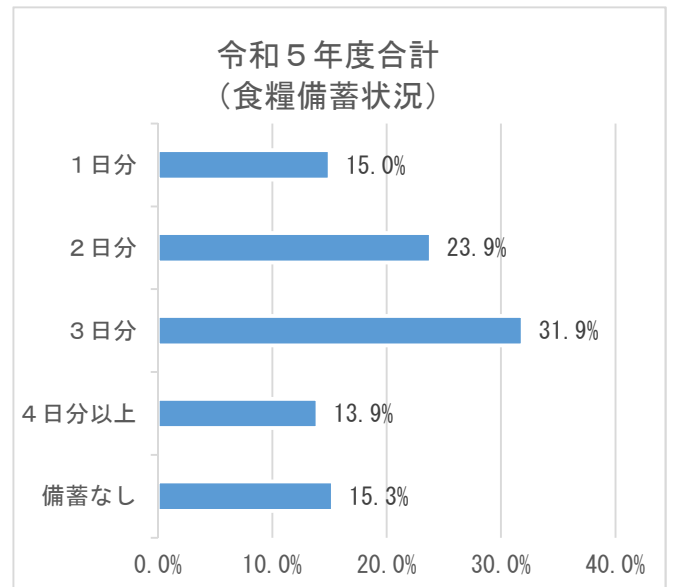
- ・ 4日分 4人 ・ 5日分 8人 ・ 6日分 3人 ・ 7日分 8人
- ・ 8日分～14日分 14人 ・ 15日以上 5人

問2 あなたは、食料を何日分備蓄（買い置き）していますか。（1つだけ）

- 1 1日分
- 2 2日分
- 3 3日分
- 4 4日以上（何日分か具体的に）
- 5 食料は備蓄（買い置き）していない

回答

	令和5年度 合計	令和4年度 合計	対前年度 増減
回答者数	373	354	19
1日分	56	47	9
	15.0%	13.3%	1.7%
2日分	89	104	-15
	23.9%	29.4%	-5.5%
3日分	119	132	-13
	31.9%	37.3%	-5.4%
4日分 以上	52	41	11
	13.9%	11.6%	2.4%
備蓄して いない	57	30	27
	15.3%	8.5%	6.8%



問2-2 4日以上は、何日分か具体的に。

回答 (抜粋) ※1人未回答

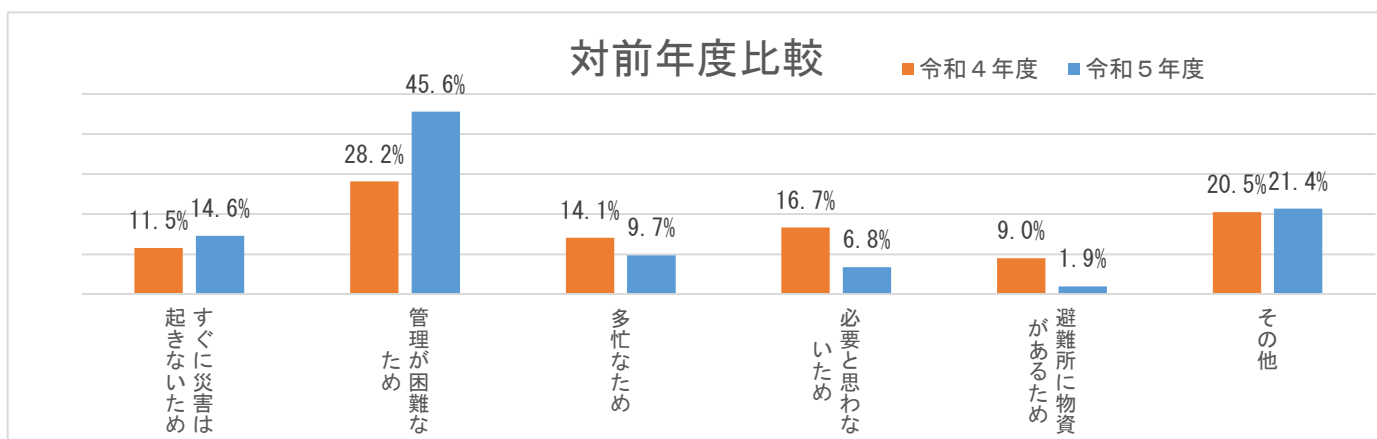
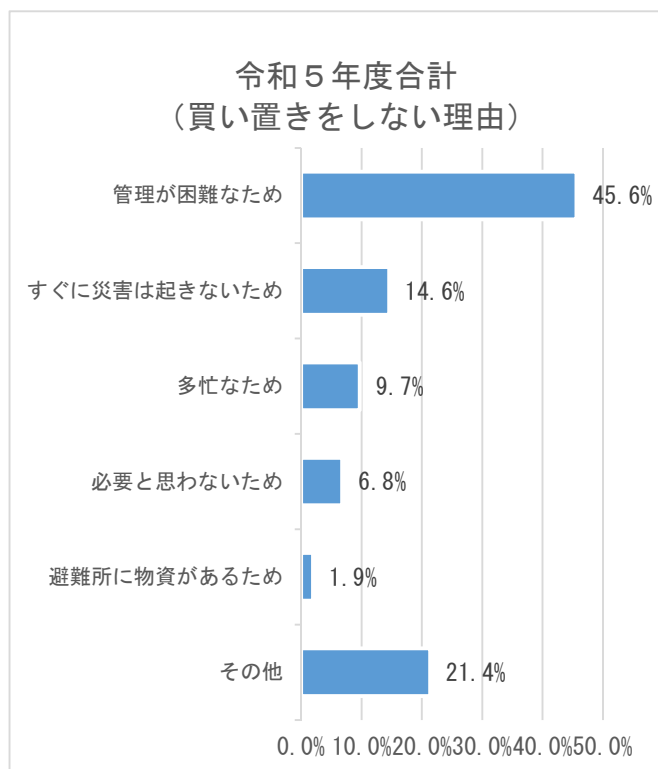
- ・ 4日分 3人 ・ 5日分 5人 ・ 6日分 2人 ・ 7日分 24人
- ・ 8日分~14日分 11人 ・ 15日以上 6人

問3 問1または問2で「5（備蓄していない）」を選択された方にお尋ねします。
あなたが飲料水や食料を備蓄（買い置き）していないのはなぜですか。（1つだけ）

- 1 災害がすぐには起きないと思うから
- 2 消費期限等の管理が難しく、面倒だから
- 3 忙しく時間がないから
- 4 必要ないと思っているから
- 5 避難所に避難すれば必要な物資を供給してくれると思っているから
- 6 その他（具体的に）

回答

	令和5年度 合計	令和4年度 合計	対前年度 増減
回答者数	103	78	25
1 すぐに 災害は起きない ため	15 14.6%	9 11.5%	6 3.0%
2 管理が 困難なため	47 45.6%	22 28.2%	25 17.4%
3 多忙な ため	10 9.7%	11 14.1%	-1 -4.4%
4 必要と 思わないため	7 6.8%	13 16.7%	-6 -9.9%
5 避難所 に物資がある ため	2 1.9%	7 9.0%	-5 -7.0%
6 その他	22 21.4%	16 20.5%	6 0.8%



問3-2 その他（具体的に）

回答（抜粋）

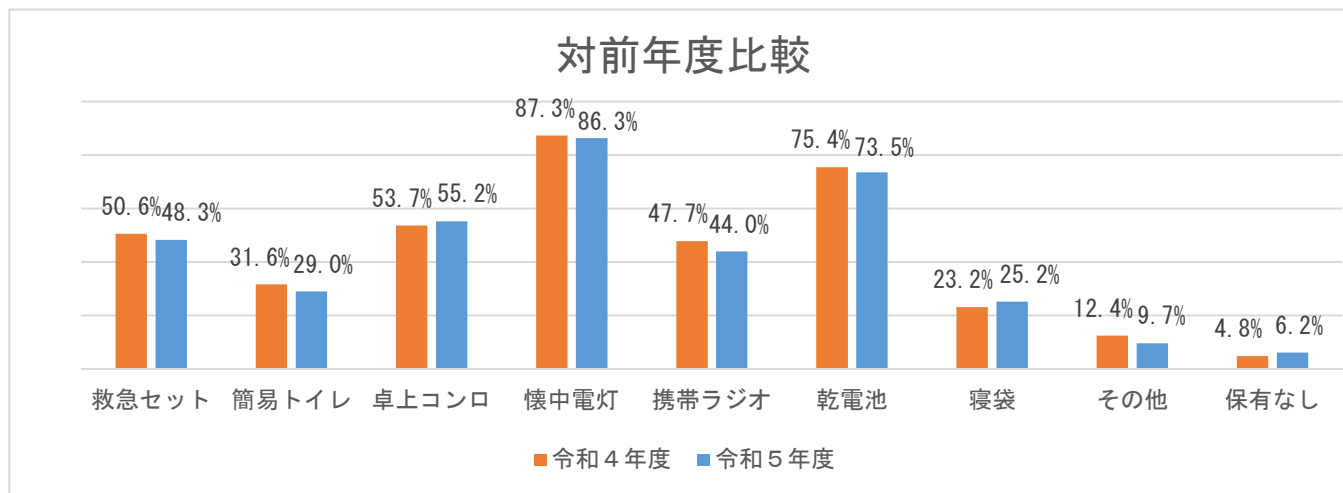
- ・ 備蓄を置いておくスペースを確保できないため。
- ・ 備蓄の必要量を知らないため。
- ・ 備蓄を購入する金銭的な余裕がないため。

問4 災害時に役立つ生活物資として、どのようなものを保有していますか。
該当するものをすべて選んでください。

- | | |
|---------------|------------------|
| 1 救急セット | 6 乾電池（買い置き分） |
| 2 簡易トイレ | 7 寝袋 |
| 3 卓上コンロ・ガスボンベ | 8 その他（具体的にいくつでも） |
| 4 懐中電灯 | 9 特に保有していない |
| 5 携帯ラジオ | |

回答

	令和5年度 合計	令和4年度 合計	対前年度 増減		令和5年度 合計	令和4年度 合計	対前年度 増減
回答者数	373	354	19	携帯ラジオ	164 44.0%	169 47.7%	-5 -3.8%
救急セット	180 48.3%	179 50.6%	1 -2.3%	乾電池	274 73.5%	267 75.4%	7 -2.0%
簡易トイレ	108 29.0%	112 31.6%	-4 -2.7%	寝袋	94 25.2%	82 23.2%	12 2.0%
卓上コンロ	206 55.2%	190 53.7%	16 1.6%	その他	36 9.7%	44 12.4%	-8 -2.8%
懐中電灯	322 86.3%	309 87.3%	13 -1.0%	保有なし	23 6.2%	17 4.8%	6 1.4%



問4-2 その他で備蓄しているもの

回答（抜粋）

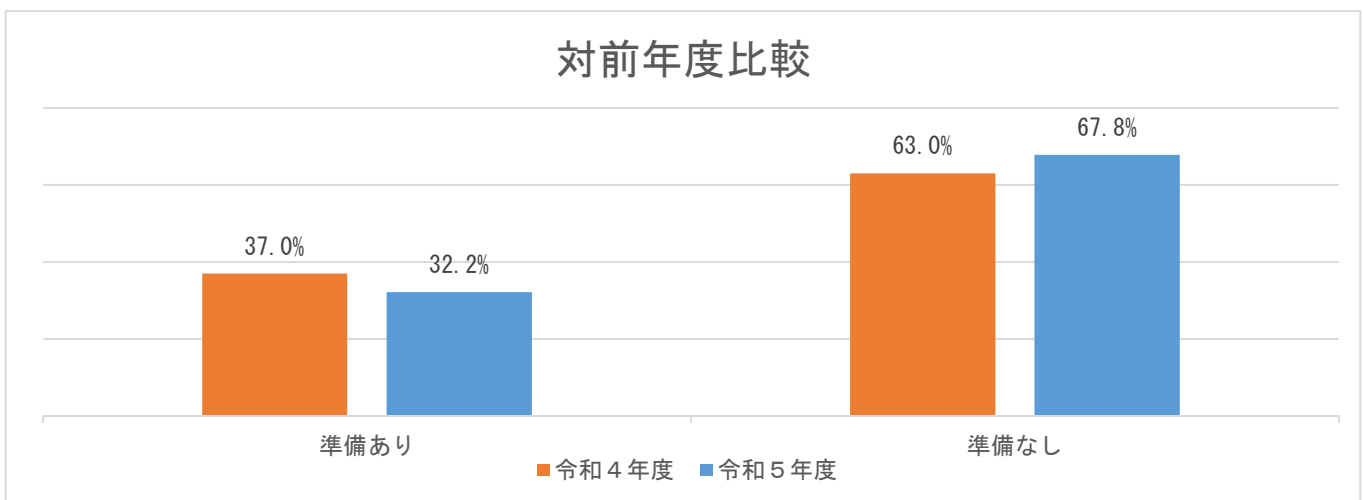
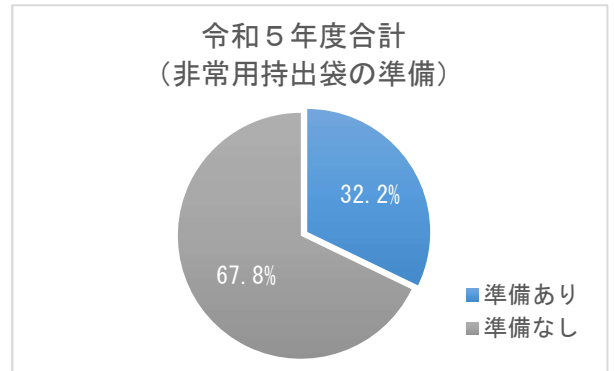
- ・生理用品 ・モバイルバッテリー ・非常持ち出し袋 ・ヘルメット ・アルミシート ・小銭
- ・除菌シート ・子供のオムツ ・ビニール袋 ・トイレットペーパー ・ポリタンク ・テント
- ・ラップ ・警笛 ・紙皿 ・ペーパータオル ・オーラルケア用品 ・マスク ・安全靴 ・長靴
- ・軍手 ・カップ ・簡易浄水器 ・防寒マント ・保険証のコピー ・常備薬 ・マッチ ・毛布
- ・ろうそく ・キャンプ道具 ・給水袋 ・ペット用品 ・充電式小型扇風機 ・ロープ 等

問5 あなたは、すぐに持ち出せるよう非常用持出袋を準備していますか。

- 1 準備している
- 2 準備していない

回答

	令和5年度 合計	令和4年度 合計	対前年度 増減
回答者数	373	354	19
準備あり	120	131	-11
	32.2%	37.0%	-4.8%
準備なし	253	223	30
	67.8%	63.0%	4.8%

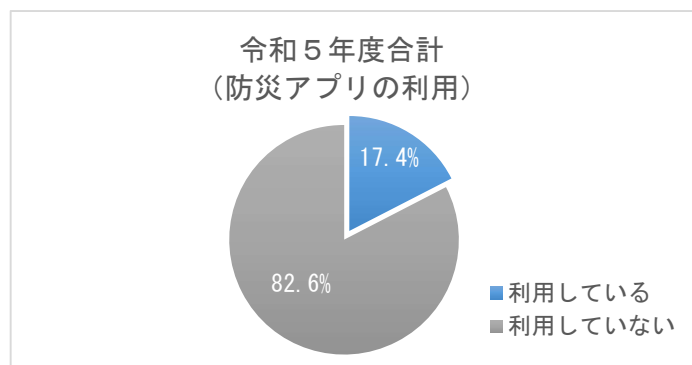


問6 あなたは、災害への備えとして、大きな文字と簡単な操作で、今いる場所や登録した市町村の気象や避難情報等がすぐにわかる県独自の防災アプリ「ふくおか防災ナビ・まもるくん」を利用していますか。

- 1 利用している
- 2 利用していない

回答

	令和5年度 合計
回答者数	373
利用している	65
	17.4%
利用していない	308
	82.6%



問7 災害時の備蓄について、これまでの設問以外に意見がありますか。

(抜粋)

- ・以前食料はある程度は備蓄していたが、賞味期限も気になり夏休みで子ども達が家にいる時に食べてしまった。いつ災害がきても大丈夫のように食べた分は新しく買い足すようにしなければいけないと改めて思った。
- ・情報が交錯していて必要なものは結局何なのか分からなくなる。実際にこういうものが必要、これは必要なかったなどサイトを見ても人によって様々。そのすべてを集めると膨大な量になり、保管場所がなくなるしそれを持って避難するとなると重すぎて持っていけるのだろうかと不安になる。荷物だけでも不安だが、小さな子どもと2人暮らしのため子どもを抱えて荷物を持つとなると現実的に持っていけるものは少ないから最低限のものだけ準備しておこうという結論になり、今に至る。そのため我が家には備蓄がほぼない状態。
- ・災害は、自分の所には起こらないだろうと思込んでいる。また、避難場所になっている市民センターなど、公共施設にも備蓄があるので個人で準備しなくてもいいのではと思っている。自分の考えを改める必要があると感じた。
- ・備蓄しておかなければならないことは分かっているが、緊迫性を感じないため高い値段を出して買う勇気がない。もう少しお手軽に買えるものがあればいいのと思う。
- ・今住んでいる場所が洪水や崖崩れ等の心配がない場所であるため、災害について危機感がない。しないといけない事は分かっているが災害対策をしていない。
- ・基本的には自分で対処をする予定で準備をしているが、食料・水に関しては不安が残る。市の方ではどれくらいの備蓄をしているのかも分からないので、できれば知りたい。
- ・現在でも台風接近時スーパー小売店から水のペットボトルやガス缶が店頭から無くなる。独居老人や身障者世帯に対する手当を町内会単位で事前に決めるなど平時に役割を決めていて欲しい。
- ・何かの機会がないと災害時の備蓄の必要性を忘れてしまうので、今回アンケートを契機に災害時に必要な備蓄品等を考えてみたい。
- ・県独自の防災アプリ「ふくおか防災ナビ・まもるくん」について、ほとんど聞いたことがなかった。もっとメディアや広報誌などを通してPRしてほしい。
- ・あれもこれもと準備するとけっこう場所を取るし、いざという時に持ち出せる量ではなくなるため困っているところ。県独自のアプリがあるとは知らなかったため活用したい。
- ・このアンケートを答えるまで、災害時の備蓄について考えたこともなかった。災害に対する備蓄を呼びかける活動も必要なのかもしれない。
- ・買いだめしているけれども時と場合によっては切らしてしまうため、その時に災害が来てしまうと怖いという気持ちはある。
- ・近くの避難場所にどれくらいの備蓄品があるか地域住民に開示しておく、有事の際にしている住民全員で情報の握り合いができる。
- ・災害時の備蓄用品を購入しようと思いますが、一つ一つの値段が高くまだ用意できていない。市政から少しの補助があればと思う。
- ・以前関東に住んでいた際には一通りの品を入れた非常袋を準備していた。福岡に転居し「災害の少ない県だから」と袋の中身はバラしてしまった。考えてみれば何の根拠も無い訳で、考え直すべきだなと思う。
- ・災害時の備蓄に関して、市町村との連携も重要である。例えば、県と市町村との備蓄の分担や役割なども説明すべきだと思う。
- ・具体的にどんなものがあれば、備蓄として成り立つのかわからないため、もっと発信してほしい。
- ・アレルギー対応食の備蓄が進むと良いと思う。
- ・災害が近くである度に備えや備蓄が必要だと思い購入しようと思うが、いつも日々の忙しさで見送ってしまう。備蓄の必要性はよく耳にしている。どこかでまとめて購入ができる場所があったらいいと思う。

令和5年度(第3回)県政モニターアンケート集計結果
 〈生涯学習について〉

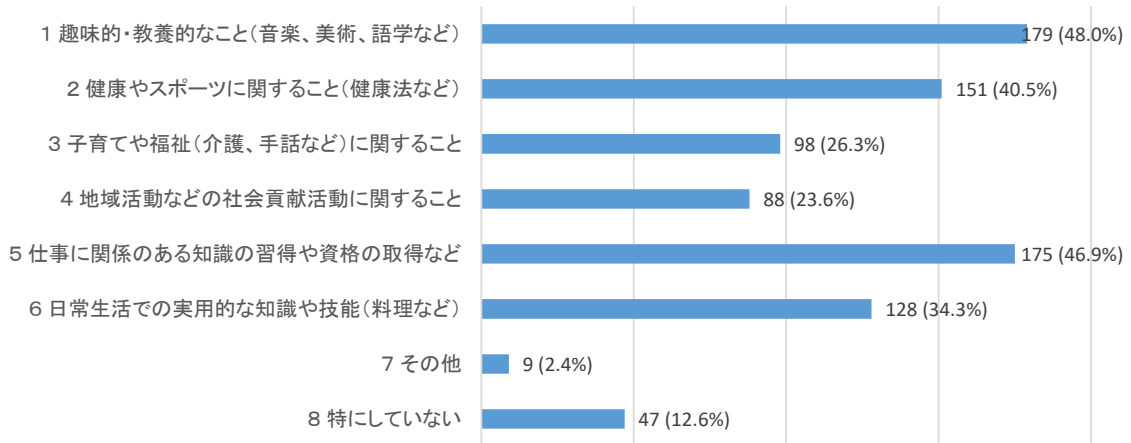
【調査の目的】

近年、少子高齢化による労働力人口の減少、科学技術の高度化や経済のグローバル化など、社会や経済が大きく変化し、私たちがいきいきとした生活を営むためには、これまでの趣味・教養や知識の習得だけでなく、職業上の能力を経済的に高めていくことや地域社会の課題に地域で対応できる能力を身につける必要があります。
 このように、社会の変化にともなって生涯学習に求められるものも変わっていく中、更に生涯学習を推進していくための施策検討のため、生涯学習に関する皆さんの現状やご意見をお伺いし、参考とさせていただきます。
 (人づくり・県民生活部 私学振興・青少年育成局 政策課)

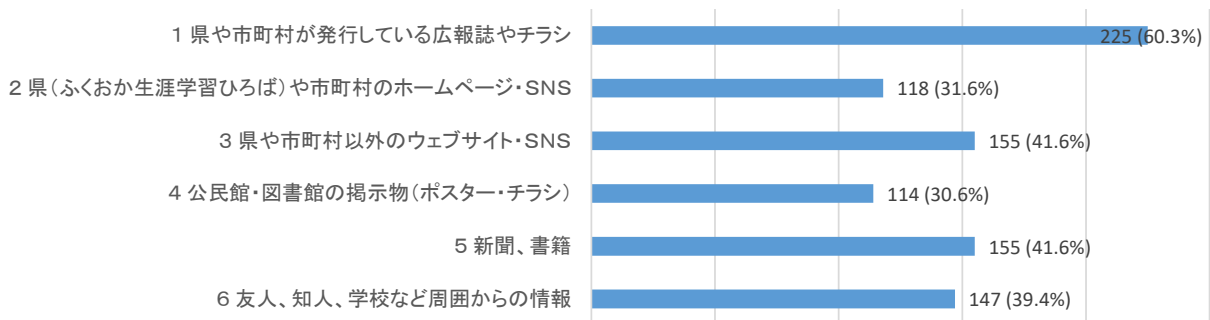
※生涯学習とは
 人々が自発的意思に基づいて、「自己の充実」、「生活の向上」、「職業能力の向上」のために、自ら学ぶ内容を選び取り、充実した人生を送ることを目指して生涯にわたって行う学習のことです。

※1 回答者数:373人
 ※2 問1～問6まで複数回答可

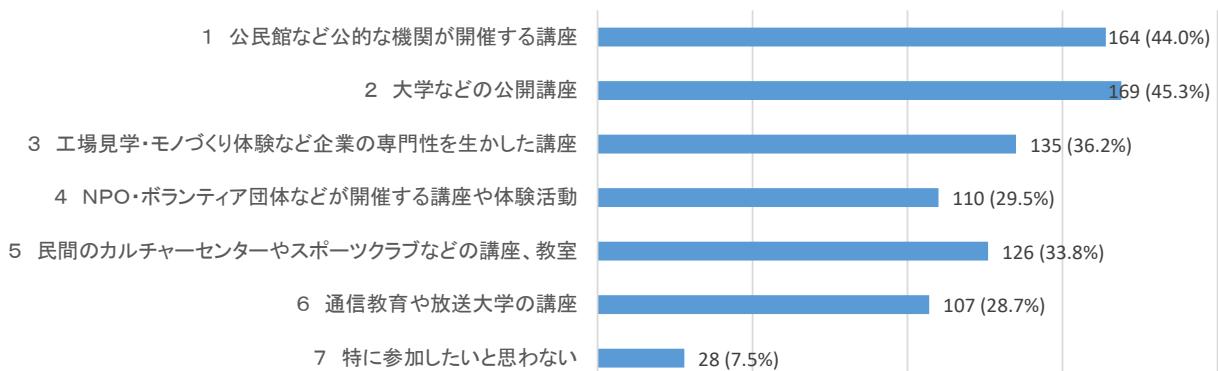
問1 この1年間に次のような学習をしたことがありますか。 回答件数 875



問2 生涯学習を行う場合、どのように情報を入手していますか。 回答件数 914



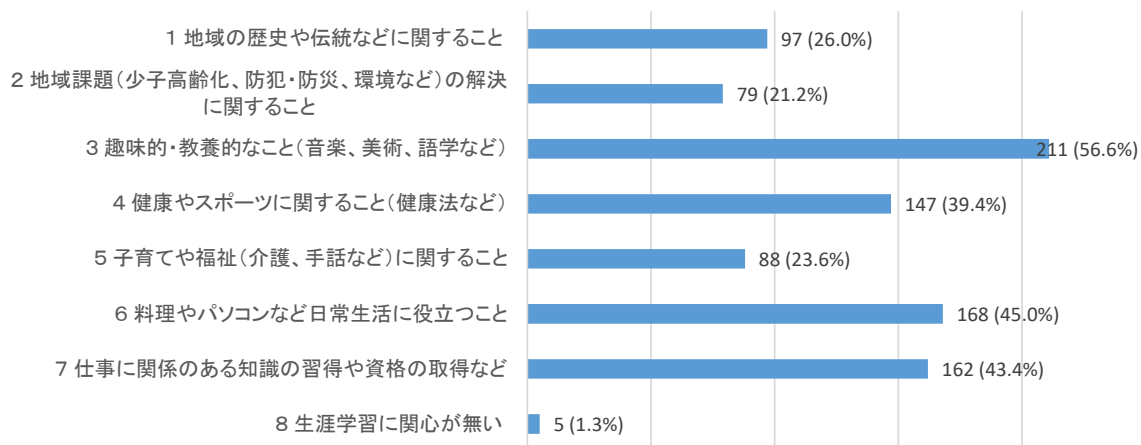
問3 今後学習を行う場合、どのような講座に参加したいと思いますか。 回答件数 839



問4 今後学習を行う場合、どのようなことを学びたいと思いますか。

回答件数

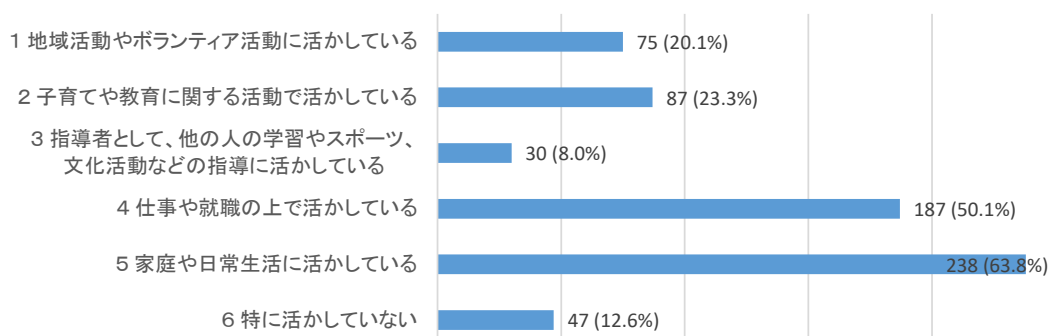
957



問5 学習によって身につけた知識・技術や資格をどのように活かしていますか。

回答件数

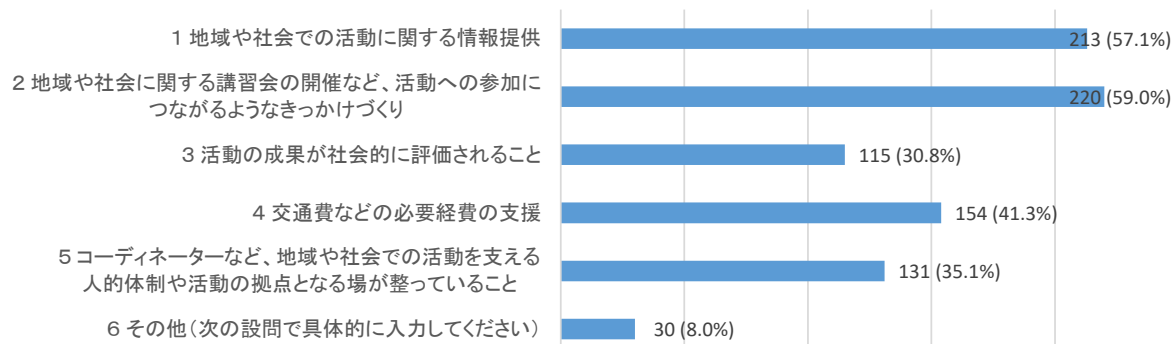
664



問6 多くの人が地域や社会への活動に参加するようになるためにはどのようなことが必要だと思いますか。

回答件数

863



【その他】※抜粋

- ・参加特典や報酬を設ける
- ・インターネットやSNSの活用
- ・参加者の数や年齢層を広げるようなコンテンツの工夫
- ・託児等の参加しやすい環境づくり
- ・初めてでも参加しやすいコミュニティの雰囲気づくり
- ・幼少期からの教育
- ・時間、精神的な余裕

問7 生涯学習について、これまでの設問以外に意見がありますか。
ある場合は、その内容を具体的に入力してください。※抜粋

回答件数 135
回答率 36.2%

○地域貢献・社会貢献活動

- ・人が喜びを感じるのは評価された時と思います。地域貢献や勉強なども同様に褒める工夫は必要だと思います。(60代/男性)
- ・高齢化に伴う時間を持った人々が生き甲斐と社会貢献を兼ねた生涯学習が出来ると良いと思います。(60代/男性)

○地域社会との関わり方

- ・地域活動の中に地域における自治会活動があります。当エリアでは、老人が多くなり、自治活動を運営する役職の方が少なくなり、それに併行し行事そのものの参加も減っています。これは、本邦の少子高齢化もありますが、同時に若い人の地方離れ、加えて家族意識も薄れてこの様な結果が生まれてくると思います。子や孫が居付く、素晴らしい環境作りから進めないと、この傾向はますます強くなると考えます。生涯学習の表題とは違うと考えますが、地域の活性化が進めば色々な場面が変わってくると考えます。(70歳以上/男性)
- ・現在の住居に住み始めて3年ですが、コロナ禍もあってか地域の活動などがいまいち把握できていない状況です。回覧板でお知らせはありますが、住宅街で子供もいる中、地域の行事に参加しますが馴染めていないと感じます。生涯学習を通じて、地域の方と親交を深めることで社会で活動するきっかけにしたいです。(30代/女性)
- ・我が家は、80代の主人の両親と同居しています。社会との接点は、私達家族を通してのみで、自らディサービスに行ったり趣味や地域活動に参加することは全くない状態です。敬老会さえ2人とも行きたくないといひます。本人達がそういう場所を好まないというものがあると思ひますが同居している家族としては、人との関わりがぼけ防止にもつながるし刺激を受けるのではと思ひ、何が良い方法はないかなと思ひています。その反面80代になるとなかなか外に行かなくなるだけではなく、身体的にも行けなくなるのかなとも感じています。(50代/女性)
- ・中年以降の地域/社会活動への参加は、これまで通りでいいのかとも思ひますが、若い方の参加は現状では難しいのだと思ひます。学校という枠から出て社会へ出た若者は、放り出されていると思ひます。実家暮らしをしていれば、自分が興味のあること以外のことでもやらなくてはいけないこともあるでしょう。しかし、ひとりで生活をし、職場と家の往復。通勤途中もスマホを見ながら。食事さえも『おひとりさま』という言葉を巧みに使い、気楽な一人がいいという『個』の時代になっていることが問題です。地域社会活動への参加の意味がないと思ひていることでしょう。自分がやらなくてもという気持ちも多いと思ひます。それは、地域で子どもを育ててこなかったということが大きく影響していると思ひます。地域社会活動へ参加しない若者を作ってしまった原因を考え、そこを改善することが必要だと思ひます。(50代/女性)
- ・特別な肩書を持っていなくても誰もが支える、または支えられる側になるという意識の改革が必要だと思ひます。具体的には自分たちが暮らす地域の課題を自分事として受け止め行政の力や民間の力を借りなくても最適解を見つけて具体的に行動がとれるような日頃のコミュニケーションがいざというときのとっさの判断において明暗を分けるような気がします。(50代/女性)
- ・常に新しい知識に触れることで人生が豊かになると思ひます。社会は変革して立ち止まてはいられない。一番大切なのは人との交流で、情報で分かっていた気になっていても社会の一員に及ばないこともあるかと。(70歳以上/女性)

○生涯学習に取り組める環境づくり

- ・いろいろな勉強をしたい気持ちはありますが、講座がほぼ参加出来ない日時のためあきらめています。もう少し社会人でも参加できるような仕組み作りをしていただければ嬉しいです。特に30、40代の独身が楽しく参加出来、交流が生まれるようなものと嬉しく思ひます。(40代/女性)
- ・自分のための学習では、参加に時間や場所の制約があり参加出来ないこともある。柔軟に参加出来るような内容があればよい。地域や社会への活動は、やりたいと思うが、そのきっかけ作りが出来ないので、顔合わせなどスムーズに入れるような取り組みがあれば良いのでは。(60代/男性)
- ・日中仕事していると平日の昼間に行われているカルチャー教室やセミナーなど参加することができません。平日夜間、土日にも多く開催して欲しい。あと官公庁としては難しいかもしれないが、大人の自習室(朝早く～夜遅くまで)を1市町村に1つ作ってくれるととても有難いです。(20代/男性)
- ・公民館などで子育てに関する講座をよく見かけますが、ほとんどが平日日中の開催のため、フルタイムで働いていると参加出来ません。今は働きながら子どもを育てている人も多いと思ひますので、土日にも開催して頂けると嬉しいです。(40代/女性)
- ・会社の有給制度として、地域活動や社会貢献の日利用できる有給制度などがもっと整備されると良いかと思ひます。子供がいる家庭であれば、親子の時間も取れるし、一石二鳥かと思ひます。(20代/男性)

・仕事をしている方もなかなか難しいとは思いますが、こういう方たちは有給休暇の取得で時間が作れる可能性があります。しかし小さな子供がいる方や介護を行っている方等には休みというものがなく、時間を作ろうにも予定どおりに動けないのが現実です。

そこで学習時間は保育や介護支援をしてもらう、リモートでの参加が可能、リモート中に中断しないといけないような状況も多々あるはずなので、後日動画配信等で隙間時間で学習ができる等、少しでも集中して学習できる環境を整えてもらえるかと参加してみようかなと思えるかもしれません。

また、配偶者等に学習がただの趣味・遊びだからと協力してもらうことが難しい家庭もあるかもしれません。そういう理解不足によって学習機会が奪われてしまうことが無いよう、もっと周知してもらうことも大切かなと思います。(40代/女性)

・学びたいものがあったても、遠かったり、子供がまだ小さくて通えないことの方が多い。オンライン講座を積極的に取り入れて欲しい。(40代/女性)

・子育て中ですと参加したくてもできない場合があります残念です。可能であれば託児サービスなど充実させて欲しいです。(40代/女性)

・学習したくても、フルで働いて、子供がいると時間が許さない事が多いと思う。子供と一緒に参加できるような大人向けなものがあると嬉しい。(30代/女性)

・市が募集する生涯学習などに以前は参加するのが好きだったのですが、在宅勤務になってから車も持っていないのもあって、あまり参加しなくなってしまいました。やはり、定期券があって、それを活用しようという気持ちがあるのだと感じました。(30代/女性)

・自分の関心がある活動も、交通費の自己負担がネックになる場合があります、このあたりのすり合わせが課題かなと感じている。(60代/女性)

・みやま市は交通の便が悪くマイカーがなければ、病院や学習に参加したくても高齢者の場合交通機関がないので、みんな参加が出来るように市のバスを送迎バスとして使って欲しいと思います。(60代/女性)

・生涯学習は、現状の生活水準を維持していく上で必要不可欠になってくると思われる。現状は退職後、年金などで余裕ある世代に限られ、現役世代も日々の生活に余裕がなければ、なかなか参加できないので、時間的にも金銭的にも課題があると思われる。(50代/男性)

・現在私は通信教育で大学である資格の取得に向けて学習をしています。子育て中であり、正社員として働いていますが、通信教育であっても、大学に通う為には職場の理解が必要で、はじめは現在の職種に関連のある学習でないと認められないといわれました。仕事を休むわけでもなく、自分のももとの公休や有休を取得し通信大学で学習する場合であってもです。最後は仕事を休んで大学に行っているわけではなく、プライベートの時間であり職場が口出しはできないとなり、現在通信大学で学習しているわけですが、私のように職場の理解がないという環境の方は多いと思います。まずは、生涯学習がその人の可能性を高め、生き生きと生きていくために大切なことであり、社会として当たり前についていけるよう考えを広めていく事が必要だと思います。そして公民館で行われている活動は平日の日中等が多く、どうしても参加できるのは退職後の高齢者や無職の方に限られると思います。幅広い方々が参加できるように時間を広く設ける等していただきたいと思います。(40代/女性)

・若い方がもっと参加できる環境作りを。高齢の元気な方には講習会参加者のお子さんを見守る。継続することにより社会とのつながりが子どもらお年寄りまでできてくるのでは。(50代/女性)

・高齢者を子育て支援に活用するシステムがあると良いと思う。
現在、市主催のファミリーサポート提供会員講座を受講中。子育て中に受けた支援にお返ししたい思いです。(60代/女性)

・久留米市北野町のセンターはとても素晴らしくて、我が町大牟田市にも欲しいと熱望しています。理由はまさに生涯学習の拠点です。図書、体操、料理、運動、コミュニティーフロアが自由に利用出来る所が魅力です。ジム機器もあって体力維持はもとより、足の弱った方へはプールの歩行訓練も可能で健康サポートが素晴らしいです。曜日によって多種にわたる講座もあり、参加もしやすく、新しい自分発見や何かを始めるきっかけ作りの後押しをしています。調理ブースも体操ブースもガラス張りなので、参加しない人でも見えることによって興味を持ち始めたりします。生涯学習の充実、拠点とそのきっかけ作りが必要だと思います。(50代/女性)

○生涯学習機会に関する要望

・定年退職したような人にさまざまな学びの場を設けてあげると行き場としていいのではないかな？地域の小学校のようところで足を運びやすいようにしたらどうか？子どもたちと関わり合うようになれば優しい社会になるのではないのでしょうか？(40代/女性)

・年をとるにしたがって 遠くに行くことや、知らない人の中に入ることに躊躇しがちです。自分の住んでる地域にある公民館などなら行きやすいし、知人に声をかけて一緒に参加することも可能です。校区ごとの生涯学習の機会を望みます。(60代/女性)

・多くの人々は高齢になっても学びたいと思っているのではないのでしょうか。キッカケがあれば(参加しやすい環境があれば)参加しやすいと思います。(どうしても、受け身になりがちだと思いますので)。最初は、大きな集まりで(垣根が低いと思える)あれば、あまり人目を気にせずふらっと参加しやすいし、それを見て良い感触を得れば、次回からは小さな集まりになったとしても、(人目があったても)参加しようと思うのではと思います。(60代/男性)

・シニアで生き甲斐につながる仕事の生涯学習の機会を提供してほしい。(70歳以上/女性)

- ・老人だけ親子だけなどが多く、ミドル世代の生涯学習も増やして欲しい。(40代/女性)
- ・高齢社会のため生涯学習は重要な課題と思います。私は生涯学習の場に注目しました。高齢者が増加している現状に比べ学習、運動、交流の場が少ないと感じます。各小学校区にある公民館だけでは足りないと思われるので、今後は多世代で集える開放的で広い施設を増やして参加が増えることで生涯学習としての成果を期待出来るのではないかと考えます。(60代/男性)
- ・年配者のコミュニティと若者のコミュニティが交わって関わる事ができるものがあると思う。金八先生6で学校内に福祉のコミュニティがあるのを見ていいなあと思ったから。空き教室を利用できるのもいいと思う。(50代/女性)
- ・参加したい内容があったとしても、年齢や性別で制限されている事が多く見受けられます。もし、その受講者が少ないのでなければ、将来を見据えて、年齢制限なしにしたり、多様性の社会を実現するためにも性別などで一括りにせずに多種多様な人たちが参加出来る生涯学習を実現して欲しいです。(40代/男性)
- ・退職してからは、趣味の卓球しか活動をしてない。社会と繋がりを続ける為にも何か学びたいと思うが、背中を押してくれるような情報やきっかけ、近くで参加できる場所が分からない。(60代/女性)
- ・地域の情報番組や、ラジオ、SMSなど、様々な媒体を使って幅広い年齢に学習機会を周知することが必要だと思います。(40代/女性)
- ・目的によって利用の仕方や内容がもう少し見えやすくなって欲しいです。(60代/女性)
- ・どこでどんなことを実施しているかとかの情報がもっとわかればいい。(20代/女性)
- ・生涯学習の相談にのってくれるところをもっと宣伝してほしい。(60代/男性)
- ・小中学校への宣伝活動、子供を巻き込んだ活動は有効な気がします。(30代/その他)
- ・地区によって実施の偏りが目立つ。(40代/男性)
- ・地方にその機会が少ない、もしくは交通の便がないため定期参加が難しい。(20代/女性)

○参加したい講座や希望する講座のあり方

- ・以下のようなテーマが興味を引きます。
 - ・学校教育では学ばない地域の歴史・伝統・風習
 - ・学校教育では簡単に流される日本の古代
 - ・学校教育では簡単に流される日本の近現代史
 - ・農業体験と食の大切さ
 - ・食と直結する健康、現代病
 - ・福岡県で行なっているもの作り
 - ・人材不足と余暇利用人材のマッチング
 - ・有効土地利用 (70歳以上/男性)
- ・生涯学習として手話講座を充実させてもらえたら嬉しいです。具体的には、手話を個人のレベルに応じて学べるように、初級、中級、上級クラスのように段階的に設置してもらい、出来れば、各クラスには実際に日本手話を母語とするろう者の方にも参加して頂きながら、手話での会話と同時にろう者の日常や文化などの話も聞けるような講座があったらいいなと思っています。2025年にはデフリンピックも開催されることで、是非ご検討いただければ嬉しいです。宜しくお願いします。(40代/女性)
- ・子どもから大人まで学べる金融教育に力を入れて欲しい(税金の仕組み、青色申告控除や確定申告の仕方、NISAなどの投資方法など)。(30代/女性)
- ・以前にFP3級を取得したが、その後法律が変化しているのにそれを学ぶ機会がないのが残念。生活の中でどう活かしていくか、法律が変わる前にした方が良い事、FPに関する情報を更新できる定期的講座を実施してほしいです(web講座も)。(50代/女性)
- ・お金の勉強(NISA、IDECO等)は是非必要と思います。そのためにパソコン、スマホも必要となります。(60代/女性)
- ・生涯学習という枠組みだと、リタイヤした方や専業主婦(主夫)が参加するものという雰囲気を感じます。学習という枠組みならば、子どもから対象にしていいと思っています。中でも「英語」は日本人がアレルギーに感じるほどの苦手意識があるものと思っています。これを県が主導して、週に複数回講座を設けるなどして対応してはいいかがでしょうか。息子には英語を苦手に感じて欲しくないという思いから、バイリンガル系の幼稚園に通わせていますが学費がとても高いです。学費が理由で通園をあきらめたご家庭もたくさんいると思います。外国人の先生が外国語だけ話すような学習の枠組みを設け、「勉強と感じる前に、英語を身に着ける」という仕組みにしていきたい。(30代/男性)
- ・国際交流イベントがあったら参加してみたい。(20代/その他)

・生涯学習の中に、NPOなどでボランティアや人材を求めている活動のニーズを集めて講習会を企画して欲しい。机でだけではなく、ボランティアなど体験しながらの学びがあっても良いと思う。(60代/女性)

・北九州に住んでいますがもう少し高齢者対象の学びなおし講座等の企画が欲しい。(70歳以上/男性)

・高齢化社会であることから、身近にできる健康法や体操等を教えてくれる場所を増やしてもらいたいです。(50代/男性)

・年配者向けの学習を更に充実させて頂ければ幸いです。(70歳以上/女性)

・年寄りだから、IT系が苦手だと勝手に決めつけず、学べる、機会、施設等を増やして欲しい、年寄りでも生きることにより一生懸命な人は居る。(60代/男性)

・公民館のカルチャー講座は、若い人がほとんどいないので若者を取り込む工夫をもっとするべきだと思うし、親子参加できるものももっと増えたいと思う。(60代/女性)

・皆さん既にお友達になっていて、入りづらい感じです。参加したこともありますが、一人ぼっちで誰とも話す機会がなく直ぐに帰りました。(70歳以上/女性)

・出産前はスポーツ講座に参加していました。その時感じたのが、常連と言われる方が多かったこと。一部の方が利用している印象を受けました。50代の女性がほとんど。行政が支援しているものは、働いてる方も働いてない方も、年代も男女問わず、幅広く利用できるようなになればいいのになと感じました。(40代/女性)

・学習や活動をしてみたいと思っても、いきなり参加するのは不安があると思うため、説明会だけの参加も歓迎として、公民館や施設で説明会を広く開くと良いと思う。(10代/女性)

・気難しく考えなくていいように、気楽に参加できるよう、敷居を下げて欲しい。イメージだけでも。誰でも、いつでも参加しやすく。(20代/男性)

・費用が掛からない、教養UPの学習を希望。(70歳以上/男性)

・参加費が無料やワンコインだと気軽に参加したくなります。(20代/女性)

・なるべく費用の負担をかせずに実生活に役に立つものを学びたい。(50代/女性)

・学ぶことに時間を使うのであれば、仕事の事など収入に繋がるような事を学ぶ方がいい。(20代/男性)

・私は古賀市に住んでいるのですが、広報誌が充実しており習い事などもたくさん掲示してくれたり、イベントも掲示してくれているのでとても興味が湧きます。ただ、月謝なども表示していただけるとありがたいと思います。また、無料体験などがあるという方々が学習をするきっかけになるのではないかと思います。(30代/女性)

・家庭生活と並行して参加できるように、オンラインで参加[見るだけでなく学習したり共有したり協力したり働いたり指導したり]できるといいと思います。(60代/女性)

・インターネットのYoutube等の動画サイトを利用して有効な講座を受講できるようにしてほしい。(50代/男性)

・今の時代は、情報はすぐに手に入る。Youtubeはじめ、様々なSNSを活用すれば様々な技術を映像でみることができ。行政が講座を主催するならば、きっかけづくり、コミュニティづくりに特化したものがないと思います。(40代/男性)

・公が主催する活動や講座などに関しては、一般的に「真面目」なイメージを持たれるものが多いと思います。また「真面目」なイメージを持たせるような広報をしている場合が多い印象を受けます。「真面目」は悪いことではないのですが、もし若い人やより多くの参加者を募りたい場合は「おもしろそう」「楽しそう」「何かもらえる」等の要素が重要になってくるかと思っています。また情報発信媒体も広報誌やHPにとどまらず、X、Threads、Instagram、TikTok、note、Voicy、LINE、Facebook等々、様々なSNSを駆使する必要があると思います。今はカスタムメディアの時代です。何から情報を得ているかは人によって様々です。発信内容はコピーで構わないので様々な媒体のアカウントから発信すると効果的かと思っています。(30代/男性)

・正しい専門知識のある方による、しっかりとした講習等が必要だと感じます。(60代/男性)

・自分はよく趣味で学習しているが、自治体や民間が開催する講座などは講師の正しさが信用できなくて参加しづらいパターンが多々ある。例えば地域の人向けに歴史の教養講座を行うときは、地域の歴史に関する小説を書いている作家を呼ぶのではなく、地域の歴史を研究している大学教授や学芸員を呼ぶべきだ。専門的な教育を受けてない人たちは事実よりも面白さを優先する傾向にあるので、誤った歴史を広めてしまいかねないからだ。実際にあとから専門書や専門家が書いた記事を読むとぜんぜん違うことが書いてあったということも何度もあった。もちろん専門家の肩書きがついていればいいというものでもないし、面白さは大切だが、それを優先して地域の人に誤った歴史を教えるのは本末転倒だろう。これは一例にすぎず、専門家にも肩書きが無いような分野もあるので判断は簡単ではないだろうが、どうにかしてもうちょっと慎重に選んでほしい。(20代/男性)

○関係機関との連携

・リスキリングという言葉が流行っていますが、スキル習得などは、無論、個人の意志が尊重されるべきものだと考えます。それを前提として、自治体が学習環境を用意していくことについては賛成です。特に大学などの教育機関と連携した学術的な公開講座があればぜひ参加したいと思います。それが市民のスキルアップにつながり、さらに福岡県の発展につながるようなビジョンを描いて計画してみてもいいかもしれません。(20代/男性)

・生涯学習と地域のコミュニティセンターでの活動は大いに関係があると思う。
より多くの方に生涯学習を享受してもらうには、コミュニティセンターの充実が不可欠と思うが、現状のコミュニティセンターの活動はどうか？県や市町村は、自治という名の下に地域コミュニティセンターの自主性に任せて、丸投げしている状況があると思う。今一度、県や市町村はコミュニティセンターの実態・内実を把握して、優秀な人材投入やセンター職員の人事評価等を導入するなどの手だてを施策としてやってほしい。
地域の自治力の向上も地域のコミュニティセンターが担っているの、コミュニティセンターの充実が大切なことだと考える。地域の自治力が向上しないと、どんな施策を県や市町村が打ち出しても効果は限定的だと思う。(60代/男性)

○学んだ成果の活用

・常に何か興味をもち学習に繋がっていますが、結果として活かしているかといえば満足はできていません。(30代/女性)

・出版等が今少し低経費で可能なような制度の創設等、生涯学習の成果を発表できる場が欲しいと考えます。(70歳以上/男性)

・人生は常に学習だと感じています。
独学するにしても書籍など馬鹿になりません。経済的負担を減らしながら生涯学習したい。
これから労働人口が減少していく中で、一定のスキルを持ったシニア層が活躍できる環境を整えてほしい(公的にも、民間的にも)。(50代/男性)

○行政に望む施策・支援

・これも上記と同様に教育や街づくりと密接にかかわっていると思います。県として、想定する世界の在りよう、日本の在りよう、その中で県の在りようを踏まえた上で大きく方針を打ち出し、各論を横断的に詰めていくのがいいと思います。(50代/男性)

・地域の歴史や伝統を知る機会が急速に失われていると感じます。不況により、特に若年世代及び子育て世代は日々の生活に窮しているため一朝一夕に生涯学習に手を付けることは難しいと思います。従って長期的に市民の所得が向上する設計を描くことが重要だと考えます。(30代/男性)

・行政における生涯学習は、多くの人にとって良いことを追求すべきです。時代の変化に応じた生涯学習(リスキリングなど)は目まぐるしくかわりうるものなので民間に任せる。行政は、人が人らしくいきいき生きることに必要な文化的側面、民間では収支が取れないような分野に絞って取り組むべき。一部の人に合った尖った政策より、万人にとって永く普遍的な政策をたくさん取り組んで、経済的だけでなく豊かな社会にしてほしい。(40代/男性)

・地域の発展、日本国の発展、地域や日本の伝統や文化、国柄を守ることにつながるような生涯学習の政策を期待いたします。(50代/男性)

・これはあくまで興味がある人が能動的に動かないと何も発生しない活動です。行政から(地域から)の直接的な働きかけがない限り、活動の活性化は難しいと思います。(40代/女性)

・世の中には行政からは知られていない、時間に余裕があり、豊富な経験と技術を持つ人材がたくさんいらっしゃると思います。その様な人材を活用することができれば、多種多様な学習の機会が増え、講師のやり甲斐もできると思います。(60代/男性)

・自治体が補助をしてコンサートや文化事業などを安価で参加できるようにしてほしい。(60代/男性)

・課題は生涯学習に興味がある人と興味がない人の意欲は大きな差があり、興味がない人の生涯学習への参加が少ないことである。そのため、興味がない人を行動できるように、環境の整備(インターネットを活用した学習方法の確立)と参加を促すことが重要だと思う。
政策としては、生涯学習のために利用するインターネット料金を一部補助する制度があれば良いと感じる。(30代/男性)

・生涯学習に臨む機会が得られないのは家計の面で余裕がない家庭があると思います。必要経費の支援等してくだされば参加する方も増えると思います。(40代/男性)

○その他

・問6の設問に近いと思うが、「生涯学習」を行う目的・狙いが人により異なると思います。例えば「マズローの要求5段階」のどの段階を目的・狙いとするかで取り組むモチベーションや内容が異なると思います。欲求の低い順に、「(1)生理的欲求(=睡眠や食事のような生きるために必要な欲求)」、「(2)安全欲求(=健康で経済的な安定を望む)」、「(3)社会的欲求(=良いコミュニティー(集団)や人と繋がりたい)」、「(4)承認欲求(=人に認められたい)」、「(5)自己実現欲求(=自分らしさを求める事)」の段階があります。格差社会と言われるように、日々の生活費が不足している方々は、どうしても「(1)生理的欲求」の確保が最低限必要になるので、学習の目的が収入につながるものを望んでいるケースもありますが、同じ境遇でも価値観により、食事を犠牲にしても「(5)自己実現欲求」を追求したい方もあります。なので、この5段階の欲求(目的・狙い)を達成することに繋がる、それぞれに対応した学習コンテンツを意識することも広く対象のニーズに合うのではないかと思います。(60代/男性)

・少子高齢化による労働力の人口の減少の問題。人生100年の時代の時代の生涯学習に取り組む事は大切な事だと思います。それに、今現在100歳まで生きたいと思わせる何かが、長生きしたいと思わせる社会環境、金銭が必要だと思います。(60代/男性)

・学ぶ目的を明示してあげる必要があるように感じる。なんとなく興味本位で学んでも長続きし辛い。例えば、この知識を得て資格を取ることで、それを活かした地域や組織での活動において、地位や名誉、経済的なインセンティブを得られることに繋がれば(少額でもいいので)、自分の居場所ややりがい、張り合いが出て、学ぶ意欲や参加する意義を見出せる人が多くなるのではないかと。目的と得られるものを明示してあげることが大事と感じている。(40代/男性)

・生涯学習することによって認知症になるリスクや健康的な生活水準を高めることが期待できると感じます。声を掛け合って楽しく参加できることが何より重要だと思います。(60代/女性)

・現代社会は時代の変化が急激で、3年前に通用したことが通用しないと言ってもいいくらいの社会変化が起きているように思います。そのような社会変化が起きていることを住民に啓発するとともに、そのような社会変化に対応するためにどのようなスキルが必要かを行政・住民全体で確認していくような取り組みが必要であると考えます。(40代/男性)

・生涯学習と聞くと勉強なんてしたくない、ゆっくりしたいと思う人もいるかもしれません。生涯学習は自分に合ったものを見つければ楽しく、人生を豊かにしてくれるものだと思うように、生涯学習の良さをもっとアピールする必要があると思います。多分、健康と長寿に効果があると思いますし、実際に生涯学習をして健康で豊かな人生を送られている方の経験談を知りたいです。(50代/男性)

・子どものころから、共助の意義や必要性の教育が必要だと思います。そのためには、学校教育以外の社会教育が必要です。(50代/男性)

「学び」の情報発信

生涯学習情報提供サイト「ふくおか生涯学習ひろば」で次の情報を発信しています。

- 県内の大学や県の施設等が実施している学習情報
- 様々な機関・団体のホームページとリンクして、リカレント教育（学び直し）やスキルアップ、大学の公開講座、ボランティア活動につながる情報を発信

ふくおか生涯学習ひろば

ふくおか 生涯学習

URL <https://www.gakushu.pref.fukuoka.lg.jp/>

学びでつながる みんなの未来
ふくおか生涯学習ひろば
福岡県生涯学習情報提供サイト

初めて利用される方へ

情報発信!

学習情報の発信(登録・更新)はこちらから

音声読み上げ

文字サイズ 小 標準 大

サイト内検索

検索

HOME 学ぶ 活かす 活動レポート お役立ち情報 お知らせ

お知らせ NEWS

一覧はこちら >



2023年12月11日

福岡県内市町村の生涯学習推進体制等に関する情報を掲載しました。

2023年11月29日

【福岡県立社会教育総合センター】子育てWEB講座「乳幼児期編」（ふくおか子育てパーク）

2023年11月15日

【西日本短期大学】2024年度（4月入学生）社会人選抜「申込」受付中！

2023年10月23日

11月は「生涯学習月間」です！県内で開催される令和5年度生涯学習月間行事のご案内～

● ○ ○ ○ ○ ○

学ぶ LEARN

学びをさがす SEARCH

最新！学びの最新情報

紹介コーナー（活動・講座）

開催日：2024年11月11日～3月21日
【ももち文化センター】ももちシニア演劇部

開催日：2024年1月14日
【雨市民センター】学生演劇ワークショップ

開催日：2024年2月2日
【福岡市NPO・ボランティア交流センター あすみん】NPOのための税理士による会計・税務個別相談

開催日：2022年9月24日～2023年3月4日
【履修証明プログラム】授業でのGoogle Workspaceの活用 初級編 [オンライン講座]

開催日：2023年12月16日～2024年1月20日
【北九州市立大学】リカレント教育「i-Designコミュニティカレッジ」オンライン相談会・説明会開催（2024年度履修生募集について）

開催日：2024年2月22日
【福岡女学院大学】特別講座「ゼロから始めるDX基礎講座〈無料〉」【対面講座】

開催日：2024年1月24日
【ハローワーク福岡中央】介護のしごと知ってみませんか？

開催日：2022年4月1日～2021年3月31日
学習支援ボランティア（福岡県学習支援ボランティア人材バンク）

もっと見る >

令和5年度 県政モニターアンケート調査

テーマ：福岡県内の世界遺産について

福岡県人づくり・県民生活部文化振興課

九州国立博物館・世界遺産室

1 調査の目的

世界遺産とは、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約(世界遺産条約)」に基づき、顕著な普遍的価値を有するものとして、世界遺産リストに記載された遺産である。「文化遺産」「自然遺産」、両方を兼ね備えた「複合遺産」の3種類から成り、国や民族をこえて人類が共有するべき遺産とされている。

福岡県内には、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」(平成 27 年 7 月登録)と「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」(平成 29 年 7 月登録)の2つの世界文化遺産がある。

本アンケートは、福岡県内に所在する世界遺産の認知度を把握するとともに、世界遺産としての価値発信の在り方等について今後の事業の参考とする。

2 調査期間

令和5年9月15日～10月3日(第3回)

3 回答者の構成

項目		計		北九州	福岡	筑後	筑豊
		人数(人)	構成比				
総数	人数	373		90	197	56	30
	構成比		100.0%	24.1%	52.8%	15.0%	8.0%
性別	女性	206	55.2%	55	104	29	18
	男性	165	44.2%	35	92	26	12
	その他	2	0.5%	0	1	0	1
年代別	20代以下	60	16.1%	14	31	11	4
	30代	63	16.9%	14	33	11	5
	40代	72	19.3%	16	38	12	6
	50代	67	18.0%	18	35	10	4
	60代	84	22.5%	23	41	12	8
	70代以上	27	7.2%	5	19	0	3

モニター数 398人
回答者数 373人
回答率 93.71859%

【回答結果の注意点】

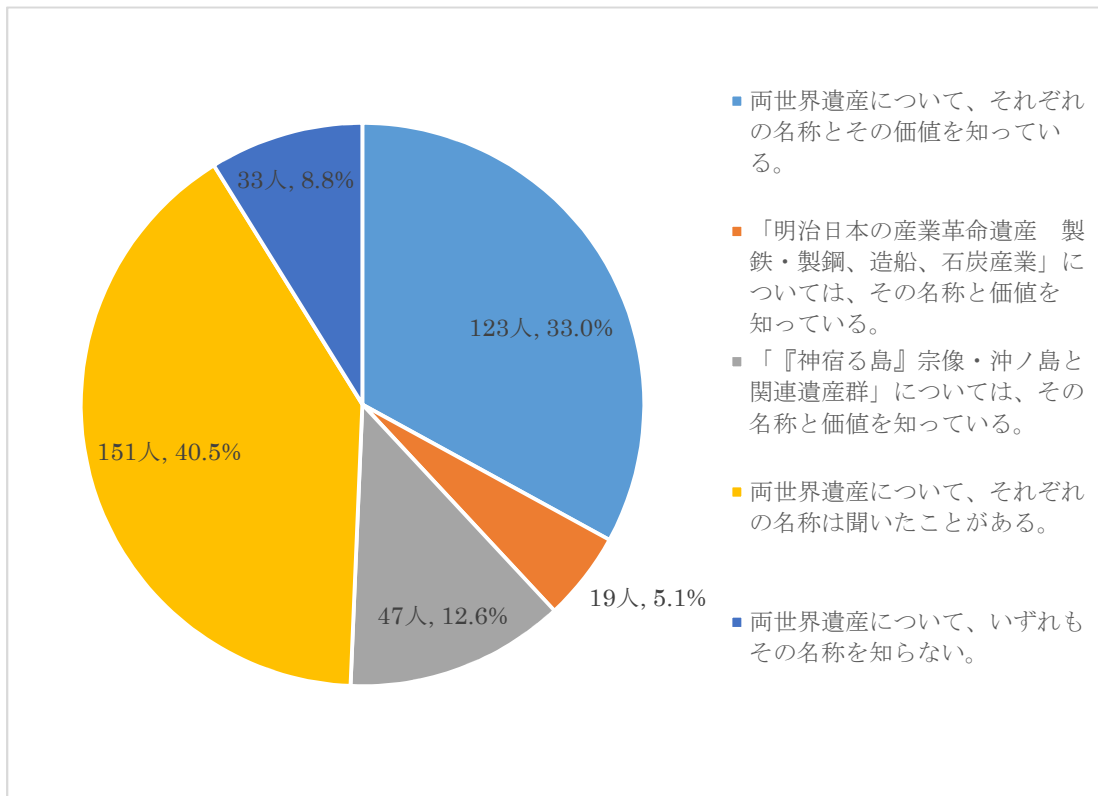
- ・ 集計は小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合がある。
- ・ 2以上の回答(複数回答)を要する設問の場合、その回答比率の合計は 100%を超える場合がある。

4 回答結果

問1 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」及び「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」についてそれぞれの名称とその価値について知っていますか。
次の中から【1つ】選んでください。

(回答者数 373 人回答)

1 両世界遺産について、それぞれの名称とその価値を知っている。	123 人	33.0%
2 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」については、その名称と価値を知っている。	19 人	5.1%
3 「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」については、その名称と価値を知っている。	47 人	12.6%
4 両世界遺産について、それぞれの名称は聞いたことがある。	151 人	40.5%
5 両世界遺産について、いずれもその名称を知らない。	33 人	8.8%



【問1の調査結果より】

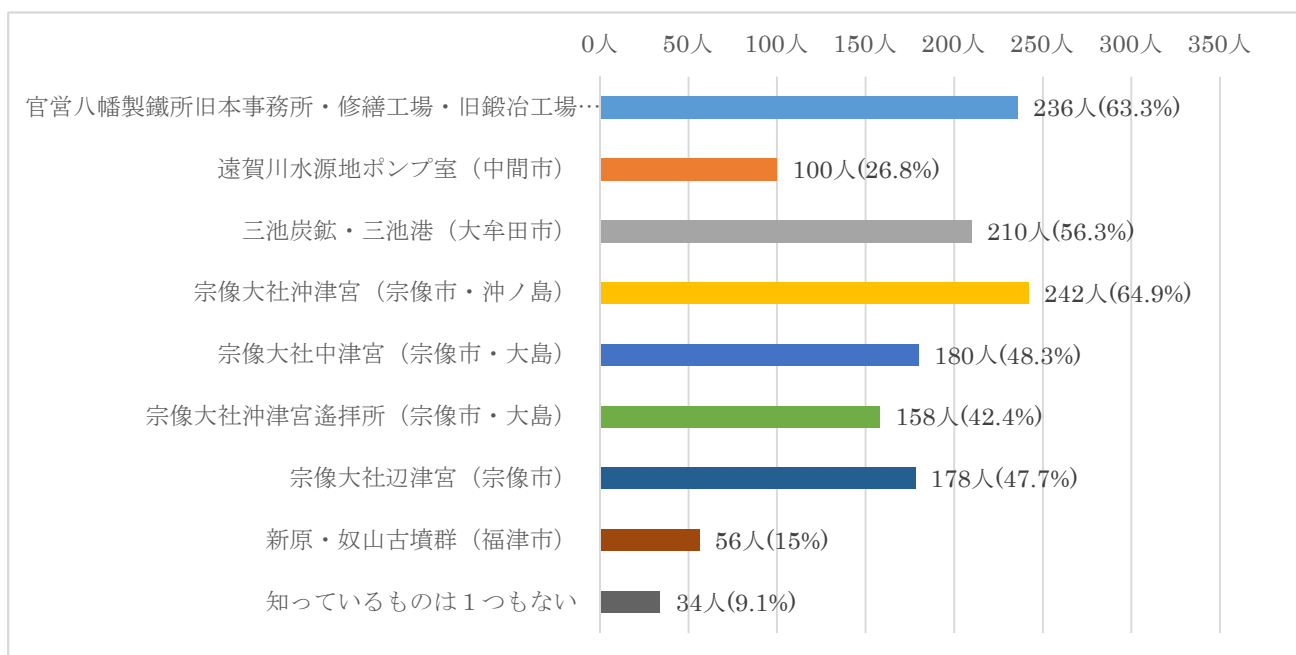
- ・「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の方が「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」より認知度が高い。
- ・約4割が「両世界遺産について、それぞれの名称は聞いたことがある」と回答している。名称だけでなく、その価値も知ってもらえるよう、情報発信に取り組んでいく必要がある。

問2 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」及び「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」について知っている構成資産はありますか。

次の中から当てはまるものを【すべて】選んでください。

(回答者数 373 人複数回答)

1 官営八幡製鐵所旧本事務所・修繕工場・旧鍛冶工場(北九州市)	236 人	63.3%
2 遠賀川水源地ポンプ室(中間市)	100 人	26.8%
3 三池炭鉱・三池港(大牟田市)	210 人	56.3%
4 宗像大社沖津宮(宗像市・沖ノ島)	242 人	64.9%
5 宗像大社中津宮(宗像市・大島)	180 人	48.3%
6 宗像大社沖津宮遙拝所(宗像市・大島)	158 人	42.4%
7 宗像大社辺津宮(宗像市)	178 人	47.7%
8 新原・奴山古墳群(福津市)	56 人	15.0%
9 知っているものは1つもない	34 人	9.1%



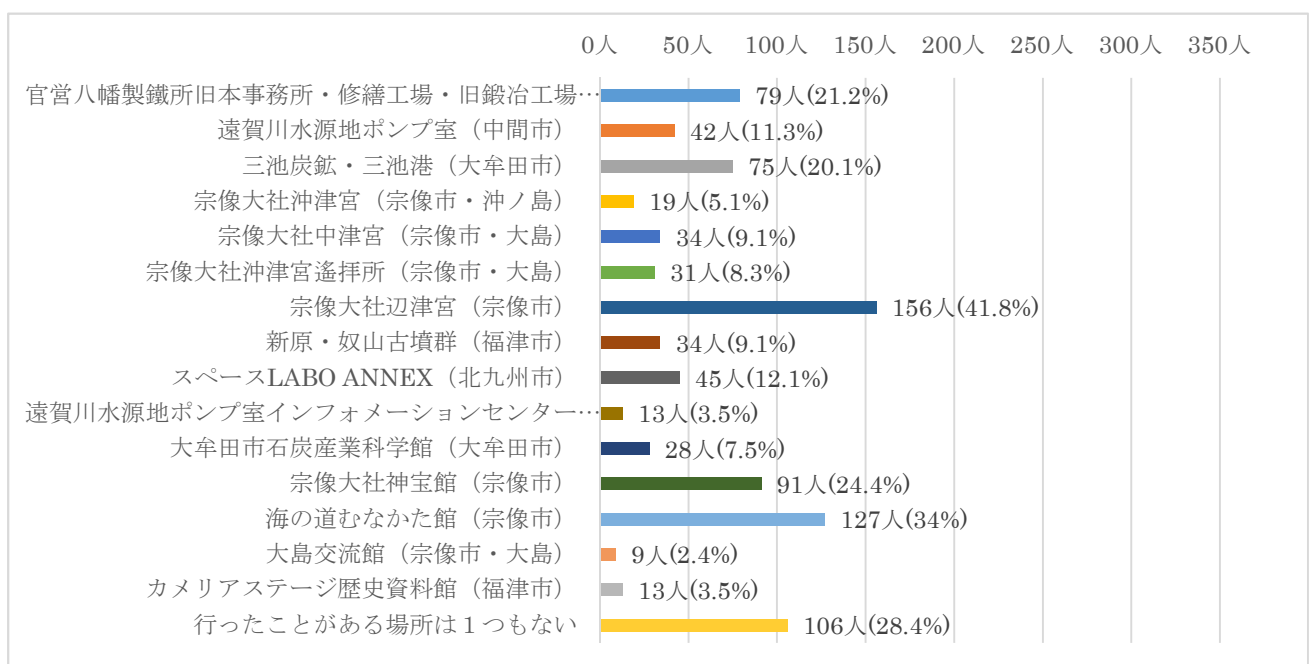
【問2の調査結果より】

・「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」においては中間市の遠賀川水源地ポンプ室、「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」においては福津市の新原・奴山古墳群の認知度が低い。その認知度向上を図るため、それぞれの資産がどのような価値を持つか発信していく必要がある。

問3 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」及び『『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群』の構成資産や関連する展示施設のうち、行ったことがある場所はどこですか。
次の中から当てはまるものを【すべて】選んでください。

(回答者数 373 人複数回答)

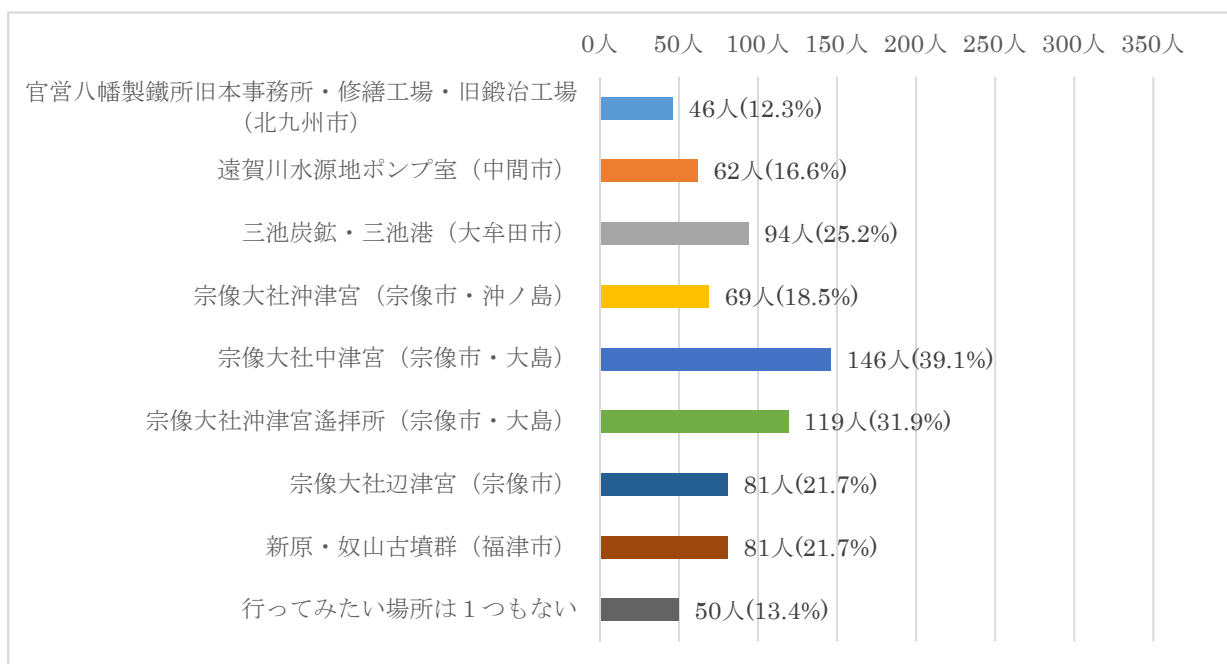
1 官営八幡製鐵所旧本事務所・修繕工場・旧鍛冶工場(北九州市)	79 人	21.2%
2 遠賀川水源地ポンプ室(中間市)	42 人	11.3%
3 三池炭鉱・三池港(大牟田市)	75 人	20.1%
4 宗像大社沖津宮(宗像市・沖ノ島)	19 人	5.1%
5 宗像大社中津宮(宗像市・大島)	34 人	9.1%
6 宗像大社沖津宮遙拝所(宗像市・大島)	31 人	8.3%
7 宗像大社辺津宮(宗像市)	156 人	41.8%
8 新原・奴山古墳群(福津市)	34 人	9.1%
9 スペース LABO ANNEX(北九州市)	45 人	12.1%
10 遠賀川水源地ポンプ室インフォメーションセンター(中間市)	13 人	3.5%
11 大牟田市石炭産業科学館(大牟田市)	28 人	7.5%
12 宗像大社神宝館(宗像市)	91 人	24.4%
13 海の道むなかた館(宗像市)	127 人	34.0%
14 大島交流館(宗像市・大島)	9 人	2.4%
15 カメリアステージ歴史資料館(福津市)	13 人	2.5%
16 行ったことがある場所は1つもない	106 人	28.4%



問4 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」及び「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の構成資産のうち、今後行ってみたい場所はありますか。次の中から最も当てはまるものを【すべて】選んでください。

(回答者数 373 人複数回答)

1 官営八幡製鐵所旧本事務所・修繕工場・旧鍛冶工場(北九州市)	46 人	12.3%
2 遠賀川水源地ポンプ室(中間市)	62 人	16.6%
3 三池炭鉱・三池港(大牟田市)	94 人	25.2%
4 宗像大社沖津宮(宗像市・沖ノ島)	69 人	18.5%
5 宗像大社中津宮(宗像市・大島)	146 人	39.1%
6 宗像大社沖津宮遙拝所(宗像市・大島)	119 人	31.9%
7 宗像大社辺津宮(宗像市)	81 人	21.7%
8 新原・奴山古墳群(福津市)	81 人	21.7%
9 行ってみたい場所は1つもない	50 人	13.4%



【問3、問4の調査結果より】

・両世界遺産の構成資産や関連する展示施設に「行ったことがある場所は1つもない」と約3割が回答しており、来訪促進を図る取組を継続していく必要がある。

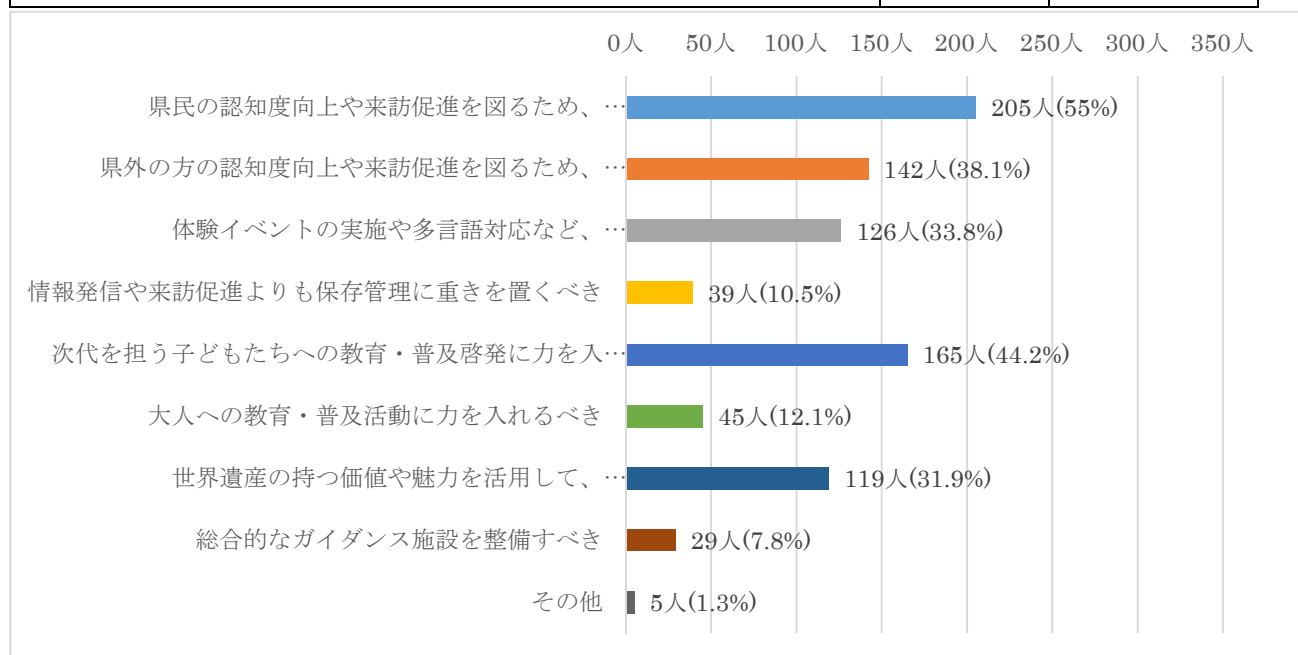
・宗像市・大島の構成資産である宗像大社中津宮や沖津宮遙拝所に「行ったことがある」との回答は1割に満たないのに対し、「行ってみたい」との回答は3割を超え、離島のためアクセスの問題はあるが、潜在的なニーズが確認できた。

・構成資産や関連する展示施設によって行ったことがある場所とない場所の差が大きいことから、両世界遺産の構成資産や関連施設が連携した周遊促進イベントを今後も継続し、相互に誘客を図ることが必要である。

問5 福岡県内の世界遺産について、優先的に取り組んでほしいことは何ですか。
次の中から最も当てはまるものを【3つ以内】選んでください。

(回答者数 373 人複数回答)

1 県民の認知度向上や来訪促進を図るため、もっと情報発信をするべき	205 人	55.0%
2 県外の方の認知度向上や来訪促進を図るため、もっと情報発信をするべき	142 人	38.1%
3 体験イベントの実施や多言語対応など、受入環境の整備に重きを置くべき	126 人	33.8%
4 情報発信や来訪促進よりも保存管理に重きを置くべき	39 人	10.5%
5 次代を担う子どもたちへの教育・普及啓発に力を入れるべき	165 人	44.2%
6 大人への教育・普及活動に力を入れるべき	45 人	12.1%
7 世界遺産の持つ価値や魅力を活用して、地域に貢献する人材や組織の育成に力を入れるべき	119 人	31.9%
8 総合的なガイダンス施設を整備すべき	29 人	7.8%
9 その他	5 人	1.3%



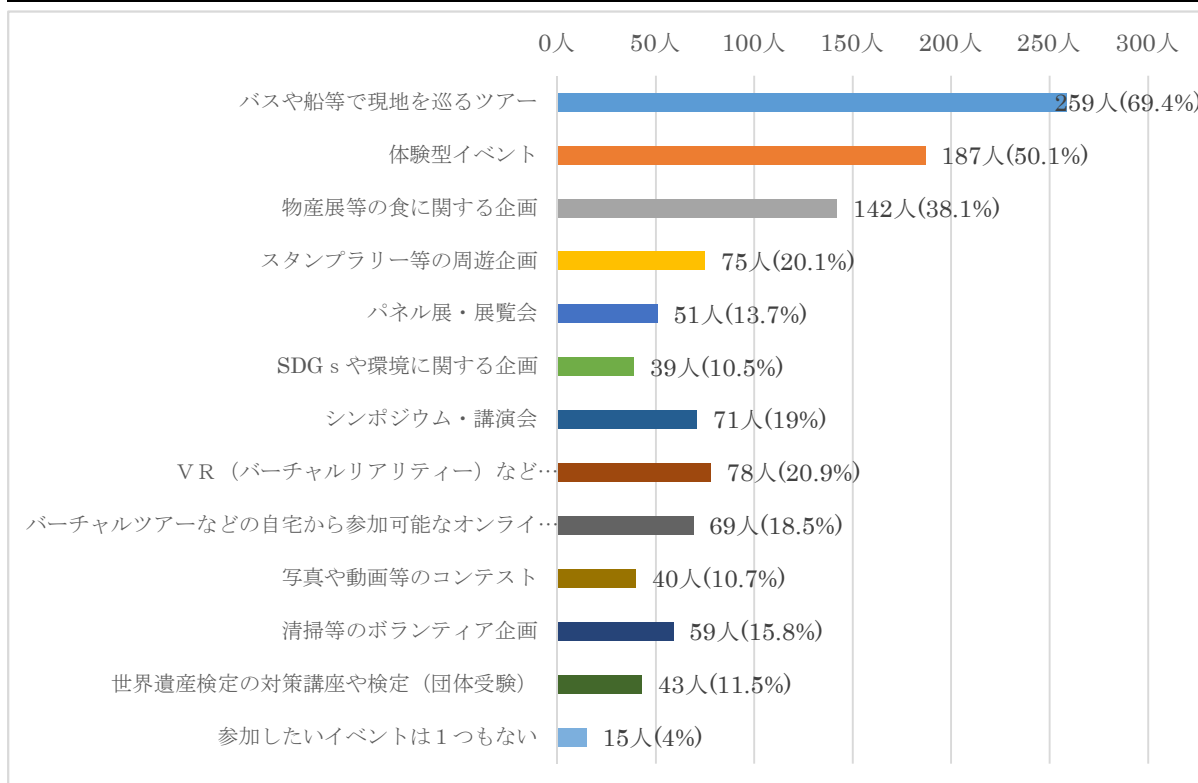
【問5の調査結果より】

- ・「認知度向上や来訪促進を図るため、もっと情報発信をするべき」との回答が多いことから、引き続き県内外に向けた情報発信が求められている。
- ・「次代を担う子どもたちへの教育・普及啓発に力を入れるべき」との回答が4割を超えることから、子どもが楽しみながら世界遺産について学ぶための取組を今後も継続していく必要がある。
- ・多言語対応等の受入環境の整備や、地域に貢献する人材や組織の育成が必要との回答も3割を超えることから、今後も地元と世界遺産の価値を共有し、連携した取り組みが求められている。
- ・総合的なガイダンス施設を整備すべきとの回答は1割に満たない結果となった。

問6 今後世界遺産に関するイベント等が開催されたら参加したいものはありますか。
次の中から当てはまるものを【すべて】選んでください。

(回答者数 373 人複数回答)

1 バスや船等で現地を巡るツアー	259 人	69.4%
2 体験型イベント	187 人	50.1%
3 物産展等の食に関する企画	142 人	38.1%
4 スタンプラリー等の周遊企画	75 人	20.1%
5 パネル展・展覧会	51 人	13.7%
6 SDGsや環境に関する企画	39 人	10.5%
7 シンポジウム・講演会	71 人	19%
8 VR(バーチャルリアリティー)などデジタル技術を活用した企画	78 人	20.9%
9 バーチャルツアーなどの自宅から参加可能なオンライン企画	69 人	18.5%
10 写真や動画等のコンテスト	40 人	10.7%
11 清掃等のボランティア企画	59 人	15.8%
12 世界遺産検定の対策講座や検定(団体受験)	43 人	11.5%
13 参加したいイベントは1つもない	15 人	4%



【問6の調査結果より】

- ・ツアーや体験型イベントなど、世界遺産を身近・間近に感じられるイベントへの需要が大きい。
- ・パネル展・展覧会、シンポジウム・講演会、検定など、世界遺産について深掘して学ぶ、学術的な取組の継続も求められている。
- ・VRなどのデジタル技術を活用した企画やオンライン企画にも参加したいとの回答が2割程度あった。

問7 福岡県の世界遺産について、これまでの設問以外意見がありますか。

ある場合は、その内容を具体的に入力してください。

【一部抜粋(回答者数 126人)】

【世界遺産の価値、情報発信、来訪促進等について】

・当たり前前に存在していて特に意識せず日々を過ごしているため、もっと世界遺産であること、どうして世界遺産になっているのかその魅力に触れられるような広報をしてほしい。

興味のある人は知っているが、ない人は聞いたこともない…という状態な気がする。そのために小学校で習って社会科見学で訪問したり、訪問だけでも親子参加にするなどして地道に知っていることが当たり前、になると良いなと思う。

・産業革命遺産は、日本が近代化に向けて挑戦した過程を、技術的・社会的な側面から見る事が出来、沖ノ島関連遺産は、日本が古代から海と関わってきたことを、信仰・文化的な側面から見る事が出来ます。現在は新型コロナウイルス感染症の影響で、難しい状況ですが、次世代を担う子供達に是非見学して、歴史や文化に触れて欲しい。修学旅行の誘致等、積極的なPRに期待しております。

・世界遺産もそれ単体としてあるわけではなく、多くは生活空間の中にあります。生活者も一体となって利益を得られるような企画がいいと思います。(金銭的利益ではなく、例えば自転車レースを開催し、その為の道路整備が車いすやベビーカーにも使いやすくなる、等)。

・世界遺産に認定されているから大切にというより、その遺産自体が地域社会においていかなる意味を持ってきたのかを地域社会で理解していくことが大切ではないかと思います。その意味においては、地域に存在する他の大切な遺産も地域住民が確認し、学ぶような機会を作れると良いのではないかと考えます。

・ユネスコの世界遺産登録に関わらず、地域として大切な歴史的なものは大切に保存し後世へと伝え受け継いでいく必要があると思います。ユネスコなどの認証に頼らずに日本独自で大切なものを守っていく、福岡県にはそのような発信をしていただきたいです。

・世界遺産への登録が県民にどのような負担を強いて、どのような利益を生んでいるのかがわからない。もっとわかりやすく大切にできる理由を提示してほしいです。

・世界遺産の名称にとっつきにくさ、理解のしにくさがあるように思う。分かりやすいキャッチコピーのようなものがあると内容への理解や興味が出てくるのではないかと思った。

・次世代に残していくために、どのような維持保存活動を行っているかの情報発信をもっとすべきと思う。その遺産自体の魅力を発信するのと同様もしくはそれ以上の、価値の発信になるのではないか。(遺産とそれを守ろうとする地域・人々のブランド向上に繋がる)

・世界に羽ばたいた時故郷である福岡の世界遺産くらいは説明できる位の教育を子供の頃から教えるべきだと思います。

・世界遺産の活用方法がよくわかりません。観光資源にするのか？歴史学習の礎にするのか？…等。登録されました、すごいですね！で終わっている感がある。

・世界遺産登録がゴールになっただけのように感じました。広報誌等でも登録する前は特集や告知が頻繁だったが今広報誌には、掲載をあまり見かけません。色んなところとコラボするなどしてもっとアピールが必要だと思われます。

<p>・世界遺産については、県民よりも海外の方のほうが関心があるかと思います。インバウンド向けのツアーを官民で計画し、実行してみたいかでしょうか。そうすると、県民も「自分たちのまちに世界遺産がある」ということを誇りに感じ、自ら PR するようになるかと思います。また、学術的なシンポジウムや講演会をして、世界遺産の価値を感じられる場があればぜひ行ってみたいと思います。</p>
<p>・世界遺産となると観光客が多くなりすぎて景観の維持など管理が大変になりそうだと感じますが、観光客が増えるならそれに応じて地元の雇用促進なども兼ねて地域や子供たちを巻き込んだ事業として発展出来ると良いと思います。</p>
<p>・『『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群』はお菓子とのコラボなど、子どもにも目につきやすく認知しやすいアピールがされていていいと思いますが、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」についてはあまりぱっとしないという印象があります。</p>
<p>・世界遺産の数が増えてしまっただけで相対的に個々の世界遺産の価値が薄れてしまうという考え方もありますが、県内に世界遺産があることは素晴らしいことだと思います。福岡県民はそのことを誇りに思うと同時に、維持・管理していく責任が伴うという事を自覚し、世界遺産を訪れたり、友人知人に広めたりしていくと良いのではないかと考えます。</p>
<p>・世界遺産のインターネットによる充実した情報発信をお願いします。ネットでも情報の一元化してください。色々検索せずとも、すべての情報が網羅されるよう。</p>
<p>・ニュースなどで見て名前は聞いた事があるが、あえて訪れることはなかったので行きたいと思えるようになるにはと、考えると。私なら美味しい食事に興味をさらに感じるので… (魚、果物、アルコール、パンなどのワードには特に注目したくなります。) そこでしか食べられない、その季節ならではの食材なども合わせて発信してもらえると良いと思う。 福岡なら世界遺産にちなんだお土産があるよって他県の友人に送れるとよい</p>
<p>・貴重性や魅力についてアニメや映画やゲームなど物語を実感できるような面白い企画が欲しい。特に沖ノ島については現地に入れないうえに。</p>
<p>・なにかのアニメーション作品とタイアップしたり、コラボレーションしたりしたらどうでしょうか。オタクの発信力、財力はとても大きいです。</p>
<p>・市内の天神ビッグバンとの連携をすれば昼は、観光、夜は、飲食宿泊と、固定された収益が見込めると思う。</p>
<p>・世界遺産巡りマップなどを駅やバスセンターに置けば観光がしやすくなると思います。1日でもどのくらい世界遺産を回ることができるのか、県外の方は特に時間配分がわからないと思うので、交通機関や移動にかかる所要時間なども記載すれば計画が立てやすく、世界遺産を巡る意欲が湧くと思います。</p>
<p>・もっと世界遺産に足を運んで貰えるように、周辺環境及び循環バス等交通の便も整えて観光客が沢山来て、地域が発達する仕組み作りがされるといいと思う。</p>
<p>・実際に行ってみて 地図や駐車場 所要時間などの案内が欲しかったです。</p>
<p>・一番人が集まるのが祭りなので、やはり祭りと同時に発信するのが早いのでは。祭りとコラボして何か特典があると嬉しいですね。他には、県内の世界遺産を巡って交通費の割引を受けられるとか。駅からの無料シャトルバスが1日1便あるとかでも嬉しいかもです。</p>

【「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」について】

・産業革命遺産については、その多くが九州・山口に集中していることから、関係県・団体等と連携して様々なイベントを開催しその遺産の独自性あるいは関連性を認識する機会が求められていると思います。文化財は保存も重要だと思いますが、それ以上に活用することが求められる時代だと思います。

・遠賀川水源地ポンプ場に行ったが、そこに施設があるだけ。遺産であるので昔の状態で現存させることは必要だが、そこに人が来てもらうための目玉的なものや魅力的な内容が必要。(人がいない所に人は集まらない)

・近現代は歴史でも最後になり飛ばされたりとあまり詳しくない人も多いと思います。ましてやきらびやかでも壮大でもないの、PR は工夫が必要だと思います。先日テレビでカードを集めるイベントがやってると紹介されていましたが、とても魅力的なのに期間が短く今から参加しても…という感じだったのでもっとしっかりPRしてくれたら参加したかったのにと思いました。

世界遺産があるのだから、観光に活用しても良いと思います。その為には、もっと雰囲気作りが大切だと考えています。三池炭鉱跡地に行くと、レンガ造りの建造物が目を引きませんが、お土産売り場なのか物産館なのかは普通の外観で残念です。そこは揃えて外観だけでもレンガ造りでしょう。そういう雰囲気作りのセンスが絶望的に足りないと思います。世界遺産に登録する事で何をしたいのかよく分かりません。もし建造物や当時の作業場を来世へ届け続けたいのであれば、当時を学ぶ為だけではなくて、楽しく訪れるように現在からその時代へとタイムスリップできる工夫や演出が必要だと思うし、町全体で世界遺産があるという雰囲気の匂わせ方もある方が、観光の人や地元の方はワクワクしませんか？炭鉱電車のレールも撤去されてしまいましたが、レールを活用して炭鉱トロッコ電車で市内観光なんてあったら活気づくだろうなって考えていました。レール復活を熱望します。

【『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群』について】

・大島の中津宮、遙拝所、交流館等、現地のオルレに参加して大変良かった思い出があります。特に交流館の方の熱心な説明と映像による解説は良かったです。もっと地域内外にPR を促進すべきです。

・新原・奴山古墳群に行ってみました。説明の看板も何もなくてガッカリしました。ビデオ等を作成して、教育現場で県内の価値を伝えるのは効果的かと。

・FM 福岡と共作した神宿る島のラジオドラマは、とても面白く福岡の世界遺産について効果的に紹介している。そのようなメディアを活かした紹介が若者の視線を捉えるきっかけになるかもしれない。

【問7の調査結果より】

・世界遺産の保存・活用に向けてどのような取り組みを実施すべきか等について、様々な意見が得られた。

・特に「もっと世界遺産であること、どうして世界遺産になっているのかその魅力に触れられるような広報をしてほしい。」など、情報発信を求める意見が多かった。

・そのほか、子どもたちへの教育・普及啓発、地域との連携や、観光の受入環境整備、保存管理とその発信を求める意見もあった。

・これらの意見を踏まえ、世界遺産の保存・活用の取り組みを今後も継続・発信していくことが求められている。

自然との共生について（回答者 373 人）

【調査の目的】

県では、**人と自然が共生する社会（※1）**づくりを進めています。そこで、行政だけではなく、県民の皆さんや、企業、NPO・ボランティア等の多様な主体によって**生物多様性（※2）**の保全と持続可能な利用に関する施策を推進するため、令和4年3月に「福岡県生物多様性戦略 2022-2026」を策定しました。つきましては、県民の皆さんに、県の生物多様性保全の取組がどこまで浸透しているか、また、生物多様性保全についての考え方等をお聴きし、戦略推進の参考資料とさせていただきます。

※1 人と自然が共生する社会（自然共生社会）とは

人と自然（生きもの）が共に生き、自然からの恵みを持続的に受け続けることができる社会

※2 生物多様性とは

私たちの住む世界には、森林、草原、川、海など多様な自然があり、その中で、哺乳類、鳥、昆虫、魚など多種多様な生きものが、「食べる－食べられる」の関係をはじめ、様々な「つながり」を持って生きている状態

（環境部自然環境課）

問 1

「生物多様性」の認知度

項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計	割合
① 内容をよく知っている	1	6	4	4	4	1	2	22	5.9%
② 内容をある程度知っている	4	6	17	15	16	26	9	93	24.9%
③ 言葉を聞いたことがあり、内容をイメージできる	4	25	16	23	20	26	8	122	32.7%
④ 言葉を聞いたことはあるが、内容をイメージできない	1	3	11	19	17	18	4	73	19.6%
⑤ 全く知らない	0	10	15	11	10	13	4	63	16.9%

※R3年度までは「③言葉を聞いたことがある」「④全く知らない」としていたが、R4年度から設問を上記のとおり変更し、認知度は①～②の合計から①～③の合計と整理した。

<直近5年間の福岡県における生物多様性の認知度の推移>

項目	2019(R1)年度		2020(R2)年度		2021(R3)年度		2022(R4)年度		2023(R5)年度	
	人	割合	人	割合	人	割合	人	割合	人	割合
① 内容をよく知っている	34	9.7%	37	10.1%	29	8.1%	43	11.8%	22	5.9%
② 内容をある程度知っている	98	27.8%	106	28.9%	104	28.9%	86	23.6%	93	24.9%
③ 言葉を聞いたことがある(R3年度まで)	121	34.4%	129	35.1%	141	39.2%				
③ 言葉を聞いたことがあり、内容をイメージできる							106	29.0%	122	32.7%
④ 言葉を聞いたことはあるが、内容をイメージできない							65	17.8%	73	19.6%
⑤ 全く知らない	99	28.1%	95	25.9%	86	23.9%	65	17.8%	63	16.9%
合計	352	100.0%	367	100.0%	360	100.0%	365	100.0%	373	100.0%

<参考>

県政モニターアンケートによる生物多様性認知度の推移

(H23年度は生物多様性戦略策定時の数値、R4年度から認知度の設定を見直し)

調査年度	認知度 合計	(内訳)		
		①	②	③
平成23年	33.0%	7.5%	25.5%	
平成26年	39.3%	6.2%	33.1%	
平成27年	43.4%	11.5%	31.9%	
平成28年	39.5%	11.8%	27.7%	
平成29年	38.1%	11.2%	26.9%	
平成30年	32.0%	9.9%	22.1%	
令和元年	37.5%	9.7%	27.8%	
令和2年	39.0%	10.1%	28.9%	
令和3年	37.0%	8.1%	28.9%	
令和4年	64.4%	11.8%	23.6%	29.0%
令和5年	63.5%	5.9%	24.9%	32.7%

問2

生物多様性に配慮した行動として行っていること（2つまで回答可）

項目	件数	割合
旬のもの、地元のものを選んで購入する	218	33.3%
節電やアイドリングストップなど地球温暖化対策に取り組む	141	21.5%
身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう	89	13.6%
生きものを最後まで責任を持って育てる	94	14.4%
生物多様性や環境に配慮している企業の商品やサービスを優先的に選ぶ	35	5.3%
自然や生きものについて、家族や友人と話し合う	28	4.3%
エコツアー(ガイドによる自然体験)に参加する	23	3.5%
生物多様性に関わる観察・調査・保全・再生などの活動に参加する	19	2.9%
特に行いたいとは思わない	6	0.9%
その他	2	0.3%

<特に行いたいとは思わないを選んだ理由>

- ・興味がない
- ・生物多様性を特に意識した行動は行わない。自然破壊などしてはならないことでなければ問題無いのではと思っています。
- ・特に行いたいとは思わないわけではないが、上記の設問のような事ではないと思うし、特に行いたいものがないだけです。
- ・初めて耳にした言葉でまだピンときてないから。
- ・犬の散歩中にアライグマなど見かけるようになり、外来種の繁殖のほうの問題となっていると思います。そちらの対策が最重要ではないですか？ ※筑豊地方
- ・このことの必要性が不明 等

<その他の回答>

- ・農家ですが自分達で雑草や野菜の皮等から肥料を作り種までとる(固定種)
- ・生物多様性にしろ自然破壊にしろ、中心にいたのは人間であり、人間のエゴだから、自然や動物のために人間の生活の仕方生き方行動を個々が見直すきっかけづくりが必要

問3

自然共生社会の実現を目指していく上で、県が重点的に取り組むべきこと
(3つまで回答可)

項目	件数	割合
身近な野生生物(ホタル、ツバメなど)や里地里山といった身近な自然の保全	235	24.4%
希少な野生動植物やその生息地の保全・保護	151	15.7%
野生鳥獣(シカ、イノシシなど)や外来生物による被害の防止	129	13.4%
環境に配慮した公共工事の推進	129	13.4%
環境教育の充実	113	11.7%
生物多様性に関する各種情報の発信・提供(希少種・外来種を含む生きもの全般の情報、県内で活動する保全団体の情報、環境啓発資料、県の施策等)	88	9.1%
生物多様性の保全に取り組む民間団体への支援	58	6.0%
生物多様性保全の取組を進めるための科学的なデータの集積や調査・研究	45	4.7%
分からない	10	1.0%
その他	4	0.4%

<その他の回答>

- ・各個人や各家庭や各職場で日常的に実践できる事(自然共生社会の実現につながる事)を具体的に示して、それがどのようにつながっているかも理解してもらう事の紹介を行い、「日常生活と自然共生社会実現」の距離を縮めて自分事として参加者であることを意識させる活動が必要。
- ・日本にはそもそも神道の考えがあるため子どもへ日本人としての教育を重視すれば自ず

と実現に向かうのではないのでしょうか。

- ・自然、山、川を残す。住宅街を増やし過ぎないでくれ
- ・実際に増えると困ってしまう外来種の駆除方法

問4

生物多様性の保全等について、地域での自主的な取組を推進するために、県はどのようなことを支援すればよいか。

項目	件数	割合
誰でも取り組めるような生物多様性保全活動のためのリーフレットを作成し、周知・配布する	111	29.8%
地域の活動に対して資金等を助成する	99	26.5%
市町村やNPO・事業者等に対して生物多様性保全活動への助言や技術指導を行う	66	17.7%
地域の活動に対して生物多様性に精通した人材を紹介・派遣する	48	12.9%
生物多様性に精通した人材を育成するための研修会を開催する	41	11.0%
その他(次の設問で具体的に入力してください。)	8	2.1%

<その他の回答>

- ・誰でも取り組めるような生物多様性保全活動のため、SNS での発信(短時間で見やすいわかりやすいもの)今は SNS の時代、若い人は特にインスタとか SNS を見る。簡単に始められるんだし広まりやすいからそういうものをちゃんと活用すべき。
- ・子どもがいる若い世帯にファミリー農園を積極的に貸し出す。また、貸し出しても育児に時間がかかるため、ファミリー農園を手伝ってくれるスタッフを置くなどして、敷居を低く設定する。畑から野菜や動物、虫など学ぶことができます。
- ・自然を残す
- ・具体的には思いつきませんが、上記の設問の例とは違うと思います。もっと積極的で身近な行動・支援が必要と思います。
- ・本当は何をすべきかよくわからない。生活が不便になっても耐えられる覚悟を広めればよいのではないかと？
- ・目的の明確化。エネルギー、資源の節約には賛成ですが、安易に地球温暖化と繋げるのはいかがなものなのでしょうか。国から降りてくることを鵜呑みせず、科学的根拠を示して

ほしい。

- ・生物の繁殖分布や科学的情報をネットで検索できるよう研究し公開すべきだと思います。

問5

条件付特定外来生物の規制の内容等の把握。

項目	件数	割合
全く知らない	163	43.7%
条件付特定外来生物に指定されたことは知っている	96	25.7%
規制の内容をある程度知っている	86	23.1%
規制の内容をよく知っている	28	7.5%

問6

地域の自然環境に大きな影響を与え、生物多様性を脅かすおそれのある侵略的外来種の中で、優先的に対策が必要な種（2つまで選択可）

項目	件数	割合
セアカゴケグモ	184	29.4%
オオクチバス(通称:ブラックバス)	121	19.4%
アライグマ	109	17.4%
アカミミガメ(通称:ミドリガメ)	85	13.6%
アメリカザリガニ	57	9.1%
水生植物(ブラジルチドメグサ、ナガエツルノゲイトウ 等)	36	5.8%
その他(次の設問で具体的に入力してください。)	22	3.5%
オオキンケイギク	11	1.8%

<その他の回答>

ツマアカスズメバチ1、ヒアリ2、イノシシ2、アフリカマイマイ1、ジャンボタニシ3、スズメバチ1、ハクビシン1、雑草1、オレンジと黄色の中間のような花(種不明)1、不明、特になし9

問7

これまでの設問以外での御意見

※特になしも含めて105件の御意見をいただき、順不動で掲載します。

- ・北九州は便利な街ですが身近に自然もたくさんある恵まれた土地だと感じています。私達家族は休日自然活動をするのが好きなのですが、人によっては同じ北九州市民でも、身近な自然を感じる事がほとんどない人が多いです。自然の中に行く機会がないとsdgsや自然環境の話をしてピンとこないと思うので、難しい話をするよりも行ってみることが自然との共生を理解するのに一番有効だと感じます。
- ・特にありません。あまり考えたことがないので意見が言えません。これから考えていこうと思います。
- ・よく周知してない
- ・住いの地域の自然環境や農作物等が被害を受けている事を知る機会がないのが、県民に広く課題と認識しづらい要素の一つではないかと思いました。（「池の水全部抜いた」というTV番組ぐらいしか、この手の情報を直接被害者ではない人へも広く認知させているものは浮かばないです）
- ・特定外来生物や侵略的外来種にあたる動物や植物は何なのか、また、その見た目などほとんど知らない人が多いと思う。（メディアで出るものや有名なもの【アライグマ、セアカゴケグモ等】しか、知らない人が多いと思う）道で見つけてもそれが生物多様性を脅かすものかどうかかわからないと思うので、見た目や名前も周知したほうが良いと思う。
- ・あまり深く考えたことがない問題なので、知っておかなければいけないという認識が生まれれば勉強するかと思います。
- ・海も山も自然がどんどん失われていることを憂慮しています。温暖化をくい止めることは県単位ではどうにもならないかも知れませんが出来るだけ環境保全を進めてほしい。
- ・特になし。
- ・生物に関して、スズメバチなど危険な生物の駆除に力を入れてください。
- ・今後も社会を持続させるためには、自然との共生が必要であることを理解し、実践するよう、幼少期からの学習が大切であると思います。
- ・侵略的外来種の駆除を、地域活動で取り組めるよう指導等したら良いと思う。
- ・なし
- ・生物多様性を脅かすおそれのある侵略的外来種といっても、なかなか分からない。チラシや動画を作って、もっと県民に分かりやすく知らせてほしい。
- ・アライグマ、オオクチバス、オオフサモ等々、多くの要対策外来種を根絶させ、古来からの日本種を守る必要があります。また、自然との共生に関し、幼少期から自然保護活動や環境教育に参加する機会を増やし、自然の価値や問題について学ぶ必要があると思われまます。
- ・外来種も人が持ち込んだのが原因であり、取り締まりなど強化すべきだと思います。
- ・さいきん無造作に木が切られたり、雑木林が開発されているのを見る。公園などの樹木の枝を切ることは以前から見かけていましたが、さいきん本当に無造作で後の枝振りが

乱れてたり、幹が弱ってるのを見ると自然に対して配慮できる、職人肌の人が居なくなってきたようです。自然に関係する事業者にもっと意識を高めて欲しいです。身近に、子どもが自然と触れる場所がどんどん減っているのも気になるのと北九州では自然豊かなキャンプ場が無くなるようですが、これは子どものために公共のものとして維持して欲しいです。

- ホタルなど時期によっては興味がありますがその他はほとんど知りません。この機会に学んでいけたらと思っています。
- 特になし
- 人間が住処を奪ったがために害獣となってしまった動物を考えると共生の難しさを感じます。でも、外来種を野に放つという身勝手な行動は本当に慎んで欲しいと思います。知らずに放つ人もやはりいると思うので大々的に啓発して欲しいことです。
- 荒れた山林や耕作放棄地など今後も高齢化に伴い増えてくる。自然災害が年々厳しくなる中、被害が更に拡大し手に負えなくなると思う。地球温暖化は、喫緊の課題であり国、県、個人が出来る事からすぐにでも行うことが重要。
- 耕作放棄地が多くなり地域でもなかなか声をあげられずイノシシが人家近くを夜中に耕作放棄地に出てきたりしている実態がある。どこに相談に言ったらよいのか、わからない。
- 特にありません。
- 条例等でどこまでできるかわかりませんが、むやみに外来種を買うことは規制したほうが良いと思います
- ジャンボタニシも田植え時期にはとても困るものである。植えたばかりの苗を食い荒らされている。これも外来生物。被害を受けている。バスや亀の外来種にも近くの遠賀川でもいるだろうから、生態系が心配である。
- ほかに外来生物を見たことがあるか？の質問があってもよかったのでは？
- 自然との共生について考えたことのなかったことに気がつきました。貴重な機会をありがとうございました。
- 生物多様性の保全について、問25のような支援のどれかではなく、どの項目も重要と考えられる（設問では、お金がなくては動くものも動かないことを考え1にした）。しかも、これには「何かをつくって or 一年やって終わり」ではなく、継続的な働きかけが必要だと思います。新宮町も、ビオトープを町内に一ヶ所作り、その後は継続的な調査もなされずのようです。このような状況では、なぜ「多様性の保全が重要なのか」今後は担う子どもたちへ伝えることができないのではないのでしょうか。
- 特にありません
- 人間が飼えなくなった外来種を自然界に放ってしまうことが後をたたない現在、勝手に放つことは法律違反だし自然界を壊すことになることを幼少期から小中学生へ教育を通して伝えていく活動を続けていってほしいです。
- 福岡市南区では、数年前から猿の出没が目撃されている。福岡市南部は急激な人口急増とともに山林が宅地開発した経緯もあり、野生動物の住処が失われている。そのため、野生動物の住処確保と住民安全を維持するためにも専門家による野生動物との共生につ

いて、早急な対処が必要。

- どうも自然との共生は、私には難題だ。台所に出るゴキブリや部屋の蚊・虫をことごとく殺している。蜘蛛なんか「キヤー！」と言って、排除に懸命となる。
- 特にありません。
- 福岡ではどんな外来生物が、被害を与えているのか知らない。
- 共生ということは、相手を尊重するということになると思いますので（人間だけが特別ということではなく）、難しい点も多いと思います。多くの理解と、ある程度の覚悟が求められるのかなと思います（ある程度の生活面の制限や不便さ、我慢、金銭面、等々）。そのようなことを、どう理解を得るかが難しいかと思います。まずは、企業や公共機関から取り組んでいただくなど、成功事例を増やしていければと思います。
- ニュースでたまに聞く事はあるが自身の身近な問題としての意識が薄い。
- 自然と触れ合わずに生活しているので、現状ではまだ興味が持てない。
- 地域ごとの具体的な課題や取り組みを広報してほしいと思います。その上で地域住民が協力、参加出来ることをひとつひとつ実行していくことも大切なことだと思います。
- 人が日常的に捕獲する生き物は、数が減少してしまわないように呼びかける。また、条件付特定外来生物など侵略的外来種は、何が当てはまるのかをポスター等で名前・写真共に広く知らせる。
- 漠然としか理解できていないので、知る機会があるといいです。
- 子供の頃から教えた方がいいと思います
- これも上記同様単体ではなく、都市計画の中に織り込み、教育を行う必要を感じます。ただ、エビデンスがはっきりしない物や一方的なエビデンスに偏っているもの、プロパガンダ的なエビデンスに振り回されているものもありますので、しっかりと方向性を見定めて対応すべきと考えます。
- 特にございません。
- 自然との共生は農業・地産地消の推進とも密接につながるものと思われるため、暮らしをよくする方向で戦略的に対応してほしいと思います。（太陽光発電を理由とした大規模な森林伐採など言語道断です）
- 里山のような環境において人口減少等によって山や川の保全が十分に行われなくなるのではないかと。県として自然環境の保護・保全に力を入れて欲しい。
- 福岡の都市部はビルだらけですね。ヒートアイランド現象で暑いです。もっと緑を都市部にも増やしてほしいです。
- ございません
- 自然との共生や生物多様性に関しては年々国民の意識が高まっていると感じています。よりリテラシーを上げるためには、情報発信や説明会等も大切ですが、やはり一番は「体験」だと思います。実際に自然と触れ合うことで、観察することで「美しい」「気持ち良い」という感情が芽生えれば自ずと「この環境を維持したい・改善したい」という想いが芽生えると思います。私は福岡市中央区に住んでいるのですが「大濠公園」「舞鶴公園」「西公園」があるエリアは「海」も近く自然を感じるには素敵な場所だと思います。特に県管轄の西公園については現在、工事・整備が進んでおり、より美しく生まれ変わる

日を楽しみにしております。

- 生態系を壊すのはたいてい、人間の仕業だと思っています。飼えないから捨てる、ちょっとくらいならいいよね、などの軽い気持ちから大変なことになるということを多くの人に理解してほしいです。知っていても「仕方ないから」「かわいそうだけどね」「こんなことするのは自分くらいでしょ」と思う人もいるようで、平気で他人にそう話すのを聞いたことがあります。生態系を壊す行為について周知した上で、やっていることが”犯罪””大罪”であると強く発信していくことが大事なのではないでしょうか。
- この間、白水池公園に散策に行ったら池にもものすごい数のブラックバス、外来魚がいた、餌をやっている人もいた、注意喚起や駆除したほうがいいと思う。
- 既に人間が都合いいように、操作し支配していると思う。自分も虫が苦手だから、勝手だが、ペットを飼ってあらためて人間の身勝手を知りショックだ。今からでも共存出来るよう協力したい
- 地域で駆除に携わる方を補助して下さい。新しい団体を立ち上げるなど、税金の無駄遣いです。ブラックバスやアメリカザリガニは、駆除後食べるなどして活用したらいいと思います。
- よく知らないことだった。
- いまだにスポーツフィッシング目的でブラックバスを放流している人もいると聞いたことがある。どんどん取り締まって欲しい。
- 知識が不足しているので、行政の情報誌等に記載して情報発信してほしい。
- 動物との共存が自然の中で生きる者にとって重要です。
- 自然を人の手でコントロール必要ですか？自然に任せておいてはだめですか？
- 身体に直接危害が及ぶような、ものへの駆除はぜひお願いしたい。スズメバチなどもどうしたらよいか相談出来るような問い合わせを知らせて欲しい。
- 無駄に告知しても興味のない人には響かないと思います。まずは、興味のある人や知識のある人を育てて、そこから少しずつ発信した方が良いと思います。あとは、小学生など柔軟で純粋な子供たちへの教育が重要でしょう。子ども達が家に知識を持ち帰り家族に説明できた方が浸透するだろうし、次世代時にも確実に引き継がれると期待できます。
- この夏からファミリー農園を借りています。近隣の畑の年配方に耕運機で耕してもらったり、植え付け等について教えてもらったりして交流ができています。そこで育った野菜に子どもが興味を抱き、苦手な虫と闘いながら収穫をしてくれました。まさに共存共栄です。また地域の年配の方々との交流ができ、5歳になる子どもが80歳すぎの年長者が交流しています。年配の方からは「若い人たちをもっと読んできて欲しい、つながりを作りたいし、畑を憩いの場にしたい」と言われていますし、その考えには賛成としました。世代間を超えて交流する場を作ることは難しいですが、このような形で横と縦のつながりができました。水道がないため、少々不便ですが「自然との共生」を肌で感じるためにはよい施策のように感じます。
- こういう活動は、個人が単発的に努力しても難しい面があるので、自治体が主導で協力を仰ぎながら行くとより効果があるのではないかと思う。
- 希少動物の保護には、積極的に取り組んで頂きたいと思います。

- ・既存の団体などと提携すると進めやすい
- ・いろいろな要素を含んだテーマだと感じます。例えば外来生物の広がり背景は、何が絡んでいるのか？を考えるだけで随分複雑だと思います。否定的にとらえるのか、仕方ないと思うのか、実害はある程度容認した上で割り切るといった意見もあるでしょう。今以上に海外との交流が進むでしょうから、外来生物が持ち込まれる環境は広まるでしょう。
- ・生物多様性保全、特に外来種、鳥獣被害対策においては人海戦術が必要不可欠なので、状況を周知し、関われる人間の数を増やしていく(例えば非免許所持者がわなを使えるような施策を増やす)といった対策も考えるべきだと思います。外来種のうち侵略的外来種のみが駆除の対象であることを知らず、外来種全般を忌み嫌う人や、逆に外来種駆除全般に不信感を示す人に日常生活ですらよく出会うので、情報の周知もまだまだ足りてないと感じる。また、生物多様性についての知識を十分に持たないまま、間違った対策を施している人や自治体(福岡県内ではない)の話も聞くので、ミクロレベルでは具体的にどのようなことをしていくべきかという知識の周知も必要であると思う
- ・環境が変わってきて人と生物の共生について考えなければならない時期に来ていると思う。県民への情報発信と県民ができる取り組みの呼び掛けが必要かと思います。
- ・外来種を増やさないように定期的に駆除して欲しいです。
- ・近所の川で鯉や鳥に餌をやる人が多く、カラスも増えて、困っています。何度か注意していますが。買い物袋いっぱいの食パンを川にまき、川も汚れ自然環境にも悪いと思います。なにか、CMや広報誌などで、川への餌やりを止めるよう告知してもらいたいです。
- ・ありません。
- ・公共工事等についても、どの点が自然に配慮した設計になっているか情報開示と発信を行っていただきたい。自然との共生については、子供たちへの教育と、現在の活動の発信が鍵だと感じている。
- ・外来種が生態系を脅かしていると思います。可愛いちょっと他の人とは違うものを飼育してみようと軽い気持ちで飼い始める人がいて迷惑だと思います。蜂の駆除は行政の方でやってもらいたいです。
- ・福岡県が自然との共生に力を入れていることは正直知らなかったですが、推進していただけた事は有り難いです。便利な世の中ですが、自然環境に癒やされることも、大事で、トータルで考えると社会生活にも生産性にも一番大切かもしれません。
- ・外来種を安易に搬入する業者等に対し、代表者個人の財産の没収等の罰則の強化が必要と考えます。思い切った制度の改正がない限り、今後も侵略的外来種による被害は増え続けると考えます。
- ・増えすぎたイノシシや鹿は害獣であるし、農家の被害は計り知れない。農家離れが進むと福岡としての農業ブランドに関わると思う。今後も増える傾向にあるのだから駆除の促進を行っても良いのではないかと感じる。
- ・陸上に居て、害になる動植物は、至急的に排除。水中に居る、害になる生物は、メディア、ボランティア団体等の知恵と協力を仰ぐ

- ・外来種ではないが、猪と鹿が増加しており、この対策が急務と思います。
- ・自然保護の点で河川、海岸、森林の環境整備活動を現在以上に積極的に進めてほしい。
- ・動物達を大切にすることは本当に本当に大切なことだと思います。論点がずれていたら申し訳ないのですが、保健所での殺処分を中止していただきたいです。人が怖くて1回噛んだだけなのに殺されたりとても辛く思います。今、いろんな方が保健所に預けられている保護犬を譲渡されており福岡県も広島のように殺処分0になってほしいと思いました。そのために譲渡する会社などができればいいと思いました。
- ・言葉は聞いた事があっても内容まではよくわかっていない。公民館等で講師の話の聞いてみたいです。
- ・実家の横の池に、勝手に釣り人がバスを放して勝手に釣り人の間で有名になっているので迷惑しています。足元と見通しが悪いため滑落して死にかねないうえ、我が家の敷地に勝手に侵入して通っていくので本当に迷惑です。注意をして聞き入れる釣り人がごくまれにいるかいないかです。釣り人もいなくなってほしいし、元から池にいた鯉を全部食い尽くしてしまったバスにもいなくなってほしいです。罰金などで対策をしていただけないでしょうか。
- ・都会でありながら、自然の豊かな福岡で重要な取り組みと感じます。(一時期より蛍が見られなくなった様で残念に思っていました。) 守るものと駆除するもの、やらなければならない事とやってはいけない事を明確にして情報発信してほしいです。老若男女問わず共生の意識が根付くまで、長く地道な活動を期待します。
- ・特に考えたことがないのが問題であると思う。
- ・人間以外の生物に対して寛容な心を持つことが大切であると考えます。人間に害を与えるから対応すべきと安易に捉えるのではなく、その生物がどういう事情でそのような動きをするのかを理解するのかを考えていくことが重要ではないかと考えます。一方で、外国から日本にもたらされた外来種については、日本の環境を崩す危険性を持つものは、徹底した対応を行い、日本の環境を守る必要があると思います。日本の固有の種が絶滅していくことは日本が日本でなくなると考えるからです。
- ・特にありません。
- ・なし
- ・特になし
- ・とくになし
- ・外来種の放流によって在来種が絶滅の淵に追い込まれている。放流するのはだめだと何年も何十年も言ってきたが状態は悪化する一途であるから、放流などに関与したものを一旦、見せしめで検挙すべき。そういった動物を扱ったペットショップにも指導を徹底させ、お祭りでも生物の廃棄所を設けるなどして動物園の餌にする方が良いと思う。そうでないなら、どのように個人で殺処分するのが良いのかを紹介した方が良い。
- ・里山的な小川などのある自然環境を残したり、作る活動が必要だと思います。
- ・これだけ外来種が身近なところで繁殖している状況において、外来種を根絶することは可能なのでしょうか？在来種の保全のための活動など、福岡県が具体的に取り組んでいる活動がよく見えません。どのような目標を設定し、どのような計画で活動を進めている

るのでしょうか？その成果についても共有されているのでしょうか？

- 虫や動物相手では、規制することには限界がありますので、どうにか共存していく方法を模索することがよろしいと思います。
- アライグマ、ブラックバス駆除の為に捕獲された頭数に合わせて報奨金を出す
- オオキンケイギクはこんなによく見かけて可愛い花に癒されているのに、侵略的外来種と知りショックでした。相思鳥もしかり。事程左様に周知がなされていないのは行政の問題だと考えます。メディアにも協力してもらって社会を牽引すべきでしょう。
- なし
- 自然との共生についてより、ソーラーパネルによる森林破壊、また、それによる山の保水力低下からくる水害の方がよっぽど問題。
- あまり身近な問題としてとらえたことがありませんでした。農業や漁業に従事されている方からすると死活問題にもなる重要な事項から優先的に取り組んでいただきたいです。
- 事業が失敗した時の後始末を考えて、新規事業の許認可制度を制定する公共機関が必要です。ジャンボタニシ、テラピア、ライギョなど
- まずは、景観、防災の面からも太陽光パネルの乱立をどうにかしてほしい。観光に力を入れるなら、自然の景観に配慮すべきだと思います。
- ないです
- 環境への負荷を減らす意識付け。身近なところから考える。食べ物を残さず食べる。ゴミ
- 耕作出来ない人や農地等があれば次世代の就農者に購入しやすくしてやる。それが自然を守り環境を守れる第一歩です
- アライグマがこの間、私の実家に屋根裏に住み着いて業者に依頼して退治しましたが、アライグマは、殺しちゃいけないらしいですね。
- 悪の根源は人間であるので人間の意識を変えることが重要。動物は悪くないむしろ被害者
- 東日本に比べ福岡は河川敷や登山道など整備保存されていない。日常のレクリエーションでそれらの自然と触れ合える環境の整備をしてほしい。トイレや水飲み場、駐車場、キャンプ場の整備を総合的に行ってください。
- 特になし
- 在来種は本当に大切です。しかし、外来種もただ駆除すれば良いという安易な考えでは子供たちは、外来種は簡単に殺しても良いと生き物の命を軽視してしまう恐れもあり人間がまいた種なのに生物のせいにしてしまっていることにも疑問を感じています。”
- ハチなど危ない虫を対応して欲しい
- オオクワガタの累代飼育をしています。法律の整備、市民への教育が足りていません。デマ、ウワサが飛び交い野山に廃棄処分したひとがいるそうです。行政ではどのような施策をされるのでしょうか？
- 最近蜂の巣がよくできるが、最初是对応をどうすべきか調べたりしたのであらかじめ周知してもらえると有り難い(変な請求をしてくる業者と繋がりたくない為)
- 自分が住んでいる地域にどんな住む野生動物が住んでいるのか等、殆ど知らない事に気

がつかしました。広報誌などに掲載してほしいです。

- 日頃、あまり気にしてないことだが将来のことを考えれば大切なことなので、まずは、各自が身近に触れる機会を作って増やすことが大事だと思う。
- 害虫が増えてしまったからは退治しにくいので、早めの対策をお願いします。
- 居住地では地域活動として、河川の清掃を行っている。環境を整えることは重要だと思う。教育機関も清掃活動を推進したり、理科教室として自然に触れる機会を少し増やすと、いいと思う。見たこともないものには、興味を持たなくなるので、実際に経験するのが良いと思う。こればかりはオンライン（授業や講義）では得られない目、耳、鼻、手など五感を使うことが、脳に刺激を与えて考えることになると思う。
- 自然と触れ合う機会が少なくなってきたような気がしている昨今で、自然と共生といわれてもピンとこないような人も多いのではないかと思います。個人的にはこれからを担う子供たちにしっかり学んでもらうことが必要なのではないかと思えます。地域や学校でもっと自然と触れ合う機会を作る中で強勢について学べるような仕組みがあるといいなと思えます。
- 重要な課題のように思えるが、知識不足のため、課題解決策を考えることができません。これから勉強していきます。
- 山は削り取られ、木は伐採され続けていることが問題です。そこに住めたはずの生き物のエリアを人間が奪ってる事に心が痛みます。自分たちにも大切な空気や水を綺麗にしてくれているのは山の木々や生き物です。人間だけの世界ではない事、自然との共生の大切さを皆自身が芯から思えるような環境や教育が早急に必要だと思ってます。私は微力ながら植物を育てています。小さなグリーン活動です。
- 特になし
- これからの社会にとって自然との共生は重要な問題ですので是非、やっていただきたい。
- 自然との共生より、温暖化をどうするかが問題
- 父が農作業をしており、アライグマの被害にあうとっていました。自分で縄をつくり、餌を準備し捕獲した場合は市役所に連絡するそうです。以前は夜間に畑で張り込みをしたこともあるそうです。高齢で農作業するだけでも心体の負担があるのに、補助だったり捕獲の器具の貸し出しなど援助があるといいのになと思いました。
- ミドリガメの駆除をお願いいたします
- 日本特定の固有種を守るために、外来種の規制を強化すべきだと思います。
- 特にありません。
- 特定外来種の対策の一環としてペットショップで取り扱いされている動物にきちんと規制はされているのか知りたい。軽い気持ちでその動物を購入した消費者が、何らかの理由でそのまま逃がしたりする事案が発生しているニュースをよく見るから。

令和5年度
県政モニターアンケート調査結果

テーマ：「ふくおか教育月間」について

教育庁教育総務部総務企画課

1.調査の目的

本県では、県民の皆さんに教育に対する関心と理解を一層深めていただくとともに、家庭、学校及び地域社会が連携して本県教育の充実と発展を図るため、毎年11月を「ふくおか教育月間」に定め、著名人による記念講演や児童生徒の発表などを行う記念イベントを開催したり、「ふくおか教育月間」のイメージキャラクター「ミライル」※を活用した啓発チラシを配布したりしています。

皆さんの「ふくおか教育月間」の認知度等についてお聴かせいただき、今後の行政施策の参考とさせていただきたいと思っております。

2.調査時期

令和5年9月15日～令和5年10月3日

※ イメージキャラクター「ミライル」とは

これからの社会にはばたく子どもたちの「翼」をイメージした妖精です。

「ミライル」という名前には、笑顔(スマイル)が溢れる未来(ミライ)

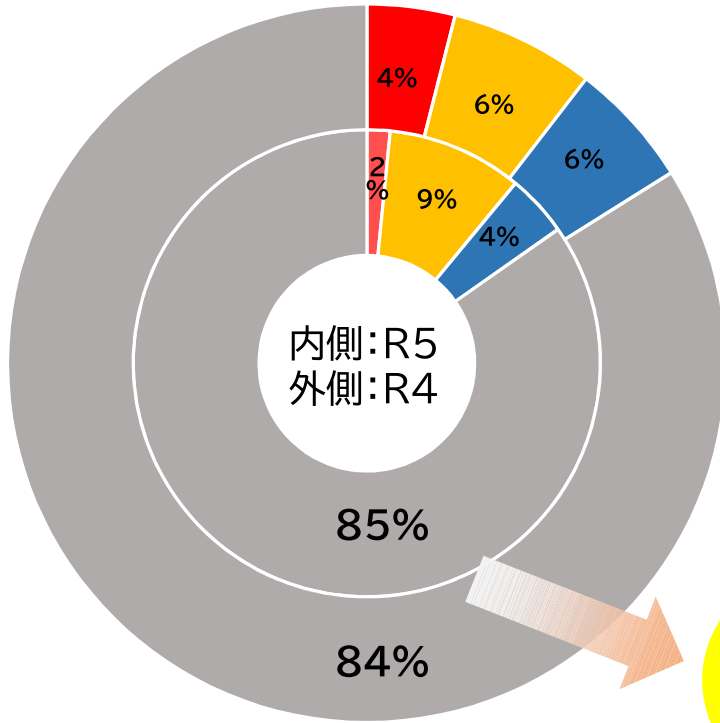
に羽ばたいてほしいという願いが込められています。



問1 「ふくおか教育月間」やイメージキャラクター「ミライル」を知っていますか。

(n=373、選択は1つのみ)

- 1 どちらも知っている
(聞いたことがある)
- 2 「ふくおか教育月間」だけ知っている
(聞いたことがある)
- 3 イメージキャラクター「ミライル」だけ知っている
(見たことがある)
- 4 どちらも知らない



選択肢	人数	割合
1 どちらも知っている(聞いたことがある)	6人	2%
2 「ふくおか教育月間」だけ知っている(聞いたことがある)	35人	9%
3 イメージキャラクター「ミライル」だけ知っている(見たことがある)	16人	4%
4 どちらも知らない	316人	85%

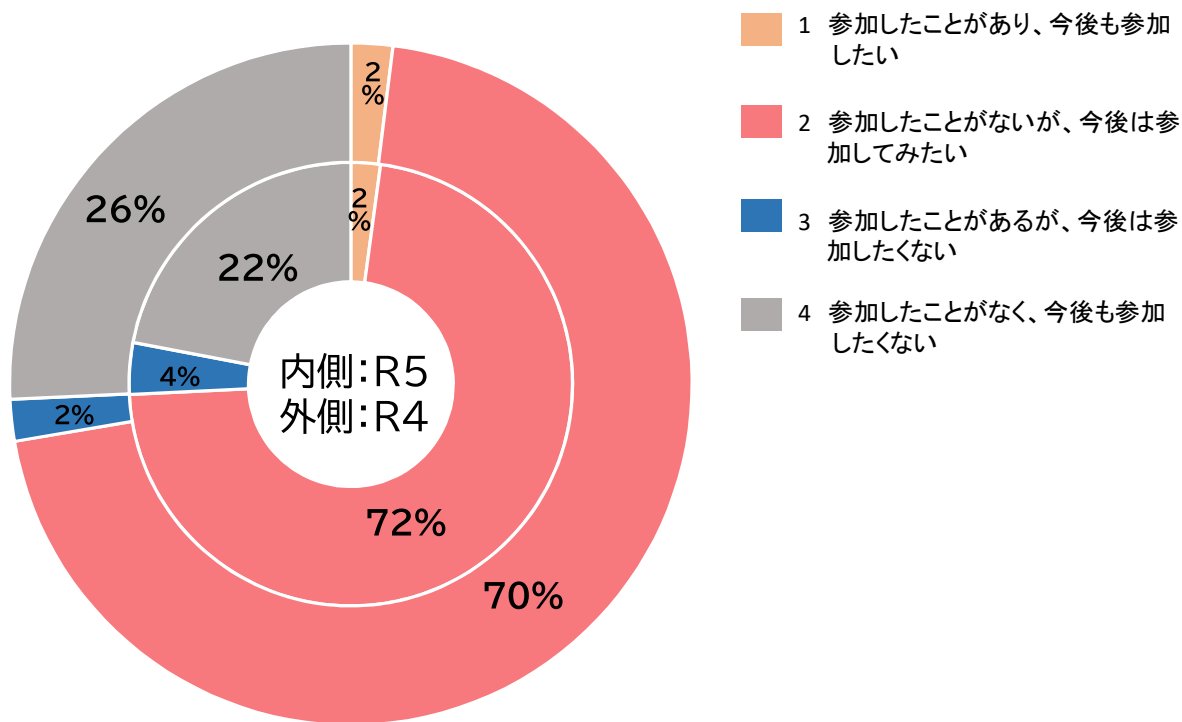
問2 どこで知りましたか。

(問1で[1][2][3]を選んだ場合、n=57、複数選択可)

福岡県のホームページ	27人
新聞広告	12人
WEB広告	12人
「ふくおか教育月間」記念行事のポスター・チラシ	16人
フリーペーパー	5人
学校からの案内	9人
家族・知人からの紹介	2人
その他	3人

問3 「ふくおか教育月間」記念イベントや、学校や地域における教育に関する行事等に参加したいと思いますか。

(n=373、選択は1つのみ)



選択肢	人数	割合
1 参加したことがあるが、今後も参加したい	8人	2%
2 参加したことがないが、今後は参加してみたい	269人	72%
3 参加したことがあるが、今後は参加したくない	14人	4%
4 参加したことがなく、今後も参加したくない	82人	22%

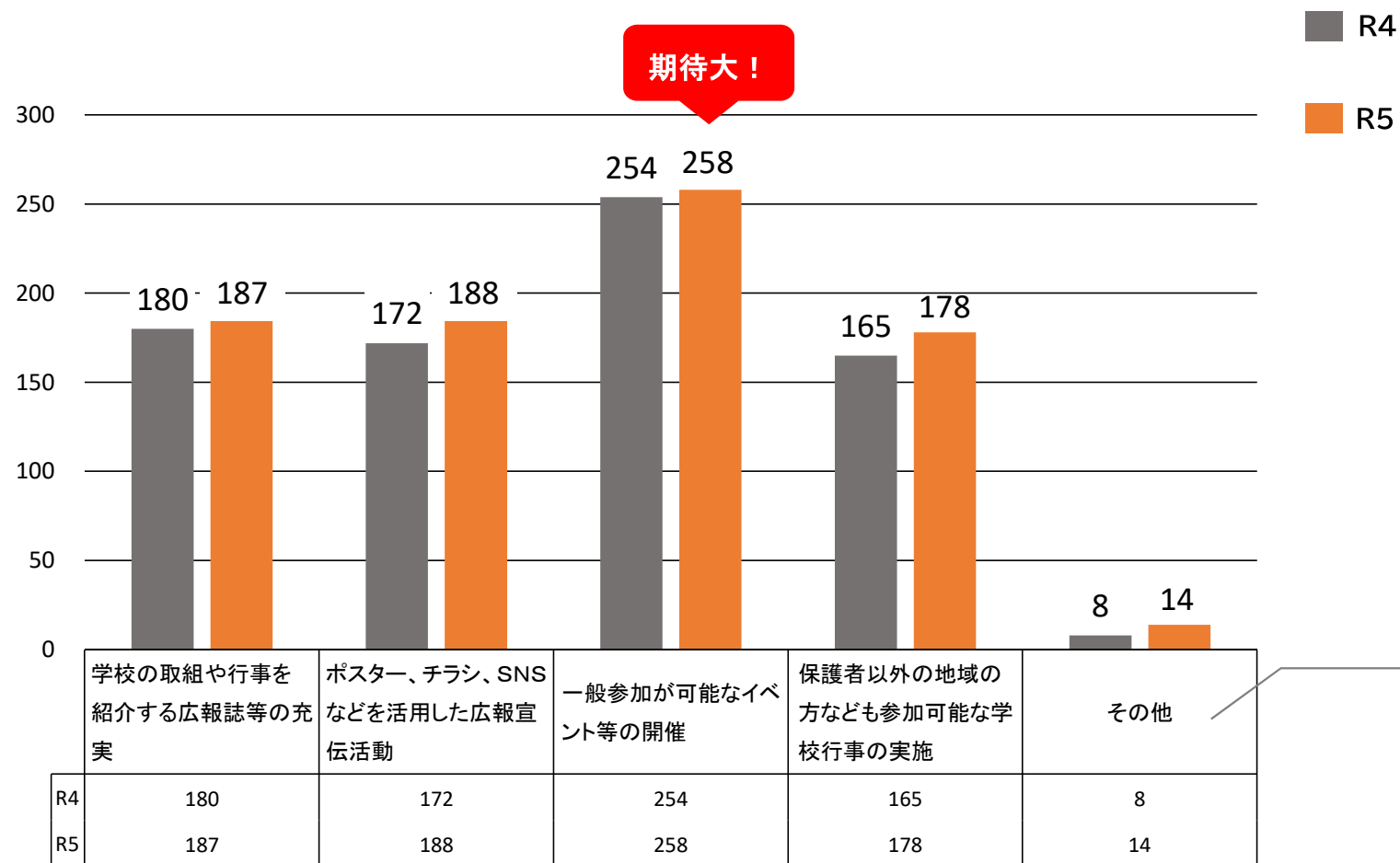
「ふくおか教育月間」記念イベント等に

約7割の方が

参加したい(してみたい)と回答しています

問4 教育に対する関心と理解を深めるために、県に対してどのような施策を期待しますか。 (または有効だと思いますか。)

(n=373、複数選択可)



主な意見(抜粋)

- 地元企業と協働での教育活動の実施
- 県民を巻き込んだ教育についての討論会

問5 「ふくおか教育月間」について、これまでの設問以外に意見がありますか。

(n=123)

「ふくおか教育月間」やイベントについて

- 今初めてこの取り組みやキャラクターを知りました。これから深く知って行って、私自身も勉強しながら子どもと楽しく取り組んでいけたらと思います。これをきっかけに知れて良かったです。
- 大人から子どもまで参加できる内容が良い。講演やシンポジウムは、参加者が時間と場所を運び、参加へのハードルが高くなるため、参加しやすい環境の整備が重要だと感じる。
- 不審者情報も多い中ではありますが、登校班を見守ってくださる地域の方のありがたさも分かっていますので、普段見守ってくださる地域の方が参加できるイベントや表彰があると良いと思います。
- 子どもに伝わるように、今後、日本をどのようにしたいかを考える機会にしてほしいです。
- 「教育」と言っても、どういったことを行っているのか、何が教育に当てはまるのかが分かりづらいと思った。
- 多くの方に参加していただくため、難しい話だけでなく、楽しい、ゲーム感覚、遊び、といったハードルの低いコンテンツも必要ではないかと思えます。また、国内だけでなく、アジアや欧米など国際的な人材も交えてはどうかと思いました。
- 社会全体で子どもたちを教育するという取り組みは素晴らしいと思えます。具体的な成果を広報し、高齢者も参加できるように進めて欲しいと思えます。
- せつかくの教育月間であれば、福岡の歴史文化や、地域の特産物(自然との共生)など、「福岡ならではの教育」について焦点を当てて欲しいと願います。
- 「ミライル」は名前の由来も含めて素敵なキャラクターだと思います。
- 毎年11月だけでなく、定期的に講演やイベント等をした方が、認知度も上がり取り組みが定着して良いと思う。 等

情報発信について

- 全く取り組みを知らなかったのでもっと県や市町村の広報誌で紹介してほしい。
- 子どもがいなくてこういった情報は届きにくいと思った。
- 子どもがいなくて家庭だからなのか、情報が入ってくるのがないです。
- 子どもや孫が近くにいないシニアにとっては学校との縁がない。保護者でなくても学校行事に参加できたり、今の学校の授業を見たい。
- 家庭内では、子どもとの会話がありますので、学校での活動や情報発信をしてもらい、子どもから聞く流れを作っていたらいいです。 等

その他

- 授業参観に参加してもどこがICT教育なのかちょっと分かりません。
- 学校等の教育現場だけに任せることなく、家庭や地域、企業や団体、警察、海保、消防等の公的機関と連携して、教育の質、多様性を高める必要があると思えます。身近な環境だけでなく、様々な文化や価値観に触れることも重要かと思えます。やはり、外国語教育を充実させ、異文化や海外体験なども実施すること大切であると思えます。
- 子どもたちが平等に教育を受けられるように、現場の職員の声を聴いて明るい未来に向かっていける環境を作って欲しいと思えます。そのことに、地域住民として協力していきたいと思えます。
- 教育の現場での課題は、学校内だけでの議論では解消しきれないものがあると思われる。そのため、地域、行政が手を取り合いながら課題解決に向け、動くことができるようなモデルを作ることが必要。
- 現在の学校教育等の子どもに関わる教育内容等について子どもを中心とした意見交換会のような取り組みも必要ではないか。
- 保護者や地域の人に関われる授業があればいい。
- 海外の留学生との交流で語学を学べる機会がほしい。
- 学校の先生の負担につながらないように配慮していくべき。
- 地域社会において、子どもたちにどのような教育をしていくべきかを地域社会が考えていく必要があると思えます。そして、教育に関しては、現在、社会課題の解決に地域社会の連携・共助が重要であることから、社会と個人のつながりが薄れつつあるけれども地域社会と自分自身がつながることが必要であることを子どもたちに理解させることが重要であると思えます。 等